「八幡史学館」資料　第3シリーズ　平成20年

番号+	表題	内容	実施日	講師	備考
	平成２０年度　八幡公民館主催事業				
	八幡公民館主催事業「八幡史学館」募集要項				
1	◎	第１回講座＝飯香岡別当寺の霊応寺と満徳寺	平成20年6月17日	山岸弘明	
		天正18年八幡宮絵図、寛永１０年真言宗本末寺院、年号無記満徳寺境内図、明治6年境内図、満徳寺お札			
		飯香岡八幡宮別当寺、霊応寺と満徳寺			
		①別当と別当寺、②八幡神、③飯香岡八幡宮の創建、④飯香岡八幡宮別当寺の変遷、⑤若宮八幡神社			
		⑥足利義明伝説、⑦別当寺本末と配当、⑧対立する神社と別当寺、⑨新四国88か所、⑩廃仏毀釈による廃寺			
		⑪満徳寺は400年の歴史伝える			
		満徳寺境内の石造物、霊応寺・満徳寺と末寺変遷、満徳寺寺院台帳			
2	◎	第2回講座＝徳川幕府創設期の重臣・本多正信、正純父子と八幡			
		日だまりを　恋しと思ううめもどき日陰の赤を見る人もなく	平成20年8月5日	山岸弘明	
		「君臣水魚の交わり」→配流、「謀臣親子の」の栄光と挫折			
		系図、年表、正純の墓、終焉の地碑、没地横手正純関係の地元紙、天正18年関東8州徳川家臣団所領。寛政譜			
		第1回講座補足説明＝若宮八幡神社との関係、若宮社銅板屋根瓦			
		①小田原落城、秀吉の小田原攻略と上総進攻　②いろは落し上総進攻は記録にも残らない			
		榊原康政書状＝かれこれ６、70、あるいは捨て逃げ、あるいは明渡し、命ばかり詫びをいう。秀吉禁制			
		④八幡宮、潤井戸名主文書で本多家の八幡領を考える、⑤八幡村の所領変遷、⑥家康と「水魚の交わり、智謀と行政手腕の本多正信			
		⑦吊天上事件で失脚、あまりにもさびしい最後　⑧2代にわたる側近永井直勝、尚政、潤井戸城址			
		八幡村領主の変遷			

3	◎	第3回講座　八幡、五所地区の方言、田舎弁	平成20年9月2日	佐倉東雄	
		①方言とは、②いなか弁とは、③俚言とは、④なまりとは、			
		あーてるこったね、あーんが……。市原市内の地名＝あさいこむけ、あんさき……			
4		第４回講座　現地巡見「隣町・浜野を歩く	平成20年11月4日	山岸弘明	
		小湊バス八幡宿駅前～浜野南町移動			
		①隣村浜野の歴史(浜野港、浜野生実蔵屋敷跡、本行寺、境内(昼食休憩)、			
		②旧生浜町役場庁舎(今井公子先生＝浜野の歴史、庁舎建物、民具と漁具展示			
		一応解散＝有志で房総往還を歩いて八幡公民館へ			
5		八幡公民館主催事業女性セミナー「築地明石町と佃島を歩く」	平成20年9月3日	山岸弘明	
		江戸城下の歴史を学び、江戸情緒の残る築地と明石町や佃島を訪ねる			
6		辰巳公民館主催事業「中高年のためのすこやかカレッジ」	平成20年9月24日	山岸弘明	
		みどころたっぷり「築地、明石町と佃島を歩く			
		NHK大河ドラマ「篤姫」の江戸城大奥を歩く	江戸城を提案したが八幡と同企画を希望された		
7		八幡公民館とやわたむかし展　駅ギャラリー	平成20年9月11日	八幡史学館チーム	
		「山口達画伯」収蔵作品展　八幡称念寺	平成20年9月21日	八幡史学館チーム	

平成２０年度　八幡公民館主催事業

八幡史学館

１．講座の目的

八幡地区の歴史をほりおこし、その背景を学ぶ。

２．日程

第１回	６月１７日（火）午前９時３０分～11時３０分	飯香岡八幡宮別当寺の霊応寺と満徳寺
第２回	８月　５日（火）午前９時３０分～11時３０分	徳川幕府創設期の重臣・本多正信、正純父子と八幡
第３回	９月　２日（火）午前９時３０分～11時３０分	八幡、五所地区の方言、田舎弁
第４回	11月　４日（火）午前９時３０分～15時３０分	①隣村浜野の歴史（公民館～路線バス移動） ②旧生浜村役場歴史資料館と浜野の史跡を巡検

※現地巡検は、午前から午後までの日程で行います。昼食・飲み物の用意が必要です。詳しくは、第３回講義のあとにお知らせします。

３．講　師　　山岸　弘明　先生　（　第１回・２回・４回　）
　　佐倉　東雄　先生　（　第３回　）

４．参加費　　１００円　（第３回で集めます）

５．募　集　　定員４０名。（ 全日程に参加できる人）

≪お願い≫

やむを得ず欠席する場合は、当公民館（℡　４１－１９８４）へ必ずご連絡下さい。

平成20年度　八幡公民館主催事業①　出会い ふれあい 学び 広める

20. 4. 1

	講座・教室名	受付	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	小学生もりモリクラブ 10回 小学1～6年生 30名 9:30～11:30	3/18	27(日) 体操		7(土)・28(土) 自然観察坂月川 パンづくり	12(土) 陶芸	23(土) 陶芸	27(土) (後期7/18募集) 折り紙	25(土) 自然観察市民の森	22(土) 茶道	13(土) クラフト		14(土) 英語	
2	おはなしひろば 21回 幼児・小学生(保可) 10:00～10:40	当日	5・19(土) 読み聞かせボランティア	3・17(土)	7・21(土)	5・19(土)		6・20(土)	4・11(土)	1・15(土)	6・20(土)※ 20日はお楽しみ会	17(土)	7・21(土)	7・21(土)
3	子育て教室 ららぱい 8回 幼児と保護者 15組 9:30～11:30	3/18	24(木) 扇谷ミユキ	22(木) 大谷智子	12(木) 山下光子	3(木) 人形劇		4(木) 西尾咲恵子	30(木) 福田進一	27(木) 高土千文		22(木) キャロル、アイバーソン		
4	野菜作り体験 6回 家族、友人、ひとりで、20名 9:30～11:30	3/18		10(土) 仲村マチ子	21(土)	26(土)	30(土)	13(土)	18(土)					
5	生活に花としつらいを 4回 一般成人 30名 9:30～11:30	3/18	16(水) 齋藤恭子			16(水)			15(水)				18(水)	
6	絵本の森 3回 一般成人 30名 9:30～11:30	4/18		12(月) 山下光子	2(月)	10(木)								
7	将棋教室 6回 小・中学生～一般成人30名 9:30～11:30	4/18		17(土) (13:30から15:30) 将棋連盟	14(土)	13(日)		21 (日)	26(日)	29(土)				
8	人形劇 1回 親子 40名 9:30～11:30	6/18				3(木)								
9	子ども夢工作 小学3年生～6年生 20名 9:30～11:30	7/18					22(金) 袖ヶ浦発明クラブ							
10	クリスマス菓子作り 小学生～中学生 20名 9:30～12:00	11/18									14(日) 南堀寡子			
11	卓球親子杯 5回 小学生と保護者 20組 9:30～11:30	11/18										31(土) サークル活きいき卓球	7(土)15(日) 28(土)	7(土)
12	介護講座 2回 一般成人 45名 13:30～15:30	5/18			26(木) 保険福祉部	24(木) 今井淑子								
13	健康料理 2回 一般成人男性 20名 9:30～13:00	10/18								20(木) 金井 登子		29(木)		
14	健康味噌づくり 一般成人 24名 9:00～12:30	1/18											17(火) 大網 和子	
15	福寿大学 6回 市原地区シニアクラブ 13:30～15:30	別途募集		27(火) 扇谷 ミユキ		2(水) バス研修		9(火) 横本 象二郎		18(火) ふれあい演芸		24(土) 新春お楽しみ会		10(火)
16	八幡公民館文化祭								11(土)、12(日)					

★一般募集なし　☆特別募集あり

平成20年度　八　幡　公　民　館　主　催　事　業　出会い ふれあい 学び 広める

20.4.1

	講座・教室名	受付	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	ヨーガ教室　6回 一般成人 25名 10:00～11:30	3/18	23(水) 倉林 房子	14(水)28(水)	11(水)25(水)	9(水)								
17	房総見て歩き 一般成人　34名 8:40から16:30	4/18		8(木) バス研修 滝沢 修										
18	太極拳教室　6回 一般成人 30名 10:00 ～11:30	7/18						17(水) 近藤 佳子	15(水)	5(水)	3(水)	21(水)	11(水)	
19	パソコン教室 4回 一般成人 20名 9:30～11:30	4/18		9(金)23(金) 30(金) 前田 詠	6(金)									
20	陶芸教室　7回 一般成人 20名 13:30～16:00	3/18	15(火) 根本 正男	13(火)	3 ・17(火)	8 ・29(火)	26(火)							
21	自然観察 2回　現地集合 一般成人40名 10:00～15:30	3/18	25(金) 田邊 盛光					26(金)						
22	古典講座 百人一首 2回 一般成人40名 13:30～15:30	4/18		20(火) 吉田 千尋		1(火)								
23	八幡史学館 4回 一般成人 40名 9:30～11:30	5/18			17(火) 山岸 弘明		5(火)	2(火)		4(火)				
24	千葉県を訪れた作家たち2回 一般成人45名 13:30～15:30	6/18				13(日) 中谷 順子		21(日)						
25	女性セミナー　5回 成人女性 35名 9:30～11:30	6/18				30(水)		3(水) バス研修	14(火)		26(金)			4(水)
26	いきいき八幡塾 5回 一般成人 40名 13:30～15:30	6/18				16(水)		24(水) バス研修	22(水)	26(水)			4(水)	
27	歴史民俗 2回 一般成人 45名 13:30～15:30	8/18						20(土) 田中 操		1(土) バス研修 田中 操				
28	ガーデニング 一般成人20名 13:30～16:00	8/18						30(火) 房総園芸						
29	正月料理 一般成人20名 9:30～12:30	10/18								12(水) 南堀 篤子				
30	パッチワーク 2回 一般成人 20名 9:30～11:30	10/18								21・28(金) 上平 法子				
31	ステンシル講座 一般成人30名 13:30～16:00	12/18											5(木) 成登 やえ	
32	太巻き寿司 一般成人 20名 13:30～15:30	1/18											20(金) 上田 悦子	
	月実施回数		8	16	14	18	5	15	10	14	6	6	12	5

都合により変更することもあります。　★ 一般募集なし ☆特別募集あり

平成20年5月10日

山 岸 弘 明 様

市原市立八幡公民館
館 長　河野 一雄

主催事業の講師について（依頼）

木々の新芽が美しいこのごろ、貴台におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は社会教育ならびに当公民館の諸事業に対しまして、ご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、この度当公民館の主催事業として、「八幡史学館」講座を下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、公私ともにご多用のところ誠に恐縮に存じますが、講師としてご依頼したくお願い申し上げます。

記

1　事 業 名　　公民館主催事業・「八幡史学館」 全4回

2　日　　時　　① 平成20年 6月17日（火） 9:30～11:30
　　② 8月 5日（火） 〃
　　③ 9月 2日（火） 〃
　　④ 11月 4日（火） 9:30～15:30

3　対　　象　　成人（40名）

担当　社会教育指導員　中嶋眞由美
℡0436－41－1984

平成２０年度八幡公民館主催事業「八幡史学館」①

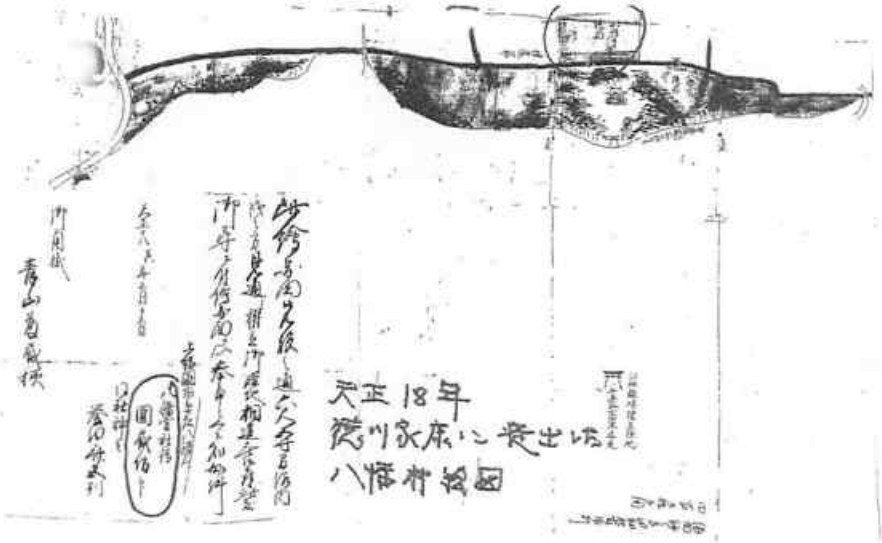
飯香岡八幡宮別当寺＝霊応寺と満徳寺

山岸弘明

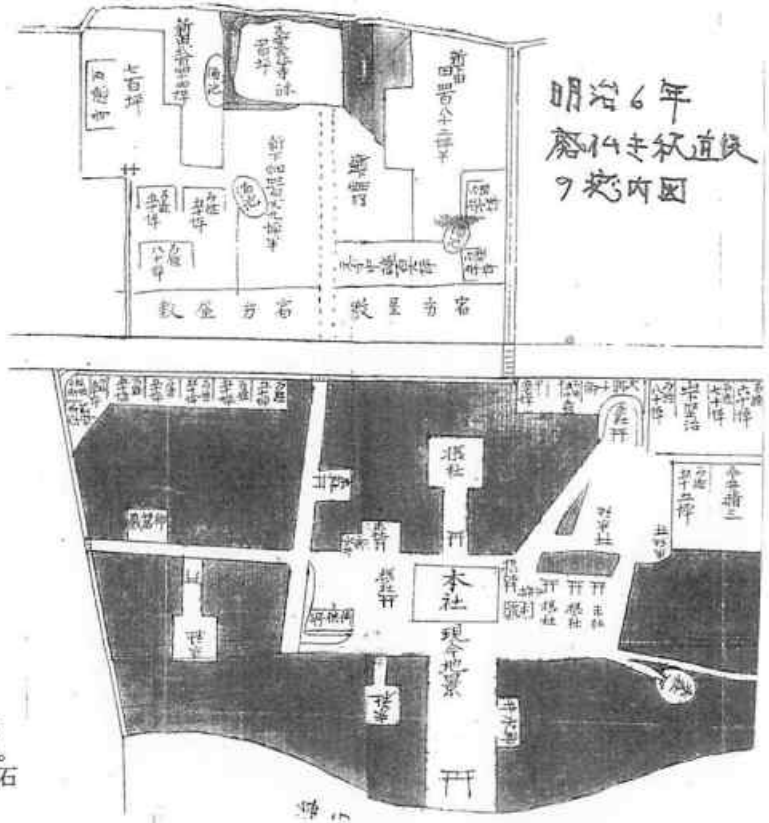
↑霊応寺跡　↓満徳寺

満徳寺お札

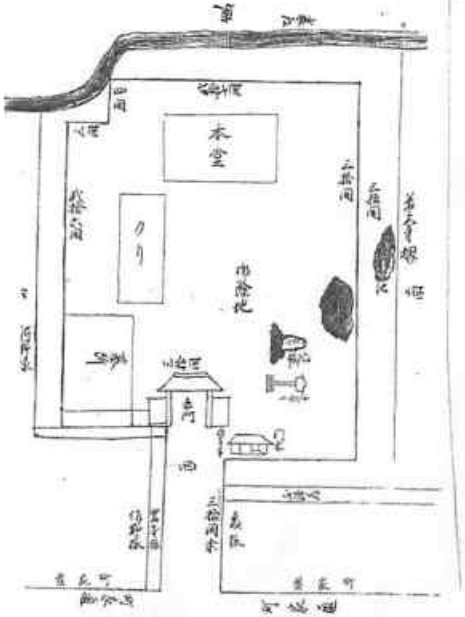
元禄10年幕府に提出した「寺院本末帳」



天正18年
徳川家康に提出した
八幡村絵図



明治6年
廃仏毀釈直後
の寺内図



江戸後期の満徳寺境内図

1）　３年目迎えた「八幡史学館」＝ことしも楽しい「郷土史講座」をめざします

① 第２回（８月５日）八幡の近世初代領主＝本多正信と本多正純、その栄光と挫折
天正18年徳川家康の江戸入り当初の八幡領主＝（　）内は八幡領主の期間

⑴本多正信（天正18年？～元和２年）＝家康の最側近重臣。戦時は軍謀、平時は国政に貢献、通称相模甘縄藩だが本来は八幡藩。当時１万石、最終は２万石。あえて加増を辞退、低禄に甘んじた。

⑵本多正純（天正18年ころ～元和ころ）＝正信長男。幼きから家康に従い、秀忠老中、宇都宮15万石に。中傷を受け失脚、俗に「宇都宮吊り天井事件」という。配所で不遇の生涯。

⑶永井直勝（天正18年～元和３年）＝家康譜代の武将で秀忠老中。潤井戸２万石から古河７万石。

② 第３回（９月２日）八幡・五所ことば（仮題）＝お客さま・佐倉東雄さん

③ 第４回（10月４日＝午後も）現地巡検＊隣町浜野を歩く＝旧生浜町役場庁舎、民具展示場、八幡と同じ海の町、旧道を浜野から村田川まで歩き現地解散（八幡宿駅までバス３分または徒歩15分）

平成２０－６－１７（火曜日）

最新史料を網羅――八幡の歴史が見えてくる

2）　「八幡史学館」姉妹グループ＝八幡の歴史を調べています

①　八幡の石造物研究会（板倉、北島、小出、佐倉、多村、内藤、鷲津、山岸）

(1)「八幡稱念寺の石造物と文化財」刊行（ＤＶＤも）　非売品＝中央、八幡図書館で
カラーページ多く美麗120ページ。山口達画伯作品、稱念寺の石造物、宗門人別帳など

(2)八幡・五所の石造物悉皆調査＝調査３年目、平成21年ころ完了予定

②　市原の古文書研究会（秋葉、上田、佐野、高澤、山岸）

(1)「市原の古文書研究第４集」５月刊行324ページ。非売品＝中央、八幡図書館で
飯香岡八幡宮、満徳寺文書150ページ、ほかに勝間深山家、畑木高石家文書

(2)「第５集」以降順次続刊。登場する八幡関係文書＝飯香岡八幡宮文書（続き）、市川本店文書、
旧片町区有文書、梅谷家文書、寺島家文書、五所今井家文書ほか

(3)江戸時代の古文書をお持ちでご協力いただけそうなお宅ありましたらご紹介ください。

3）　おかげさまで６０年、ゆかりの山口画伯展も＝６月２６日八幡公民館が創立６０周年を迎えます

①　昭和23年６月26日、県下２番目の公民館として八幡宮境内、現在飯香岡通りに誕生。

(1)八幡中学校建設の残材（旧陸軍習志野兵舎）を利用、作業は職工組合と町民のボランティア。
工期３か月、勤労奉仕延べ4,700人、木材、電気設備、どん帳など町民寄付、町の総力を結集した。
木造２階建て、延べ237坪、１階は大ホール、２階は観覧席、図書室、集合室など。

(2)山口達画伯の「大天井絵」＝制作日数10日、ビタミン注射打ちながらの徹夜、完成後バッタリ。

(3)書家・浅見喜舟先生「八幡町建設のうた」＝
平和を愛好する町の人々よ、真理と自由を尊び、自治建設を理想と仰ぎ、協力の町大八幡の建設
菅野儀作町長（初代館長）の基本理念で「八幡公民館立館の精神」とされる。

(4)コケラ落としは中村吉右衛門一座、青年連盟、婦人会、ボーイスカウトや俳句などの文化団体が次々と結成され、公民館を中心に新生活運動が展開された。

(5)昭和24年、設備と活動が評価され、全国最初の「文部大臣賞」を受賞。

②　昭和47年、飯香岡通り工事のため現在地に新築、移転、昭和61年体育館などを増築。
ことし平成20年６月、創立60周年を迎える。

③　60周年ゆかりの山口達画伯展＝八幡史学館、八幡の石造物研究会、八幡公民館共催

(1)４月１日～当分の間、八幡公民館１階ロビー

(2)御子孫山口敦子さんから肉筆下絵、デッサン４点（５作品）の寄贈受け、初公開、展示
「大天井絵＝四季草花」「（八幡）海辺にて」など既設４作品、代表作品写真など展示

(3)郷土出身の佐倉愛土、石井成児画伯を同時紹介

(4)10月、八幡宿駅ギャラリーで「60周年展示」を計画

4）　「八幡新名所百景」をつくろう（案）＝参加したい方募集

①　八幡地区（旧市原町）の「景色または古蹟」「新しい風物」など「新名所１００」を選出する。

②　八幡史学館「八幡新名所百景選考小委員（仮称）」を募集。（公民館の主催ではありません）

(1)７月　日（火曜日）13時30分に八幡公民館で第１回、以降月１回打ち合わせ、１年で完結。

(2)メンバー15人程度、地元、八幡地区（旧市原町）居住者優先

(3)打合せ内容＝趣旨確認、選定方法、スケジュールなど。活動はすべてボランティアです。

(4)八幡公民館に共催、協賛、推薦、協力の申し入れしたい

③　「百選マップ」または「百選散策コースちらし」を作成、公民館などで無料配付

(1)各新聞社にニュースリリース、その他、普及、展開などの詳細は選考小委員会で決める。

④　前出、八幡宿駅ギャラリー「60周年展」の実務協力

昭和23年創立当時の八幡公民館

石造物研究会と古文書研究会の新刊

市原市 八幡 稱念寺の
石造物と文化財

八幡の石造物研究会

市原の古文書研究＊第４集

飯香岡八幡宮文書
八幡・満徳寺文書
勝間・深山家文書
畑木・高石家文書

秋葉　平
上田洋子
佐野　恵
高澤恒子
山岸弘平

市原の古文書研究会

飯香岡八幡宮別当寺＝霊応寺と満徳寺

1）　はじめに ―― 別当と別当寺の違い

① 別当は専任の長官のこと。
　別当寺＝神仏習合（混こう）時代、神社に付属した寺をいい、社務を統括した。
　明治維新後「天皇神格化」にともなう「神仏分離令」で廃止、廃寺または独立した。
　(1)神宮寺、宮寺、神供寺とも。その僧を社僧または単に別当と呼ぶこともある。
　(2)社寺領主の別当との混同に注意が必要。

② 江戸時代の飯香岡八幡宮別当寺は霊応寺と満徳寺で若宮寺ともいった。
　(1)江戸時代、飯香岡八幡宮の朱印150石の配当は八幡宮63石に対して寺領は87石であった。
　(2)霊応寺は明治維新「廃仏毀釈（きしゃく）」の嵐の中に破壊され、満徳寺は現在に続いている。

③ 第１回のきょうは飯香岡八幡宮と別当寺の関係、霊応寺と満徳寺の歴史を探る。

2）　はじめに八幡神（はちまんじん）ありき ―― 応神天皇は生まれながら「武」の神さま

① 「八幡」の地名は「飯香岡八幡宮」に由来した。

② 「八幡宮」は八幡神（誉田別尊＝ほんだわけのみこと＋神功皇后ほか）を祭神とする神社。
　４万社ともいわれ、全国10余万社でもっとも多い。

③ 「誉田別尊」は第15代応神天皇のこと。応神天皇元年（270）即位、41年崩御111才とされる。
　(1)仲哀天皇９年（200）、日本武尊の子仲哀天皇を父に、母神功皇后（息長足姫尊＝おきながたらひめ）の第４皇子として誕生。朝鮮に出陣、制圧したとされる神功皇后が凱旋の途中、九州の宇佐八幡宮の地で出産、胎中天皇ともいう。この時、周囲に８本の旗を立てたことが「八幡神」の由来に。
　(2)大和時代前中期天皇の在世年数は誇張が多く、応神天皇は５世紀はじめとみられる。

④ 「広辞苑」に「八幡」関連のことばが多数掲載されている。
　(1)八幡かけて＝八幡神に誓って　　(2)八幡座＝八幡神の宿る所、兜の鉢の頂辺の孔
　(3)八幡造り＝神社本殿の造り　　(4)八幡大菩薩＝八幡神の称号
　(5)八幡太郎＝源頼義の長子・義家の異名、石清水八幡宮で元服したことから ―― などがある。

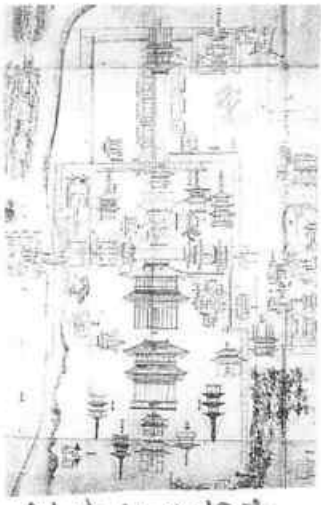
3）　飯香岡八幡宮の創建 ―― 室町以前の歴史は謎に包まれている

① 社伝による飯香岡八幡宮の創建は、白鳳４年、第40代天武天皇天の命を受けた桜町中納言鎮座とする。白鳳（現在の年号表にはない）は７世紀後半から８世紀はじめ、「大化の改新」以降のおよそ50年間をいう。天皇の権威が確立、当時、律令制度の下、清新な「白鳳文化」が創造された。

② 国府近く産土神として創建、年代は不詳（奈良？～平安時代）
　(1)国府（市原市役所周辺）近くで、市原郷の産土（うぶすな）神として成立
　(2)はじめ市原八幡宮（現存する同名神社とは別）といい、社伝は１国１社の国府八幡宮、総社とする。
　(3)平安末期は京都石清水八幡宮の宮地領・市原別宮。鎌倉時代に荘園鎮守といえる「市原荘八幡宮」へと変遷したものとみられる。

③ 現在地への移転は鎌倉後期から室町中期が有力だが、さらにこれを逆上る市原別宮時代との考え方も捨てきれない。

飯香岡八幡宮



宇佐八幡宮

↑由緒本記

神功皇后と
応神天皇

←八幡太神

4）　南北朝時代から醍醐寺が５００余年 ―― 飯香岡八幡宮別当寺の変遷

①　『市東庄八幡宮縁起』天喜年中（1053～1057）＝別当寺号・神光山霊応寺の由来
八幡の沖に毎夜光明あり、中島、中村、浅野の３人が往年宇佐八幡宮参詣の時、海中に投じた猿田彦命の面を取り上げ、お告げにより八幡宮を造営したとする

②　市原別宮時代の別当寺（市原市史）
(1)観応元年（北朝暦1350）～応安４年（同1371）京都醍醐寺の地蔵院
(2)応安４年以降、京都醍醐寺清浄光院、三宝院

③　『飯香岡八幡宮由緒本記』延文３年（1358＝室町時代始め、南北朝時代）＝
当神領のうちに神事の節、やぶさめ役相務めおる肥後国産にて円蔵と申すもの、右役実体に相務めまかりあり、しかるところ身弱に相なり剃髪致し、心願にて社僧に相なり、掃除などいたしたき旨願いにつきそのまま差し置き、なお意失なく相務めよってその後人皇九十九代後光厳院御宇延文三戊戌年十一月十一日一坊建立致し、これにより御神領の内字池尻という所屋敷地拝領致し、すなわち円蔵坊源明と改む

④(1)天正18年＝社僧円蔵坊が神主と連名で徳川家康に由緒、神領、略絵図などを提出
(2)天正20年＝円蔵坊が天正坊と改め、寂光坊、円乗坊、本覚坊と４坊で社僧を勤める
(3)慶長２年＝社僧は４坊年番に務め、当番が神光山天正院霊応寺を名乗る。ただし寂光坊は菊間村若宮の社務にて若宮寺を号す。これまで大日堂で社務を務めてきたが僧多くなったので社僧務所として護摩堂（経堂）を新造立
(4)元和元年＝衆徒（寺僧衆）方敷地は南北71間（後ろ82間）東西52間。満徳寺は南北30間（後ろ20間）東西30間
(5)天和３年＝円蔵坊は数年来無住で寂光坊が社務代役を勤める
(6)元禄４年＝寂光坊貞雄自社務兼帯、若宮八幡宮の別当を務め若宮寺と号す。

⑤　霊応寺と満徳寺の本寺は京都醍醐寺、三宝院であり、市原八幡宮以来、連綿と飯香岡八幡宮の別当寺を勤め続けたことがわかる。

5）　菊間・八幡神社（若宮八幡宮）は飯香岡八幡宮の若宮として誕生か

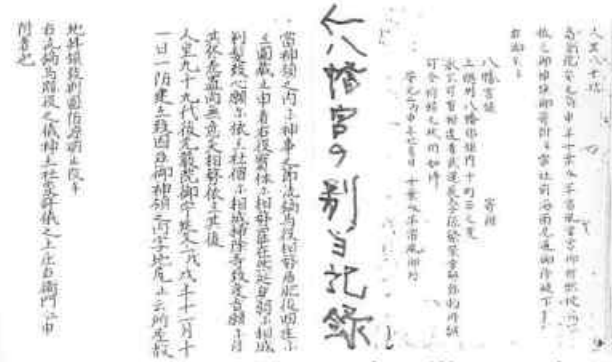
①　若宮は幼少の皇子のことだが、八幡宮では付属して新たに勧請して奉った神社をいう。元々は飯香岡八幡宮の摂社として誕生したといえよう。
(1)飯香岡八幡宮縁起＝この時（白鳳２年）若宮八幡宮を東方に勧請奉る（中略）いま菊間若宮八幡宮これなり
(2)八幡宮にはこれとは別に摂社の若宮神社も存在する

②　菊間・八幡神社々伝は飯香岡八幡宮との関係に触れず白鳳２年創建、治承２年源頼朝の祈願で鎌倉から分祀し、天正19年徳川家康が朱印20石を寄進したとする。

③　菊間・八幡神社の別当寺は飯香岡八幡宮の霊応寺（寂光坊）が兼務、若宮寺を名乗った。
しかし有名無実、２度にわたって訴訟ざたになったがいずれも勝訴した。

④　文化11年、若宮八幡宮文書＝若宮寺無住につき満徳寺、寺社奉行あて訴状（一部、配当分）
御高20石の内、河内６石、衆徒方幸音坊東漸院（霊応寺末寺）４石、月蔵坊徳性院（同）２石２斗、地蔵院２石６斗、社家天羽主計２石、杉本刑部５斗、はふり子徳右衛門１石（以下省略）

⑤　天和３年、同＝寺社奉行、争論裁許申し付けの覚え



若宮八幡宮との争論↑　↓若宮八幡宮

千葉氏ゆかりの寺院　原氏角印判状「法度」

義明ゆかりの碑(左)と伝印旛跡

若宮別当職のこと、前々より若宮寺これを兼帯せしむところ、社領配分これなきゆえ別当にあらず（と神社側が主張しているが）霊応寺の儀、若宮寺の別号と相聞こえ候、かつまた慶安３年若宮修造の節、棟札の面、別当若宮寺とこれある上は八幡村、菊間村両所の八幡別当、若宮寺兼帯の段、（まぎれない事実である。以後、両者相和し神事、祭礼に勤めるように）

6）　**千葉、原氏の支配と足利義明伝説**（昨年度の講座）　―― **謎多い中世の八幡**

①　中世八幡の所領変遷はほとんどわかっていない、しいて概略すれば……（改めて解説）

(1)平安末期から鎌倉初期の上総は鎌倉幕府創設に貢献した上総介（権介）千葉広常が領有か。

(2)広常が頼朝に謀叛の疑いで暗殺、没落後、同族の千葉介常胤領となり、千葉介家が世襲した。

(3)室町はじめは引き続く千葉領で、関東の戦国時代は一時小弓公方足利義明領をへて、小田原北条氏の勢力圏に置かれたが千葉氏の支配は変わらず、後期は小弓と臼井城主を兼ねた原胤栄が実質的に領有した。

②　千葉氏、原氏の八幡支配

(1)飯香岡八幡宮由緒本記、由緒記、寄進状など＝
安元２年（1176）千葉常胤神領寄進、永禄２年（1559）千葉富胤汐ごり場大鳥居寄進
天正４（1576）、９年原胤栄印判状（姉崎・榊原家原本）

(2)天文２年（1533）無量寺創建と千葉康胤伝説
天正３年（1575）稱念寺創建と小弓城主・千葉胤栄の関係

(3)満徳寺の寺紋は千葉氏の月星＝千葉氏との関わりを推定させる。

③　小弓城主・足利義明（　　ころ～　　）所領＝室町後期の武将。古河公方政氏の２男で高基の弟、兄と対立して小弓御所を称した。両総を従え権勢多いに振るったが、高基の子晴氏の命を受けた北条小田原氏と国府台に敗死した。八幡五所は初期の御所地とされ、飯香岡八幡宮、霊応寺、満徳寺に伝承。確証はないが義明が源氏（足利）ゆかりの八幡宮に帰依したことは十分考えられる。

(1)飯香岡八幡宮由緒本記＝寛正６年（1465）義明、御所を当郷に築かせられ、八幡御所と称し奉り、神領海面沖の方みこし幸行汐ごり場、一の鳥居御造立御寄進あらせられる。（△＝年代があわない）

(2)同　＝文明元年（1469）義明、当社屋根、古来檜皮葺きのところ、新たに銅板屋根に葺き替えそのほか御造営、御寄進あらせられ、真里谷原式部恕鑑奉行を司る。（×＝年代があわない）

(3)同　＝天文７年（1538）義明勝利をえず、ついに国府台にて御父子討ち死にす。よって当所の御所御取り払いに相なり、これにより御所を五所と改め、郷内に割り分け五所村と号す。これより天文八己亥年右御殿の跡へ白幡権現の社勧請す。（×＝発掘調査したが中世の遺物なし）

(4)霊応寺の義明伝説（△）、五所の御所伝説（△＝小弓御所当時の下屋敷、別荘なら可能）

(5)伝義明夫妻の墓（×＝義明代より古い、僧侶墓か）

(6)かつて義明寄進メノウ仏像、義明像と文書を保有していたとされる。（△現存しない）

(7)不動妙王像は伝義明冥福祈願建立（×＝銘文が異なる）

(8)飯香岡八幡宮に伝義明寄進の経びつと経文が現存（△＝義明寄進の証明ができない）

現在の伝義明墓

義明の肖像

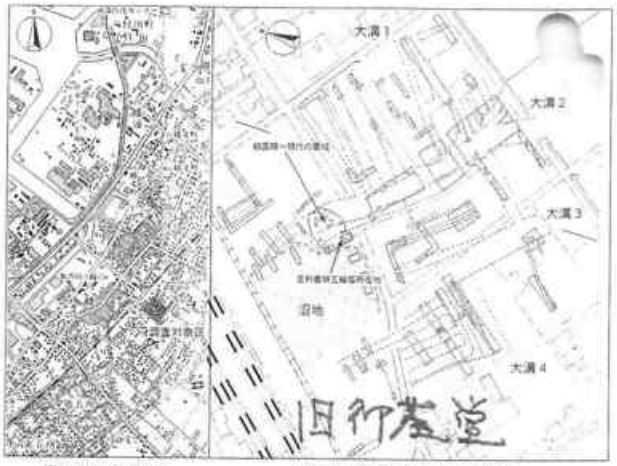
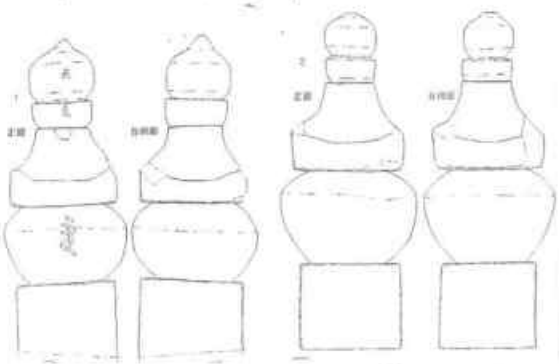


図5　御墓堂遺跡位置　　図6　御墓堂遺跡遺構配置(1:2,500)



伝夫人の墓　　伝義明の墓

満徳寺が所蔵する義明ゆかりの鎌倉八幡宮之十二院絵図

7）　別当寺が１５０石の過半を受け取る ―― 別当寺本末と配当推移

① 朱印150石は八幡宮と別当寺で分配した。
(1)配分は通常、神社方が47石、別当方は102石。別当方の方が多い点に注意。
(2)後期は大半が無住、廃院、名目だけで権利を継承したとみられる。

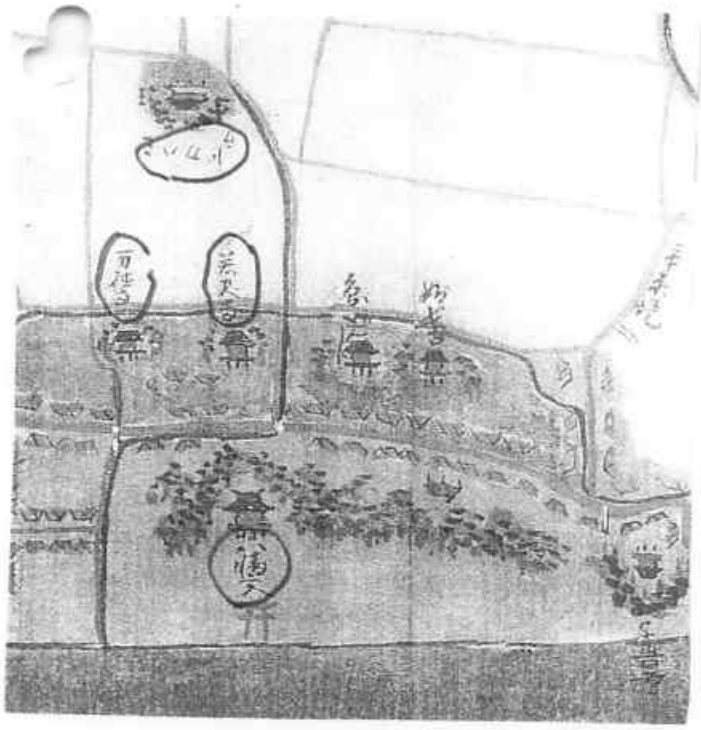
② 寛永10年（1633）『関東真言宗新義本末寺帳』＝
(1)八幡村、本寺三宝院、満徳寺、末寺、八幡村東学院、光徳院、安養院、親王院、円寿院、法蔵院、円通寺、法福院
(2)八幡村、本寺三宝院、若宮寺（霊応寺）、寺領87石、この内69石門徒支配なり

③ 寛政７年（1795）『上総国新義真言宗本末帳』＝
(1)市原郡八幡村　若宮寺、本寺醍醐三宝院、御朱印18石社領配分
同所　満徳寺、本寺醍醐三宝院、御朱印６石社領配分
(2)右の若宮寺末寺　市原郡菊間村　福寿院
(3)右の若宮寺門徒
市原郡八幡村　長寿院　御朱印６石６斗８升６合社領配分（以下同書式）
宝珠院２石７斗５升７合、菊間村徳性院２石２斗、東漸院４石
(4)右の若宮寺、満徳寺両寺支配寺
市原郡八幡村　円寿院　御朱印14石２斗４升４合３勺社領配分（以下同書式）
広徳院８石５斗９升９合、東覚院７石２斗８升８合、神王院11石３斗８升２合、
宝蔵院６石４斗４合、安養院10石２斗４合、同郡菊間村戒誓院（配分なし）
以上本末門徒支配寺とも若宮寺、満徳寺分

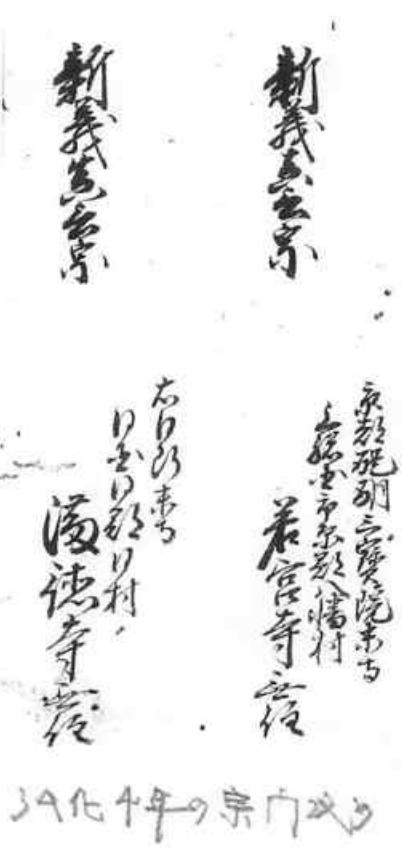
④ 万延元年（1860）江戸城本丸普請『冥加献金願い、写し』＝
(1)上総国市原郡八幡村八幡宮別当、新義真言宗、若宮寺　高18石配当
同村　　宝乗坊満徳寺　　高６石配当（以下同書式）
(2)右両寺門徒　同村円乗院14石２斗４升余、神王院11石３斗８升余、一乗坊７石２斗８升余、
西林坊６石６斗８升余、大林坊８石５斗９升余、花蔵坊10石２斗余
以上　若宮寺、満徳寺両門徒にござ候
同村恵鏡坊６石４升余、東泉坊２石７升５升余配当
(3)菊間村　八幡宮御朱印20石の内　菊間村東漸院４石、徳性院２石６斗、戒誓院（配当なし）

⑤ 江戸時代の神社側配当の記録はない。

⑥ 明治３年（1870）菊間藩庁あて『上（たてまつる）』＝
(1)高150石、往昔より田畑小作直取り、この入付収納米369俵と４升６合１勺
内米242俵と３斗７升４合１勺なり。内242俵余八幡太神修復料、年中神祭経費など
残り126俵余神主、社家、御旗役神勤料分配（明治維新の一時期八幡宮が全額受領か）
(2)神主、社家、御旗役神勤料分配＝24石余神主市川三郎家禄、４石余～９斗余社家今井晴三、
市川一学、大野千郷、市川大造、杉本多七郎、宮好雅次、山下堅吉、大井嘉七ほか分配



江戸後期の八幡村絵図（部分）



1864年の宗門改め

8）　僧侶の不正と風俗頽廃のはざまで ―― 対立する神社方と別当寺

① 寺請制を背景にした幕府の寺社行政は寺有利で、社領経営も別当寺の管理下にあった。
(1)しかし、飯香岡八幡宮のように神主以下社家、承仕などのスタッフを抱え、大勢の氏子を持つ大社に対し、別当寺がどの程度統括できたかは不明。
(2)別当寺は将軍代替わりの朱印改めで主導、文政２年八幡宮「神祭年中神祭行事」によれば大祭などの八幡宮行事を役割分担している。

② 社領の半分以上を受け取り権利にあぐらする別当寺。僧侶の風俗頽廃は不正を生む。無視か支配権の奪還をめざす神社側との抗争も定常化している。
(1)朱印改め、朱印頂戴や日常の神祭行事で争った記録が八幡宮文書に多く記録されている。

③ 文政２年（1819）寺社奉行・松平周防守掛り＝別当寺住職・白純は衆徒（末寺）８か寺の内、移転、隠居などによる無住、破院分の配当を独占、衆徒を再建しない。
(1)裁許＝配当米を積み立て早々再建するように

④ 文政13年、寺社奉行掛り＝その後も衆徒の再建を行わず、配当米を不当に取得している。
(1)裁許＝白純の僧職を剝奪、江戸10里四方追放
(2)後任住職は栄阿（病気で通栄が後見）→田刀（円福寺役僧、現地にはこない＝通栄が代行続ける）
(3)天保４年（1833）大風雨で本堂、庫裏が破壊、氏子が仮修復、当時衆徒は８院すべてが無住

⑤ 天保９、10年の寺社奉行稲葉丹後守掛り＝通英の不正（積金による貸金など）、田刀の管理責任
(1)処分察した通栄は吟味中かけ落ち
(2)済口議定＝衆徒８か院配当67石余を以後10年間、衆徒取り立てと若宮寺修復、八幡社修理料に

⑥ 菊間・八幡神社と別当寺の争論（前出）
(1)若宮寺無住のため満徳寺が代理している点に注意。「宗門人別帳」などでも無住が目立つ。

9）　「新四国八十八か所」札所で賑わう

① 八十八か所は弘法大師などの霊場、札所は巡拝のしるしとして札を納める寺をいう。
普通「四国八十八か所」をいう。
(1)三十三か所は観音霊場で、板東三十三か所、秩父三十四か所などがある。

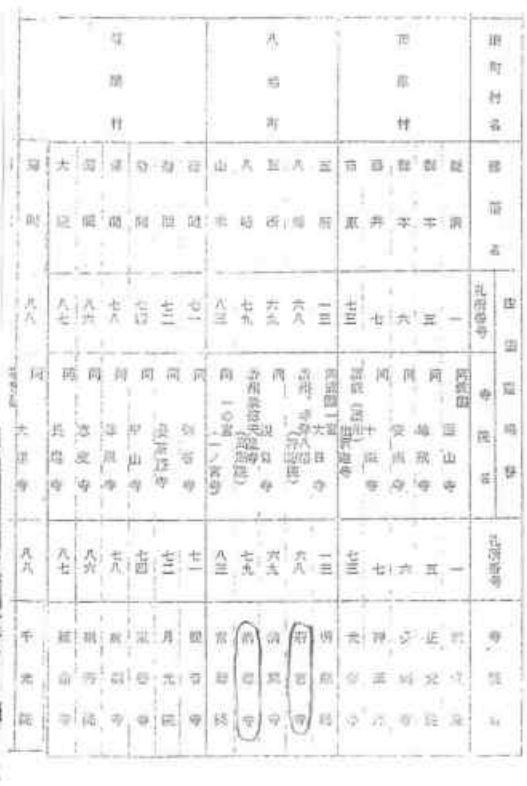
② 「市原郡八十八か所」四国まで行けない庶民のために、天明３年釈蔵院の栄寛らが作る。
(1)１番札所釈蔵院から88番菊間千光院をめぐる。
(2)若宮寺（霊応寺）は68番、讃岐琴弾八幡の移し、満徳寺は79番、讃岐崇徳天皇寺、なぜかとびとび。
(3)満徳寺境内に天明４年銘、第79番札所を記した巡拝塔が現存。

③ 石幢型一石六地蔵は浜本観音講、同志念仏講、片町、南新田、倉町、善男、善女、若衆などを刻む。
地元の人たちが信仰を通じて結びあっていたことを窺わせる。

④ 「千葉県寺院台帳」明治10年代千葉県作成の台帳、昭和20年ころまで実用
満徳寺　本尊＝大日如来、由緒＝不詳、境内坪数＝303坪、昭和12年縮小271坪
本堂間数＝６間×３間半、昭和３年（改修カ）５間×２間半、門９尺×６尺四脚門
檀家人員＝225人、住職＝福寿院兼務新藤盛舜、大正12年大島賢、同年広瀬秀運、昭和８年富田道
数になっている。

同（讃州）琴弾（ことひき）八幡
神恵（じんね）院
六十八ばん　八幡　若宮寺
ふえの音も
松吹く風も琴ひくも
うたうもまうも
のり（法）のこえごえ（声々）

同　崇徳天皇寺（現在、高照院、天皇
七十九ばん　八幡　満徳寺
じゅうらく（十楽）の
浮世の中をたずぬべし
天皇さえも
さすらいぞある



１０）明治の廃仏毀釈（きしゃく）と霊応寺の廃寺

① 明治元年（1868）、新政府は天皇を神格化する国家神道と祭政一致のため「神仏判然令」を発令、新法は神仏の分離と社僧の還俗、権現など仏教にちなんだ社号の廃止などを命じた。
(1)飯香岡八幡宮などの神社は別当寺の支配から開放、しかしやがて朱印領も失うことになる。
(2)法令施行者に廃仏論者が多く、行き過ぎた指導が「廃仏毀釈」を招いた。
(3)霊応寺では仏像や教典が焼かれ、建物も暴力的に取り壊されたとされる。

② 古文書にみる霊応寺廃寺の経緯
(1)明治３年、飯香岡八幡宮、菊間藩届け出控え＝
当社僧霊応寺住職の儀、去々辰年（明治元年）８月中病死後、憐（隣カ）村の僧、右寺院住職これなきところ同十月中取り巧（たくら）み復飾願いがたく申し来たり候につき一社中差し縺れ出訴におよび未だ御取り調べ中にござ候ところ、当午の二月中扱い人立ち入り、未だ扱い中にござ候
(2)明治６年、同、あら絵図写し、八幡大神上知ならびに現今地景内外＝
旧霊応寺は元霊応寺跡100坪、元寺中跡120坪、新下畑、新下田ほかに
霊応寺の「廃仏毀釈」取り壊し直後を描いている。
(3)明治８年、同、八幡太神領元墨印地旧神宮外元配当禄＝
同年（明治元年）十月より同寺復飾正邪の儀につき、明治四未年十二月まで旧宮谷県よりなお旧菊間県において御吟味中、扱い人立ち入り事実和解におよび、右復飾人市原武雄儀、同年同月隠居退身致し（廃寺、廃仏毀釈はこの前後と考えられる）

③ 存続と廃寺 —— 明暗を分けた霊応寺と満徳寺
(1)霊応寺は祈禱寺で、檀家がなく別当寺としての配当に依存した経済基盤の弱さがあった。
加えて後継住職をめぐるトラブルで無住となり「廃仏毀釈」の攻撃目標にされた。
(2)一方、満徳寺には檀家があり波及をくい止めた。

④ 霊応寺跡地は神道中教院をへて八幡小学校、いまは駅前ロータリーに
(1)明治はじめ、跡地に神道中教院を設立、明治７年９月、これより先４月八幡円頓寺で開校、稱念寺に移っていた八幡小学校校舎として下付され、明治23年敷地内に市原町役場が併設された。
(2)昭和42年、八幡湾埋め立てにともなうＪＲ八幡宿駅前整備と児童数増加に対応するため八幡小学校を現在地に移転、現在は駅前ロータリーなどになっている。

⑤ 霊応寺の遺物＝伝足利義明寄贈めのう観音像がロンドン国立博物館に現存（市原のあゆみ）

１１）平成１７年本堂を新築 —— ４００年の歴史伝える満徳寺

① 残った満徳寺は明治の八幡大火で焼失、大津波が境内を襲う
② 伝明治大火跡本堂再建、「寺院台帳」になし。昭和４年改修、台帳、墨書に記録。
③ 昭和７年盛大に「足利義明400年祭」を挙行
(1)境内御墓堂墓地古池から五輪塔２基を発見、義明の墓とした
④ 平成７～15年にかけ、八幡宿駅東口土地区画整理事業にともない御墓堂地区一帯の発掘調査を実施。「市原市文化財センター研究紀要」「市原市八幡地区の遺跡と文化財」によると
(1)住居、屋敷はなく、中世～近世、市原条里遺跡から海岸に向けた道路と大溝、排水路を検出
(2)遺物は中世陶磁器、土錐、獣骨、輸入銭など、陶磁器類1,010点。製作年度分布のピークは室町前中期で平安後期の1150年代から。膨大な量は周辺に大きな集落（消費地）の存在を示す。
(3)中世石塔は伊豆の安山岩で中世供養塔大中型16点、小型96点。大型の年代は15世紀初頭から前葉まで。造塔期は義明より古く、若宮寺などの特定僧侶ではないか。
⑤ 平成12年御墓堂を移転。
⑥ 平成17年本堂を再建、墓地、無縁塔など境内整備を実施。
⑦ 戦後は大島賢昭住職が長く、現在は千葉市緑区富田町の長徳寺、山口隆英住職が兼任されている。同じ真言宗で、大島住職時代に長徳寺を兼務したことなどの関係がある。

以上

旧満徳寺本堂

現在の本堂

→ 明治3年届出

建て夫妻の像を祀りその冥福を祈ったことから、このあたりを御墓堂と呼んだという。
改葬移転（省略）
平成十二年三月十九日　真言宗豊山派地福山満徳寺
＊裏面碑文＝御墓堂墓地移転委員会
住職山口隆英、委員長福田正太郎（以下省略）
参考＝碑文は伝承に基づいている

⑤歴代住職墓所＝

(1)歴代和尚之墓（平成12年＝五輪塔およそ3m）
(2)覚源上人（寛永11年＝宝篋印塔2m）
(3)権大僧都頼貞不生位（寛永13年＝変形宝篋印塔1・5m）
(4)為貞宥上人菩提也（寛永18年＝五輪塔1・5m）
(5)権大僧都法印頼覚和尚位（承応3年＝宝篋印塔1・8m）
(6)権大僧都覚寿不正位（延宝元年＝五輪塔1・2m）
(7)伝燈大阿闍梨法印貞雄和尚位（元禄14年＝大日如来像1m）
(8)権大僧都勧覚（正徳5年＝卵塔0・4m）
(9)贈法印源香（享保8年＝大日如来像1m）
(10)大阿権大僧都法印永詮不生位、生国下総関宿、満徳寺一代（享保10年＝くし型0・5m）
(11)法師宥雄本不生位（享保12年＝くし型0・5m）
(12)碑銘なし（享保16年＝五輪塔1・5m）
(13)伝燈大阿闍梨法印源真不生位（延享3年＝卵塔0・4m）
(14)権大僧都法印海如不生位（延享3年＝卵塔1・2m）
(15)伝燈大阿闍梨法印覚祐不生位（宝暦5年＝卵塔1・2m）
(16)権大僧都法印覚俊不生位（宝暦10年＝卵塔0・5m）
(17)権大僧都律師法印弁宥不生位（明和3年＝くし型1m）
(18)阿闍梨法印栄山霊（明和3年＝くし型1m）
(19)大阿闍梨法印海円霊（行状碑＝風化難読、解読未完）
師字林亭、南総今津人、始紹白塚徳蔵院
貞敬法印之師□（足＋從）中徒居高根邨也、後施
住八幡満徳寺□、其性也直而煉燥千法
其行也貞而裁断千縛、寒不煩□（求＋衣＝きょう）餓不豊
食克己通道復慈帰徳原手祖□（風カ）懐於未
資便蒼生不□（ふむ）□（冥カ）嶮也□、命哉春秋六十
有四、明和乙戌□月其日、十余一而述
千満徳寺、乃不日□（草冠＋坐）厥南□（岡カ）蕪詞曰
心本於一、智求衆門、栄菩提樹、新生死根、
不滅而没、不正而存、都千法界、参乎化源
天明元辛丑七月　智山菩提院下関　圭山海音謹誌
（角柱1m＝天明元年）
(20)贈法印栄意位（天明4年＝くし型0・8m）
(21)声誉聞覚法師、妙順法尼（文化4年＝舟型地蔵尊像0・7m）
(22)伝燈大阿闍梨法印映光位、筆子中、弟子五井村千光寺住伝燈
参考＝筆子塚といえる
(23)大阿闍梨法印宥伝造工（文化11年＝角柱1・3m）
(24)寛［1字剝落］法師位（文政9年＝角柱0・8m）
(25)権律師円誠、釈妙善法尼、尾州名古屋東田町円教寺弟子寛量房、越中国砺波郡大清水村住人紋助姉（天保7年＝角柱0・7m）
(26)教導職試神桑原宥、普照妙退信女（明治9年、7年＝自然石0・6m）
参考＝明治維新直後の神道中教院時代。女の教導職も珍しい
(27)法印源運上人（年号なし＝卵塔0・8m）
(28)宗順法印（年号なし＝くし型0・8m）
(29)先祖菩提、奉供養、日本回国、施主片町富五良（年号なし＝角柱0・4m）参考＝個人の廻国供養塔
(30)権大僧都法師寛純本不生位（年号なし＝自然石0・6m）
(31)［剝落］不生位（年号剝落＝卵塔0・4m）
(32)伝燈大阿闍梨法印□真不生位（年号なし＝卵塔0・6m）
(33)法印寛純不生位（年号なし＝卵塔0・7m）
個人墓所にある住職らしい墓
(1)権大僧都□（貞カ）伝不生位（元禄15年）
(2)阿闍梨貞弁不生位（宝永7年）
満徳寺境内にある住職らしい墓
(1)権大僧都法印寛亮大不生位（天保3年）
（年代順＝確定稿は『八幡の石造物研究』に掲載します）
参考＝御墓堂は若宮寺の僧侶埋葬地と考えられ、中世五輪塔、宝篋印塔多数が存在したが、現在ほとんど確認できない。墓は満徳寺住職のもので霊応寺を含むかどうかは不明

⑥その外特記すべき墓碑と墓誌（江戸時代のもの）

(1)小倉家＝小倉長兵衛藤原義長朝臣（白鳳7年）、次郎吉藤原義治朝臣（天保9年）、義児朝臣（嘉永7年）、文治郎（明治19年）＝元飯香岡八幡宮承仕
(2)米沢家＝和泉屋利兵衛（天保5年）
(3)加藤家＝加藤宗兵衛（江戸後期）、ほかに貞享、元禄など
(4)加草家＝源（天保13年）、七五郎（同）、栄七（明治40年）
(5)神崎家＝市蔵（明治11年）、ほかに文政7年
(6)足立家＝平蔵（明治14年）、ほかに元禄、享保、正徳など
(7)梅谷家＝甚三郎（天保5年）、伊勢松（明治13年）元禄など
(8)浅野家＝清治郎（明治29年）、ほかに嘉永など
(9)川名家＝倉吉（明治17年）、享保15年、天保15年など

石佛型一石六地蔵

住職墓所

由来碑

御墓堂墓地

満徳寺境内の主要石造物（八幡の石造物研究会調査）

①**地蔵菩薩像＝万治3年（1660）**
地蔵菩薩立像（高さ75、幅24、厚さ24㎝）
右手錫杖、左手宝珠
＊碑文＝奉新造立、地蔵菩薩、為円□（端カ）童子也
ときに万治三年庚子五月十八日

②**不動明王像＝寛文6年（1666）**
舟型不動明王立像（高さ164、幅62、厚さ35㎝）、台石
＊台座正面碑文＝法印宥清上人、為御菩提也
寛文六丙午年、七月二十二日、敬白
参考＝伝足利義明菩提供養

③**一石六地蔵＝延享3年（1746）**
石幢型1石六地蔵＝総高153㎝
宝珠、笠石、6角形塔身、基段、上下台石
第1面＝延命地蔵（ぼん字イ＝右手錫杖、左手宝珠）
第2面＝讃龍地蔵（イ1＝両手で幢幡カ）
第3面＝延命地蔵（イ＝両手で幢幡カ）
第4面＝護讃地蔵（イ＝両手で数珠）
第5面＝破勝地蔵（イ1＝合掌）
第6面＝不休息地蔵（カ＝両手で薬壺）
＊基段正面碑文＝奉造立供養六地蔵尊像、願主御墓堂浄観
延享三丙寅十月吉日
＊左側面＝
浜本観音講中十一人、観化念仏、善男善女人
同志念仏講中、浜本善男、同所若衆、南新田善男女、
片町南善男、観音講中、倉町善女人
＊右側面＝自他法界平等普利
導師阿遮梨法印広運
＊裏面＝頓如浄眞信士、心光貞隆信女、清誉浄観法師
宝暦五亥三月二日

④**宝篋印塔＝享保11年（1726）**
宝篋印角柱宝塔＝総高232㎝
相輪、請花、伏鉢、笠、塔身、蓮華座、基段、上下台石
＊塔身正面碑文＝
経云況有衆人或、見塔形或聞鐸声、或聞其名或当其
影罪障悉滅所、求如意現世安、隠後生極楽矣
＊左側面＝享保十一丙午、三月二十四日
＊右側面＝願主、権大僧都法印永運、現住宥珍
＊裏面＝願以此功徳、普及於一切、我等與衆生、皆共成仏道

⑤**南無遍照金剛碑兼巡拝塔＝天明4年（1784）**
角柱（高さ103、幅31、奥行き21㎝）、上下台石
＊正面碑文＝南無遍照金剛
＊左面＝移讃州崇徳天皇寺、七十九番、満徳寺
＊右面＝とき天明四年龍集甲辰三月二十一日
＊裏面＝願主、現住法印暎光

⑥**霊光寺道標＝明治36年（1904）**
角柱（高さ109、幅30、奥行き24㎝）、台石
＊正面碑文＝新四国八十八ケ所移し、姉ケ崎町字椎津山谷
南無弘法大師、霊光寺
これより南の方へ三里、姉ケ崎よりおよそ三十町南に入る
＊左側面＝道路修理に昭和三十七年十一月三日、
当境内移建、満徳寺　大島賢昭
＊右側面＝明治三十六年四月建之、発起人、東京市神田区新銀
町、国本峯吉、同佐柄本町、大熊市五郎

⑦**御墓堂句碑＝昭和6年（1931）**
自然石（高さ98、幅63、厚さ7㎝）、台石
＊正面碑文＝寿蔵碑、天名地鎮庵秀真宗匠行額
松風の、こぼれて涼し、御墓堂　屯忌堂、子雀、七十七
＊裏面＝昭和六年七月
賛助、川上秀真、佐倉春朝、佐倉雪窓ほか

⑧**石仏＝年代不詳（江戸後期カ）**
聖観音カ坐像（高さ40、幅26、厚さ17㎝）
＊無名

⑨**無縁墓碑塚**
相対二体像3基など石仏多数

⑩**中世室町五輪塔、宝篋印塔残欠**
平成18年まで境内に若干点が現存したが改修時に散逸

御墓堂（満徳寺境外墓地）

①**伝足利義明の墓＝中世（15世紀はじめカ）**
五輪塔＝総高157㎝（空輪、風輪、火輪、水輪、地輪）
＊碑文＝ぼん字、無銘

②**伝足利義明夫人の墓＝中世（15世紀はじめカ）**
五輪塔＝総高138㎝（空輪、風輪、火輪、水輪、地輪）
＊碑文＝ぼん字、無銘

③**伝足利義明夫妻五輪塔碑＝平成12年（2000）**
＊正面碑文＝御墓堂の五輪塔
本塔は室町時代造立の供養塔です。小弓公方足利義明夫妻の墓石といわれており市原の中世文化を伝える貴重な文化財です。　小弓公方足利氏系図（省略）
平成十二年五月　市原市教育委員会
参考＝2基の形式は義明時代から100年ほど前のもので、古い住職墓の残欠組み合わせも考えられる

④**御墓堂由来碑＝平成12年（2000）**
＊正面碑文＝御墓堂の由来
八幡公方足利義明（小弓公方）は天文7年（1538）第1次国府台合戦で北条軍に敗れ戦死、遺骸は家臣によっていったん小弓御所（千葉市中央区生実町）に運ばれ、小弓御所で自刃した夫人の遺骸とともに八幡の霊応寺（八幡宮の別当寺で御朱印地150石、のちに満徳寺が寺格を受ける）の境内に葬られ、やがて五輪塔が建てられ家臣は墓のそばに御堂を

石仏多い無縁塚

境内墓地

句碑

不動明王像

天正20年 1592	寛永10年 1633	寛政7年 1795	弘化4年 1847	万延元年 1860	明治元年 1868
霊応寺	若宮寺 87－69	若宮寺 18石	若宮寺	若宮寺 18石	若宮寺
天正坊	満徳寺	満徳寺 6石	満徳寺	満徳寺宝乗坊 6石	宝乗坊 6石
円乗坊	円寿院	円寿院 14.2石	円寿院	円乗院 14.2石	
本覚坊	親王院	神王院 11.3石	神王院	神王院 11.3石	
寂光坊	法蔵院	宝蔵院 6.4石	宝蔵院	恵鏡坊 6.0石	
慶長20年 1615	安養院	安養院 10.2石	安養院	花蔵坊 10.2石	
若宮寺	光徳院	広徳院 8.5石	広徳院	大林坊 8.5石	
寂光坊	東学院	東覚院 7.2石	東覚院	一乗坊 7.2石	
	円通寺 ?	長寿院 6.6石	長寿院	西林坊 6.6石	
	法福院 ?	宝珠院 2.7石	宝珠院	東泉坊 2.0石	

各種資料による満徳寺、霊応寺、若宮寺の変遷

後半は多くが無住、破院で院坊名と権利が継承された

明治4年に廃寺

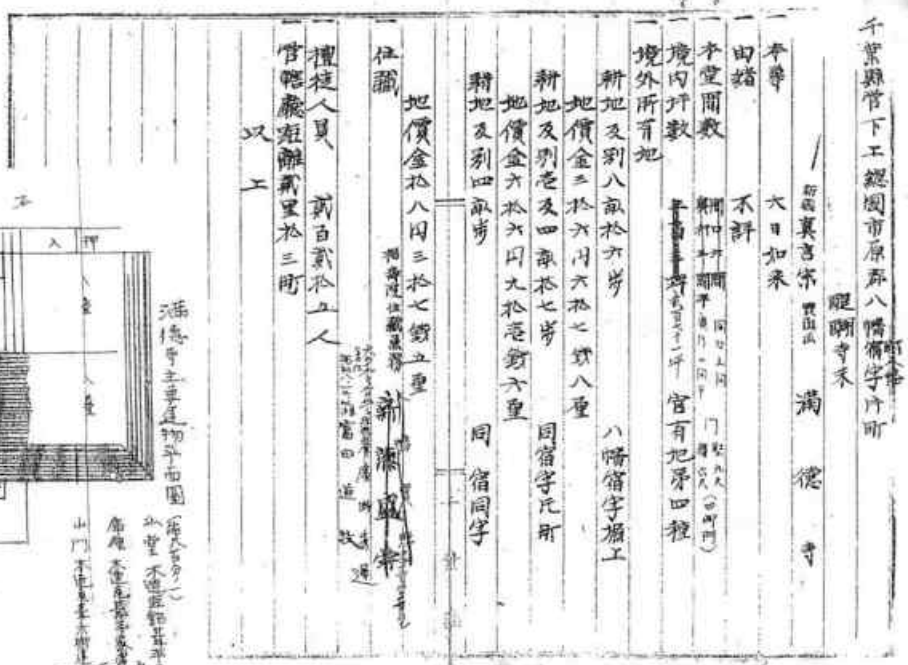
現在に継続

満徳寺所蔵の古文書

協力
八幡の石造物研究会
市原の古文書研究会

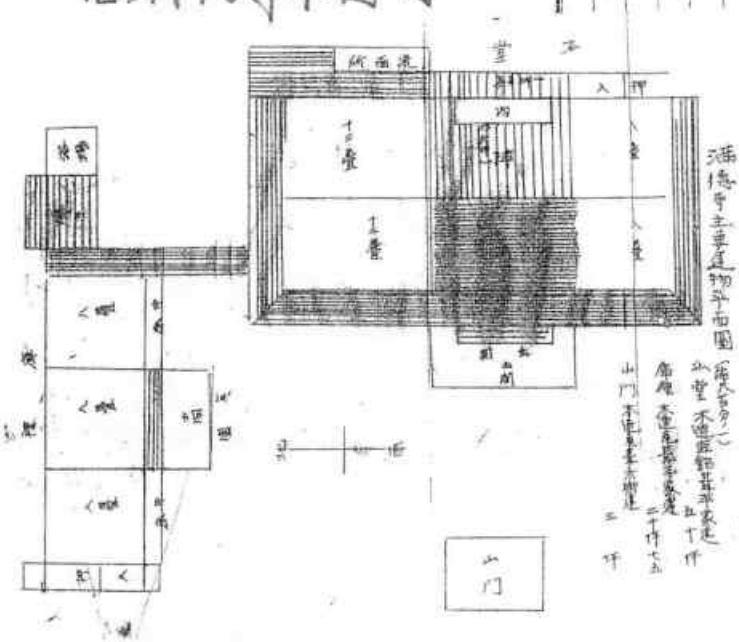
資料提供と引用文献
飯香岡八幡宮文書、満徳寺文書
千葉県文書館資料、市原地方史研究
市原市文化財センター研究紀要
市原市八幡地区の遺跡と文化財
千葉県の歴史、市原市史

千葉県寺院台帳



明治10年代～昭和20年に

旧満徳寺平面図

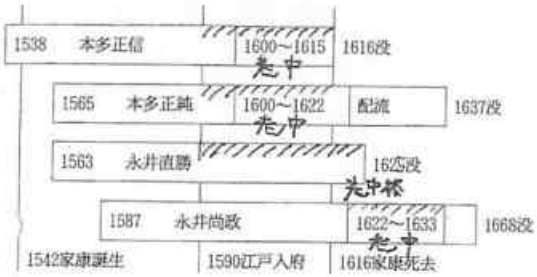


八幡史学館②　八幡公民館主催事業

徳川幕府創設期の重臣・本多正信、正純父子と八幡

平成２０－８－５（火曜日）

山岸弘明



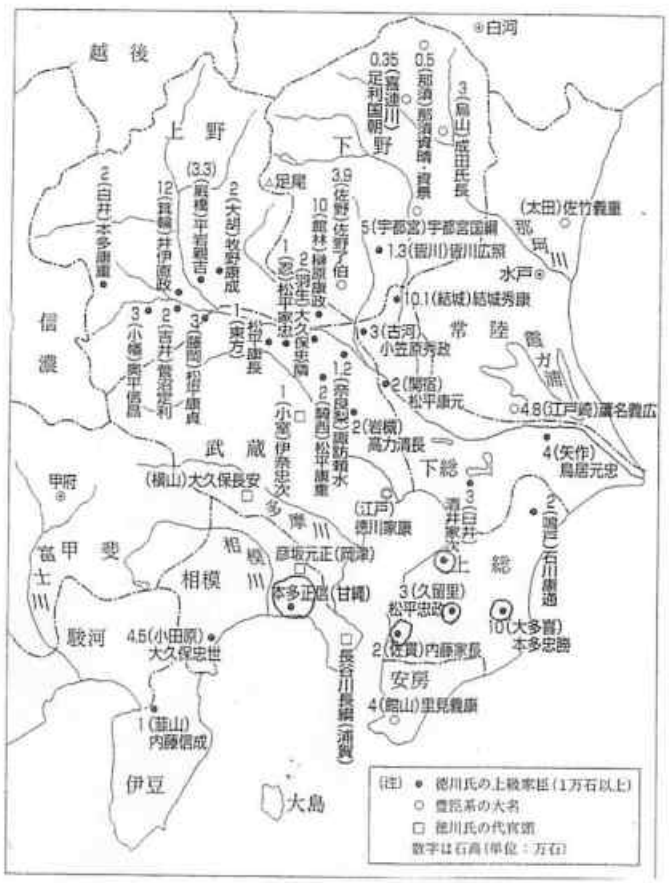
本多俊正
- 正信
  - 正純（改易）
    - 正勝
      - 正之　御家人２千俵で再興
    - 正好　大垣に住す
    - 政遂　下野榎本２万石無嗣改易
  - 忠純
  - 正貫　上野沼田３万石
- 正重

永井直勝
- 尚政
  - 尚征　大和柳羅１万石
  - 尚庸　美濃加納３万石
- 直清　摂津高槻３万石

本多正純の年表（寛政重修諸家譜など）

(1)永禄８年（1565）本多正信長男、三河で生まれる。
(2)天正10年（1582）徳川家康小姓、翌11年弥八郎正純名乗る
(3)慶長５年（1600）関が原の合戦、家康にしたがう
　正純の部下が石田三成を捕らえ、速行後切腹させる。
　このころから実質老中
(4)慶長６年、従五位下上野介、小山など３万石余
(5)〃　８年、家康の将軍宣下、江戸幕府誕生、拝賀に供奉
(6)〃　12年、家康将軍職を退き大御所、江戸・駿府二元政治
　家康側近筆頭、父正信と連携して秀忠に指令を実行させる
(7)慶長19年、京都方広寺鐘銘事件を金地院崇伝とおこす。
　大阪冬の陣。大坂城惣堀埋め立てを奉行
(8)元和元年（1615）大坂夏の陣、豊臣氏滅亡
(9)〃　２年、家康逝去、江戸にいたり秀忠国政に参加
(10)〃　５年、加増。宇都宮15万石余、翌６年宇都宮城大修復
(11)〃　８年、家康７周忌法会、奉公ぶり不足として配流
　４－12秀忠江戸城出発、13古河城、14宇都宮、15今市宿泊
　16日光到着、17～19法会、19壬生、20宇都宮やめ岩槻宿泊
　21江戸城到着、老中宇都宮城巡察（捜査）
　８月永井直勝とともに最上氏改易、山形城受け取り役
　〃　現地で幕府使者の詰問を受ける
　10月改易、出羽由里に配流、新知５万石余
(12)元和９年、秀忠引退、家光３代将軍就任
　10月秋田藩大沢郷に移され1,000石
(13)寛永元年（1624）佐竹義宣預かり、横手に配流、５－２着
(14)〃　２年、幕府から秋田藩に厳命
(15)〃　７年５－10嫡男出羽守正勝没35才、幕府検視
(16)〃　14年２－29没73才、幕府検視、聞３－１正平寺で葬儀

「君臣水魚の交わり」→配流、「謀臣親子」の栄光と挫折



大坂冬の陣

方広寺

徳川3将軍 家康 秀忠 家光

碑は語る　秋田県南の地誌

無念の思い胸に没す

「本多上野介正純父子絵塔之地」碑

子孫ら献茶 先祖供養

本多正純親子をしのぶ

横手市

横手市の本多正純親子をしのぶ法要が、二十五日、横手市の光徳寺で開かれた。本多家の十四代当主・木村日出男さん（六七）=秋田市=も参加した。本多家の14代当主手前を、と15代当主も参加して弟かれた墓前法要茶会

本多上野介正純の墓

横手・城跡の南東の一角に、雑談や小鳥で知られる「宇都宮の釣天井」の手人公、本多上野介正純の墓がある。

正純は、父の正信とともに江戸幕府創業の功臣として家康の信任が厚く、家康の死後の元和五年（1619）に宇都宮一五万五〇〇〇石にまで加増された。

家康七回忌にあたる元和八年、二代将軍秀忠は日光東照宮へ参詣することになった。途中、岩槻・古河・宇都宮を宿舎と決めた。

各藩は宿舎を整えるため大使理を行ったが、とくに日光のお膝元にあたる宇都宮は、警備の万全を期するため京都から鉄砲も運んだという。

これが秀忠暗殺の噂となり、秀忠一行は宇都宮へ寄らずに江戸へ帰ってしまった。

正純・正勝親子は弁明も許されず、同年八月に出羽国由利に流され、翌年には仙北郡大沢に移された。さらに寛永元年（1624）には佐竹藩預かりとして横手に配流された。

寛永七年に正勝が病死し、同一四年には正純も配流の地で七二年の生涯を閉じた。

佐竹氏時代には江戸幕府にはばかって墓石を建てるのも控えていたので、この墓の建碑は明治四一年（1908）のことである。

市内城山町、横手駅からバス本町下車10分
2007.9.25、27.9.27

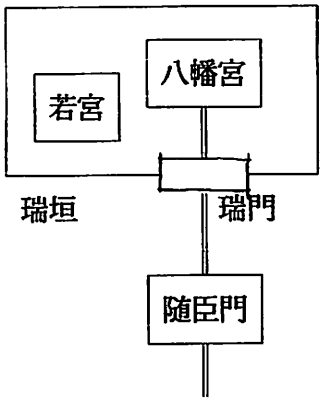
幽閉の地横手で非業の最後を遂げた本多正純の伝辞世句

日だまりを　恋しと思ううめもどき　日陰の赤を見る人もなく

1）　「八幡新名所百景」をつくろう ―― 「百景チーム」がスタート
① 史学館名所百景チーム（仮称）＝メンバー10名。予定数に達したがご希望の方はどうぞ。
第1回7月1日、第2回本日午後。明年3月終了
② 「八幡新名所百景」の選定
③ 9月11日～30日「八幡公民館とやわたむかし展」昔写真と「歴史散歩」など
9月21～23日「稱念寺山口達画伯全50作品展」応援
④ 山口達画伯「スケッチ画」5点

2）　飯香岡八幡宮別当寺＝霊応寺と満徳寺（前回講座） ―― 復習とまとめ
① 別当寺＝神仏習合（混こう）時代、神社に付属した寺をいい、社務を統括した。
(1)江戸時代は「寺請け制」を背景とした寺社行政で寺優先、神社より別当寺の方が偉かった
② 飯香岡八幡宮の別当寺は霊応寺（通称＝若宮寺）と満徳寺で、菊間の若宮神社別当も兼ねた。
(1)新義真言宗、京都醍醐寺、三宝院末寺、江戸触頭・円福寺（愛宕権現別当寺）
(2)徳川時代、飯香岡八幡宮の社領150石は別当寺がおよそ3分の2、神社3分の1に配分された。
③ 霊応寺住職の任免権者は円福寺で役僧などを派遣した。
正規の住職は江戸にいて現地は代理者に任せきりという時代があり、僧侶の不正や風俗頽廃も。
④ 霊応寺と満徳寺には子院（衆徒）が八幡地区に8か坊、菊間に4か寺あった。
(1)子院の大半が無住、破院で名前と権利が継承された
⑤ 神社と別当寺は本来良き協力者だが、利害が錯綜していることなど対立することが多く、しばしば訴訟沙汰になった。
(1)文政2年、13年、天保9、10年＝文政は住職が僧籍剝奪、江戸追放、天保は厳罰逃れて駆け落ち。
⑥ 明治維新、新政府の天皇を神格化のために「神仏判然令」を発令、別当寺は廃止された。
明治元年7月最後の住職が病死、近隣村住職が後継を名乗ったことから騒動となり、「廃仏毀釈」の洗礼を浴びた。明治初年、跡地に国の「神道中教院」が置かれた。
(1)仏像や教典が焼かれ、建造物も暴力的に取り壊された
⑦ 明治7年、中教院が八幡小学校敷地として下賜された。

3）　若宮神社関連の補足説明（滝本平八氏のご指導をいただきました）
① 若宮神社は飯香岡八幡宮の摂社として誕生したといえる
② 「若宮神社一帯を飯香岡八幡宮前身地」とする考え方（今後の研究検証が期待される）



(1)本来、八幡宮とその摂社・若宮神社は同じ敷地内に置かれるのが自然、例えば図のように並んでいた？
(2)周辺一帯に広い境内地が可能
保元3年石清水八幡宮官宣旨（石清水八幡宮文書）市原別宮
応安8年市原八幡宮国役、庄役注進状（三宝院文書）などとも符合
(3)八幡宮は交通便利な海浜往還に移り、何らかの理由で若宮神社が残った
考え方の根拠
(1)飯香岡八幡宮と若宮神社の別当寺が同じ。
社僧は八幡宮別当寺の子院で社領配当を受けている
(2)由緒や神事の共通点　(3)立地と地形
(4)現存する随臣は随臣門のものか
(5)隣接千光院（若宮寺子院跡地）から鎌倉後期板碑出土

② 銅板屋根板（現物、明治後期千葉県博覧図、調査報告書の写真）
(1)文化十一甲戌五月十日より、上総国市原郡八幡村正八幡宮、若宮八幡宮、両社別当若宮等無住につき満徳寺より、神主根本河内、相手取り候一件の控え（旧若宮神社神主家文書）＝
およそ1丈周りもこれあるべき大杉、本口より切りかかり、本社へ倒れ根返りいたし、二重垂木、赤銅瓦葺きにて、間中四間に奥行き三間余これあり候本社、央（なかば）より打ち潰れこれあり
(2)現物は文中の銅板で文化11年以前建造といえる。こけら葺きを下地に重ね葺きされていた。
(3)伸銅史を展示している「朝霞市博物館」や「社団法人日本銅センター」によると
朝霞市内の黒目川には江戸後期、大きな水車が設置され、米つき、粉引き、油しぼりなどに利用された。伸銅業は文化、文政ころ始まり、以後主要な地場産業に発展していった。
(4)「伸銅」＝銅や銅合金を高温で熱し、叩いたり伸ばして線や板に加工する産業で、弘化4年江戸城本丸御殿の屋根銅板を受注している。

次回以降の予定
第3回（9月2日）八幡・五所ことば（仮題）＝お客さま・佐倉東雄さん
第4回（10月4日＝午後も）現地巡検＊隣町浜野を歩く＝旧生浜町役場庁舎、民具展示場、八幡と同じ海の町、旧道を浜野から村田川まで歩き現地解散（八幡宿駅までバス3分または徒歩15分）詳細は次回説明します

徳川幕府創設期の重臣・本多正信、正純父子と八幡

1）　**小田原落城 —— 豊臣秀吉の小田原攻略と上総進攻**

① 織田信長の「天下布武」を後継した豊臣秀吉は、天正18年（1590）最後まで抵抗する小田原の北条氏政、氏直を攻めた。秀吉軍は20万が小田原城を包囲、籠城３か月、寝返りや一夜城の出現などで戦意を喪失、総攻撃を前にした７月５日氏直が開城して秀吉に降伏した。

(1)「北条征伐」口実は北条氏の「沼田攻め」が私戦を禁じた「惣無事令」違反と断定されたこと。天正17年秋、北条氏に宣戦を布告するとともに諸大名に明春の「小田原征伐」出陣を命じた。秀吉の胸中は目前にした「朝鮮出兵」の「一大予行演習」とされる。

(2)当時上総は北半分の大多喜、勝浦、造海、久留里城が里見領で豊臣方に付き、南半分の佐貫、万木、庁南（長南）、東金、池和田、成東城は北条方と二分された。

(3)八幡は北条方で、千葉氏重臣で小弓と臼井城主を兼ねた原胤栄の所領であった。胤栄の軍役は２千騎、全軍を率いて小田原城に集結、両城は老人、子供、女の非戦闘要員が残った。

(4)里見氏は豊臣方ではあったが、戦後、勝手な軍事行動を取ったとして上総領国を没収された。

② いろは落とし —— 上総進攻は記録にも残らない

４月６日秀吉は完全包囲の小田原に到着、４～６月前田利家、上杉景勝らの北陸軍は松井田城、鉢形城、八王子城を落とし、籠城を続ける小田原城が孤立していく。

(1)下総は４月～５月に、上総も６月ころ平定されたとみられる。

(2)下総、上総攻略軍は木村重高、浅野長政を大将に、家康の家臣本多忠勝、鳥居元忠、平岩親吉ら２万。４月26日小田原を発し、江戸、臼井、東金城を降した後、本隊は家康の命令で岩槻へ向かった。

(3)上総は本多忠勝が長南城を拠点に鎮圧したが、詳しい内容は不明。

(4)原氏の本拠・臼井城は浅野軍の攻撃で落城、小弓城は攻め手の市橋兵吉が大巌寺に布陣したなどの記録が残るが、戦闘の有無などは不詳、特別な抵抗はなかったのではないか。

(5)寛政重修諸家譜、本多忠勝＝（北条）氏勝を郷導として五月上旬小田原を発し、江戸、佐倉、土気、東金、長南等の諸城をくだし進んで岩槻の城を攻める。（中略）およそ忠勝小田原を発してよりいくほどもなく武蔵、上総、下総、上野、下野の五国において四十八の城々ことごとく攻め落としければ太閤、東照宮に請いて忠勝をして庁南の城を守り、上総、下総両国を鎮めしめたまう。

(6)房総軍記＝世の人これをいろは城というとかや、実に手習いの初心に同じくして、さしたる勇力もなく、敵の大軍に恐れただ一命の助からんことのみ思い、親を捨て子を忘れわれ先にと落ち散る様あさましともいわん方なし

(7)榊原康政書状＝そのほか小城などかれこれ六、七十、あるいは捨て逃げ、あるいは明け渡し、命ばかり詫びをいう。

③ 飯香岡八幡宮「豊臣秀吉軍制札（おきて）」（姉崎・榊原家所有、八幡宮写し所有）

禁制　八幡郷　そうじゃ、きくま、やまき、村上、ごい、府中（能満）、ごしょ

一、軍勢甲乙人（とごうにん）等乱暴、ろうぜきのこと

一、放火のこと

一、地下人（じげにん）百姓に対し非分の儀もうしかくること

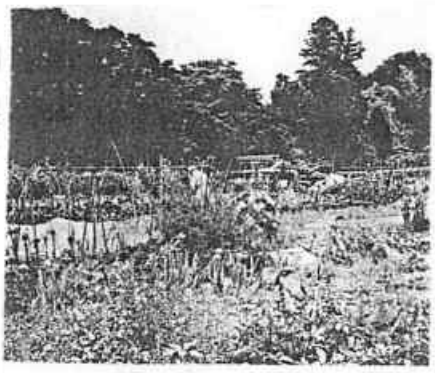
右の条々堅く停止（ちょうじ）せしむ。もし違反の輩においてはたちまち厳科に処さるべきものなり

天正十八年五月日　（秀吉朱印）

(1)制札は小田原から持参、５月３日100枚追加、秀吉禁制、掟書、木村浅野禁制、添書の４種同文のものが多く本来、制札と朱印状がセットとみられる。

④ 北条氏に与した房総の諸将、千葉、原、高城氏、上総の両酒井、長南武田、万木土岐の各氏は北条氏とともに滅亡、生き残った家臣の多くは帰農し、一部が徳川政権下、諸大名の家臣として江戸時代に続いた。

北条攻



小弓城跡

後北条氏側につく両総の陣容

下総	佐　倉(佐倉市)	千葉氏	3,000騎
	臼　井(佐倉市)	原氏	2,000騎
	小　金(松戸市)	高城氏	700騎
	矢　作(佐原市)	国分氏	500騎
上総	東　金(東金市)	酒井氏	150騎
	土　気(千葉市)	酒井氏	300騎
	長　南(長南町)	武田氏	1,500騎
	池和田(市原市)	武田氏	1,500騎
	勝　見(睦沢町)	武田氏	1,500騎
	万　喜(夷隅町)	土岐氏	1,500騎
	鶴　賀(岬町)	土岐氏	1,500騎
	へびうか(不詳)	土岐氏	1,500騎

2）　領主と地域の編成 —— 上総、市原の所領配置

北条氏を滅ぼした秀吉は家康に関東移封を命じ、家康は天正18年８月１日江戸に入った。

(1)家康の新領国は上総、武蔵、相模、伊豆全域と下総、上野の大部分、下野の一部など合計250万石
秀吉政権下最大の大名になった

① 家康はただちに榊原康政を総奉行、伊奈忠次、青山忠成に命じて家臣団の知行割りに着手
(1)歴戦の有力武将を最前線に、小旗本は近く、直轄蔵入り地を江戸周辺にまとめた。

② 上総は仮想敵国の安房里見氏に対抗、没収した元里見拠点＝大多喜城に本多忠勝10万石、久留里城に榊原康政の長男・大須賀忠政３万石、佐貫城に内藤家長２万石を配して「境目の城」を固めた。
(1)里見氏に対する本多忠勝の威圧（ネームバリュー）、また里見系、北条系国人層を分断した。
(2)上総には中小旗本が配置され、徳川家の蔵入り地とされた。
(3)本多忠勝らは１万石を超えたが、家康の家臣の過ぎずまだ大名とはいえないのではないか。

③ 家康江戸入り当初の市原の所領配置はほとんどわかっていない。
(1)市原の大多喜寄りは本多忠勝領、久留里寄りは大須賀忠政領に組み込まれた。
(2)八幡、五井、姉崎の房総往還筋、交通要衝に中堅譜代旗本が配置された。
(3)五井には松平一族（徳川家親戚）の松平家信5,000石が置かれた。
(4)上総の喉元にあたる八幡は家康側近に本多正信、正純父子と譜代武将の永井直勝領となった。
直勝の父長田重元も荻作、小田辺村を知行した。
(5)このほか市原には天野雄得2,100石、水野義忠2,000石、坪内利定2,000石、粟生某1,500石、
小倉吉次620石、芦屋忠知500石、酒井某などが配置された。ほかの多くは未詳。
(6)現地に入った旗本たちの多くが中世城郭を陣屋として利用したとみられる。寛永２年に至り徳川家光が関東の封地に分散していた旗本たちを江戸へ集結した。

④ 戦国時代後期八幡周辺を支配していた小弓には旗本5,000石の西郷家員が入封、北小弓城を居所とし、寛永３年に森川重俊生実藩が成立した。以後江戸時代を通じ八幡が下総領主の支配を受けることはなかった。

3）　八幡は本多正信父子と永井直勝領に —— 謎の本多正信所領４説

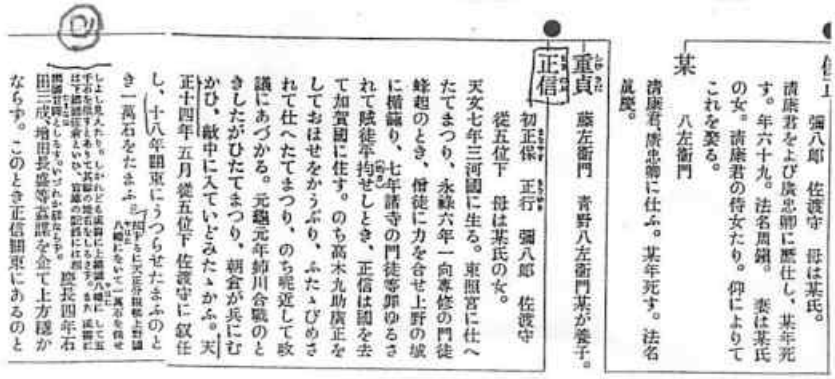
① 家康の江戸入府当初の八幡領主は「市原市史」は天正18年から永井直勝を記し、残りは貞享まで不詳としている。

② 市史で不明としている残り所領は、「飯香岡八幡宮文書」などから本多正信、正純父子であることが判った。

③ 徳川家康の「謀臣」とされる本多正信の所領は通説「甘縄藩」だが、江戸時代の書物もまちまちで、候補地の１つに八幡があった。
(1)寛政重修諸家譜（後出）＝（天正）十八年関東に移らせたまうのとき一万石をたまう。案ずるに天正分限帳上野国八幡において一万石を領せしよしみえたり、しかれどもある書に上総国八幡にして五千石を領すとありてその余を記さず、またある書には下総国佐倉といい、官庫の記録には相州甘縄と記す。いずれか詳ならず。
(2)寛永諸家系譜伝、徳川実記＝所領の記載はない
(3)家康公関東御入国御知行割＝（天正18年）九月十日家康公御家人へ御知行御配分これあり、その記録
本多佐渡守正信＝１万石、上州厩南（上総庁南カ）、一説に相州玉縄
(4)日本史料集覧＝八幡城（中略）神祖（家康）本多佐渡守正信を本国に封じてこの城に居らしめ１万石を食む。しらぶるに『房総治乱記』にいう、神祖、正信を封じ長南城に居らしむ。『家忠日記』に曰く、神祖、正信を封じ、相州玉縄（甘縄）において一万石を食む。諸書不一、未だいずれを是とするか知らず、いま『鵜峰行賞禄』による。

④ 大別すると次の４説に分けられる。
(1)甘縄（玉縄＝神奈川県）、上総八幡（上野八幡は上総の誤記とみる）、長南、佐倉説
(2)通説は「玉縄１万石」。正信が玉縄で１万石を得、城は城代水野忠守が預かりその子忠元が封をえた。
寛永２年松平正綱が玉縄２万石で入り、３代正久の元禄16年大多喜に移封、廃藩になった。

「日本城郭大系」の玉縄城



北条氏の滅亡後、関東に入った家康は本多正信を配したが、その後、水野藩祖忠守に玉縄城を預け、忠守は子息を二の丸と三の丸に置いて守備した。寛永二年（一六二五）に松平（大河内）正綱が二万二千石で入封し、玉縄藩を立てた。しかし元禄十六年（一七〇三）に孫の正久が上総大多喜に移封されるに及んで廃藩となった。

正信　重貞　藤左衛門　青野八左衛門某が養子。
初正保　正行　彌八郎　佐渡守
従五位下　母は某氏の女。
天文七年三河國に生る。東照宮に仕へたてまつり、永禄六年一向專修の門徒蜂起のとき、僧徒に力を合せ上野の城に楯籠り、七年諸寺の門徒零落ゆるされて賜徒牢拘せしとき、正信は國を去て加賀國に住す。のち高木九助廣正をしておほせをかうぶり、ふたゝびめされて仕へたてまつり、のち昵近して敢議にあづかる。元龜元年姉川合戦のときしたがひたてまつり、朝倉が兵にむかひ、敵中に入ていどみたゝかふ。天正十四年五月従五位下佐渡守に叙任し、十八年關東にうつらせたまふのとき一萬石をたまふ。

彌八郎　佐渡守　母は某氏。
清康君をよび廣忠卿に歴仕し、某年死す。年六十九。法名周耀。妻は某氏の女。清康君の侍女たり。仰によりてこれを娶る。
某　八左衛門
清康君、廣忠卿に仕ふ。某年死す。法名嵐慶。

「寛政譜」の八幡領所載個所

4）　**八幡宮、潤井戸名主家文書などで本多正信、正純の「八幡領説」を考える**

①　正純の飯香岡八幡宮への大太刀寄進＝天正20年（文禄元年）８月、本多正純が文禄の役出兵中の家康（名護屋まで）武運長久を八幡領の源氏氏神へ祈願。

⑴太刀銘＝大納言源家康、武運長久、特には今度唐入り、早速凱陣、丹精の旨趣、よってくだんのごとし、上総国市原郡八幡宮、寄進奉るものなり、天正二十壬辰年八月十八日使者、本多弥八郎正純（市史などは正綱と読んでいる）

②　八幡宮文書＝御宮殿惣間のこと（敷地、建物間数＝中略）慶長十八巳（丑）年八月、（差し出し者＝八幡宮）本多上野介（正純）様、御役人中、右書面本多侯に差し上げ申し候。

⑴領主への「書き上げ」＝状況証拠といえる。

③　八幡宮文書＝八幡宮境内の内、地頭方へ御蔵造立につき蔵屋敷に貸し地の分、間地、竪九十間、横十九間、本多佐渡守（正信）、本多上野介（正純）、永井信濃守（尚政）、三給地頭方へ貸し地なり、慶長十九甲寅年五月。

右三給地頭方、御蔵造立につき、御蔵米運送新規みお掘割り地所当社表海面御除地の内、別紙証文のとおり貸し地致し、冥加金として一両ずつ年々上納致すものなり。

⑴八幡村の領主を本多正信、正純、永井尚政の３給と明記。この時作られた蔵屋敷地は現在、八幡公民館、市原支所などに、みおは後の南町みおで、船だまり（港）は八幡保育園前の平成通りあたり、みお筋は理容学校、職業訓練校一帯から八幡沖に通じた。

④　潤井戸山本家文書（市原市史／資料編近世２）＝潤井戸村万（よろず）覚え書
文禄年中から慶長まで本田（多）佐渡守（正信）様領

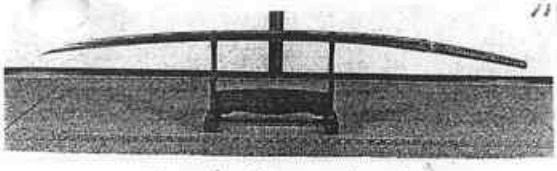
⑴家康江戸入り初期の段階で八幡周辺に本多正信領が存在したことを示している。

⑤　八幡宮文書＝文禄三甲午年、永井右近太夫（直勝）殿当社御信仰あらせられ、これにより御造営料として米二百俵御寄進あらせらる。

5）　**大名所領、旗本知行所、直轄天領が交錯した ―― 八幡村の所領変遷**

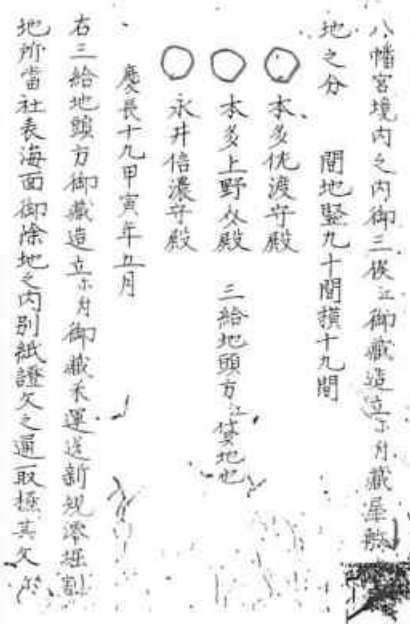
①　八幡村の江戸時代の領主変遷を８ページの表にまとめた。
はじめ大名所領で後期は主に旗本知行所、旗本７人と幕府直轄領、八幡領を加えた９給で明治維新におよんだ。

②　大名所領（当初旗本も含む）＝９藩13人
⑴本多八幡藩＝正信１万石（定府＝陣屋はない）
⑵本多小山藩（旗本から）＝正純５万石余
⑶永井潤井戸、古河藩（旗本から）＝直勝、尚政８万石余
（後出）
⑷堀八幡藩＝直之から４代（陣屋地は不詳）
⑸大久保八幡藩＝忠高１万石（定府＝陣屋はない）
⑹酒井前橋藩＝親恭15万石（飛び領）
⑺松平川越藩＝朝矩10万石（〃　）
⑻阿部佐貫藩＝正簡１万石余（〃　）
⑼林貝淵藩＝忠英１万石余（〃　）



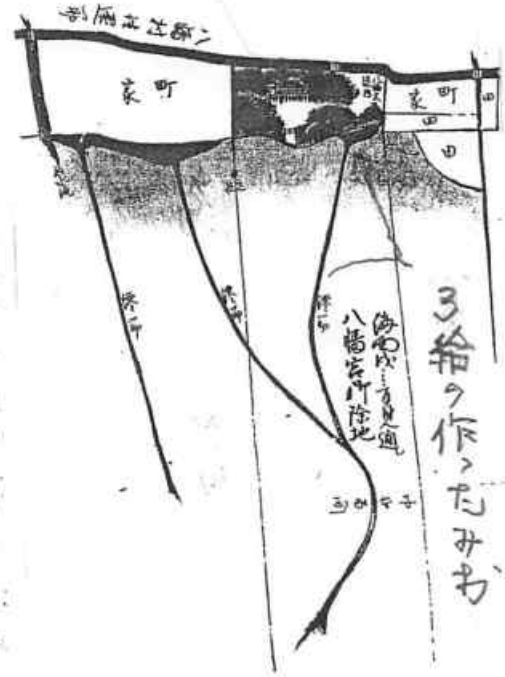
正純寄進の大太刀

飯香岡八幡宮



八幡宮境内之内御三給江御蔵造立ニ付蔵屋敷地之分　間地竪九十間横十九間
○本多佐渡守殿
○本多上野介殿　三給地頭方江貸地也
○永井信濃守殿
慶長十九甲寅年五月
右三給地頭方御蔵造立ニ付御蔵米運送新規掘割地所当社表海面御除地之内別紙證文之通取極冥加

三給示す記録
八幡宮御伝記



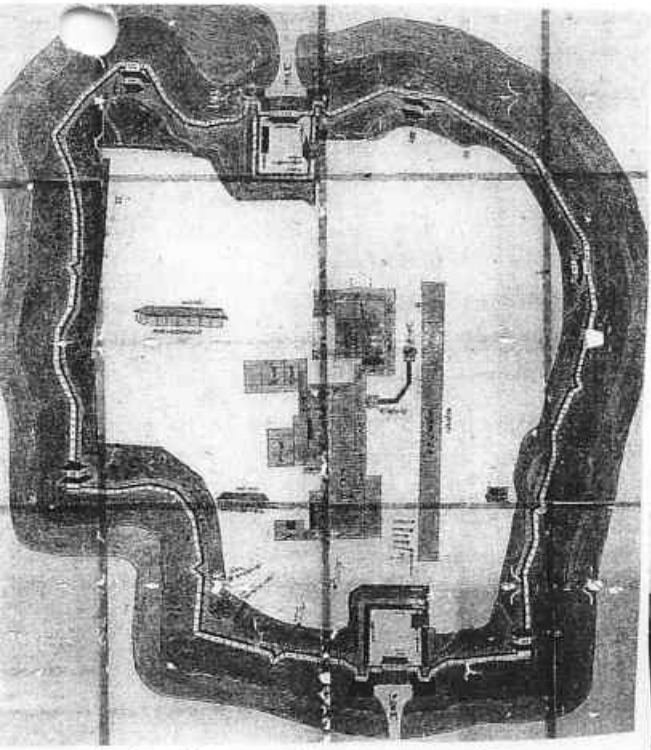
蔵屋敷跡

↓みお跡

③　旗本知行所＝判明しているだけで９家およそ50人を数える。最後の旗本家は
(1)永井豊前守＝旗本4,300石。古河永井分家で直勝３男から始まる。代々小姓組番頭など
(2)佐野九右衛門家＝旗本250石。代々大番、新番など
(3)村上三右衛門家＝旗本1,200石。正清が小普請奉行で甲斐守に
(4)河野権九郎家＝旗本2,200石。通訓が京都町奉行、作事奉行から田安家家老に
(5)水野石見守家＝旗本6,000石。家康生母お大の妹の子から始まる。代々従五位で守名乗り多い
(6)松本兵庫頭家＝旗本500石。秀持が勘定奉行で田沼政権を支えたが失脚して罪に問われる
(7)岩本内膳正家＝旗本2,000石。正利の娘お登美が11代将軍生母となり加増、側衆に
④　幕府直轄領＝上総代官が支配した
⑤　飯香岡八幡宮領＝朱印150石（別当寺と神社が配分）

6）　家康と「君臣水魚の交わり」 ―― 知謀と行政手腕を発揮した本多正信
①　藤原氏兼通流。本多氏は三河の武士団で、一族を挙げて松平氏に仕え江戸時代、譜代門閥として重きをなした。正信は戦国時代から江戸はじめにかけての家康側近で「謀臣」として著名、天文７年本多俊正長男に誕生、「三河一向一揆」の時一揆に加わったとして一時三河を追放されたが、のち許され武田家滅亡後の「甲斐経営」などで頭角を表した。天正14年佐渡守叙任、18年の関東入府にしたがって関東総奉行に任じられ１万石（最終２万石余）となった。慶長５年の関が原の合戦は秀忠に従って東西決戦には遅れた。戦後は井伊直政、本多忠勝らと徳川政権の中枢を担い、秀忠付き老中として活躍した。家康とは「君臣水魚の交わり」とされ、知謀とその行政手腕が評価された。
(1)はじめ正保、正行、弥八郎、佐渡守、従五位下、老中（慶長５年～元和元年）
(2)正信の墓は京都本願寺だが非公開、法号は善徳納□（言へんに毎）院
②　正信所領１万石のおよそ半分にあたる５千石が八幡だが、定府大名で城や陣屋は築かれていない。

7）　「吊り天井事件」で失脚 ―― 家康忠臣の余りにもさびしい最後
①　本多正純は父正信とともに江戸幕府創設期の功臣、家康の最側近として近侍、没後は秀忠執政、宇都宮15万石城主として権勢を究めた。が、それも長くは続かない。家康７回忌にあたる元和８年、秀忠の日光社参に備えた「宇都宮城大改修」が秀忠暗殺の噂をよび、正純は弁明も許されず、同年８月出羽（青森県）由利に流され、寛永元年佐竹藩預かりとして横手に移された。
(1)正式な改易理由は「上野殿御奉公ぶり御不足、福島太輔（正則）殿おんこと、宇都宮御拝領のこと、宇都宮城普請のこと」。反正純派が将軍と直結して追放したもので、その遠因は対立を深めた秀忠側近の武功派との確執にあった。正純は権力の座からの引退時期を見誤ったといえる。
②　寛永14年２月29日または３月10日横手城裏山の蟄居先で逝去73才。
徳川幕府功臣の余りにもさびしい最後であった。
(1)法名高源院殿鉄勢常心大居士、横手正平寺葬、当初墓碑はなく明治42年建立
③　嫡男正勝も父とともに配流、寛永７年５月10日没35才。法名は傑叟院殿雄山英公大居士
(2)正勝の長男正好は外祖父戸田氏鉄に預けられ、美濃大垣に住す
正勝の配所での２男正之は４代将軍家綱の寛文４年赦免、2,000俵をえて子孫が明治維新に及んだ。


宇都宮お城御殿古図

正純配所跡碑

正純の墓

←復元宇都宮城

八幡村領主の変遷

☆永井直勝　天正18年～慶長ころ

☆本多正信　天正18年～元和2年

☆本多正純　天正ころ～元和はじめ

飯香岡八幡宮　天正19年～明治維新　150石

☆永井尚政　慶長ころ～寛永10年

☆堀　直之
〃　直景
〃　直良
〃　直宥　寛永10年～元禄11年

幕府直轄　元禄11年～宝永4年

永井直貞
〃　直孟
〃　直澄
〃　直朝
〃　直賢
〃　直富
〃　直観
〃　某
〃　某
〃　直景　寛永3年～明治維新　182石

永井直重　寛永3年～天和2年

佐野政国
〃　政長
〃　政信
〃　政房
〃　某
〃　某
〃　某　宝永4年～明治維新　226石

村上正春
〃　正清
〃　正親
〃　某
〃　某
〃　某　宝永4年～明治維新　178石

河野通護
〃　通長
〃　通孝
〃　通成
〃　通開
〃　通訓
〃　通和　宝永4年～明治維新　95石

水野忠顕
〃　忠富
〃　忠英
〃　政勝
〃　貞利
〃　貞篤
〃　貞尚　宝永4年～明治維新　89石

酒井忠吉
〃　忠経　寛永10年～元禄？

☆大久保　忠高　貞享元年～元禄10年

幕府直轄　元禄10年～延享3年

☆酒井親恭　延享3年～寛延2年

松本秀持
〃　式毅
〃　毅実
〃　某　安永8年カ～明治維新　166石

☆松平朝矩　寛延2年～明和7年

幕府直轄　明和7年～文化8年

岩本正利
〃　正倫
〃　正脩
〃　正遠
〃　某　天明7年～明治維新　205石

☆阿部正簡
〃正あき　文化8年～天保3年

幕府直轄　天保3年～天保5年

☆林　忠英　天保5年～天保12年

幕府直轄　天保12年～明治維新108石

明治維新後＝房総知藩事柴山支配地、
菊間水野藩領をへて廃藩置県

☆印＝大名所領、無印＝旗本知行地または幕府直轄領

8）　家康、秀忠２代の側近 —— 永井直勝と尚政親子

①　永井氏は垣武平氏の流れではじめ長田といった。直勝は永禄６年（1563）松平（徳川の前姓）譜代の武将、長田重元の２男に誕生、はじめ岡崎三郎（家康の長男）に仕え、死後から家康に近侍した。本能寺の変後の苦難の帰国から名護屋遠征、小田原攻略などに供奉、小牧長久手の戦いでは槍働きも光った。家康の江戸入りに従って八幡など5,000石を獲得、関が原の合戦勝利で2,000石を加増され、家光時代に老中格となった。元和２年小幡２万石、笠間５万石をへた元和８年（1622）に古河７万石に栄進。寛永２年没、63才。古河市西町の永井寺（えいせいじ）に眠る。

⑴伝八郎、右近太夫、従五位下。父長田重元（直吉）も天正18年に市原の荻作村、小田部村に采地を与えられている。文禄２年本国大浜で没90才。

⑵永井寺の墓は４ｍを超す巨大宝篋印塔で＜大雄院殿永井月丹大居士［以下判読不能］＞、隣接して２男で山城長岡城主永井直清が刻んだ顕彰碑も大きいが磨耗が激しく肉眼での判読はできない。

②　尚政は天正15年（1587）直勝長男に誕生。関が原の合戦は父とともに出陣、７年秀忠の側近となり、1,000石を得た。大坂夏の陣は家康軍に加わり4,000石、ついで潤井戸で１万石を与えられ大名に列して、８年老中に進んだ。翌９年秀忠が引退、家光が将軍職を継ぐと秀忠とともに西の丸に退いた。寛永３年父遺領の内６万石を相続、あわせて８万石余で古河、寛永９年京の淀城に転封となった。寛文８年没、82才。宇治の興聖寺に葬る。

⑴伝八郎、信濃守、従五位下、従四位下、老中（元和８年～寛永10年）

⑵尚政の墓は興聖寺と永井寺の２か所にある。永井寺は宝篋印塔だがやはり判読できない。

③　市原の永井家所領は八幡村、潤井戸村、大厩村、荻作村、小田部村など。
八幡村（の一部）は天正18年～寛永２年直勝、３年～10年は尚政
潤井戸村（の大部分）は元和５年～寛永３年尚政であった。

④　直勝は家康に近侍したため八幡に城（陣屋）はなかった。

⑤　尚政の居城、潤井戸城（通称潤井戸陣屋）は市内潤井戸の神崎入り口バス停、交差点近くの微高地に置かれた。城遺構はほぼ壊滅、市の『埋蔵物文化財分布図』や伝承もまちまちだが、周辺に殿上、殿下、殿向、馬場作など城に関係した古地名が伝えられ、小字北大林、南大林、内山、山王台、山王後など高台の大半が城地といえよう。新宿は城下町で潤井戸堰も尚政時代に作られた。また、城地を詳しく観察すると虎口や土塁を巻いた升形らしい空間も確認できる。

⑴稿本千葉県誌＝潤井戸の西方にあり、方３町ばかりその敷地数字に渡れり、里人通じて殿山または殿台と呼ぶ。享保中、村民その跡を開墾して山林および畑となす。周囲の防塁および大手、升形、馬場などの形跡いまなお存す

⑵市原郡史＝享保９年４月阿部氏これを開拓して畑となせり

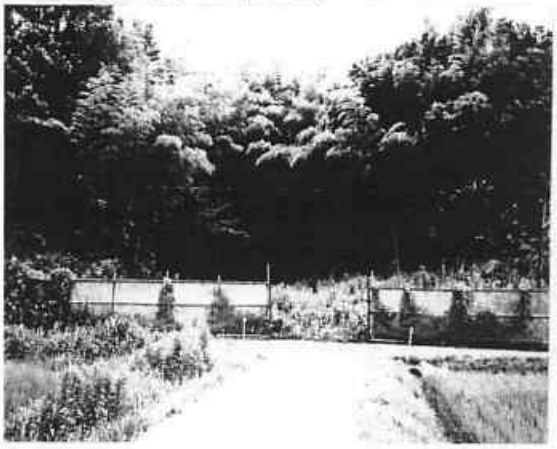
⑶潤井戸村明細帳＝永井様御陣屋跡、高10石にて保田内膳正様御代高に入る。４町５反２畝歩

⑷潤井戸城参考資料＝『平成17年度市原市五井・姉崎地区の遺跡と文化財』（拙著）

潤井戸城址↑　虎口(大手?)跡

尚政の井戸(塚)↑　桝型↓

古河城址↑直勝・尚政墓



→永井寺

平成２０年度『八幡史学館・３回』主催・八幡公民館

平成２０年９月２日（火）
午前９時３０分～１１時３０分
会場・市原市立八幡公民館

八幡五所地域の方言・田舎弁を散歩する

講師・八幡在住　佐倉東雄

１方言とは

『広辞苑」（五版・岩波書店）より

ア　一つの言語において、使用される地域の違いが生み出す音韻・語彙・文法的な相違。また、そのような相違に基づく同一言語の下位区分。地理的方言。

イ　共用語に対して、ある地方だけで使用される語。俚言。　※以下省略

『国語大辞典』（第三版・小学館）より

ア　共通語・標準語とは異なった形で地方的に用いられることば。また、中央の標準的な言葉に対して、地方で用いるその地独特の言葉・俚言・土語。　※以下省略

『大字源』（初版・角川書店）より

ア　特定の地方だけに使われることば。地方なまり。　※以下省略

２田舎弁とは

『広辞苑』　※田舎弁の項目なし

『国語大辞典』　※田舎弁の項目なし

『日本国語大辞典』（縮刷版第一版第一版・小学館）より

ア　いなかことば（田舎言葉）と同じ。

イ　いなかことば（田舎言葉）……田舎の人の使う言葉。田舎弁。

３俚言とは

『広辞苑』

ア　俗間のさとびたことば。

イ　共通語と異なる、その地方特有のことば。土地のなまりことば。俗言。俚語。

『国語大辞典』

ア　俗間に用いられることば。また、土地のなまりことば。俗語。俚語。

『市原市史・別巻』

ア　「ダッペー」「オエナェ」などは、方言の中の俚言と言うべきである。

４訛（なまり）とは

『広辞苑』

ア　なまること。標準語にくらべて音韻上、多少の相違がある発音、またはその言語。

『市原市史・別巻』

ア　「ワリー（悪い）」「デェーク（大工）」などは、発音だけが共通語からずれているので、これらは訛言（ナマリ）といい、方言の一部である。

あーてるこったね……あわてることはない。「でーぶできあがってんかん、そんなんあわてるこったね。あしたんがん残しておくべや」

あーんが……否定するときに用いる言葉で、話の頭につける。「あーんが、そーじゃねーだよ。だがそいなこと話てんだかね」

あがっと……土間。「あがっとさいねーで、こっちさあがってくんなよ。他人じゃねーだかん」

あくてー……悪態。「こんごろ孫があくてーたれんよんなったよこずけー減らすべや」

あげ……海苔ヒビの下部に藁を束ねたものを巻き付けるもの。捻じり鉢巻と思えばよい。海苔ヒビが波でぐらぐらしないため、あるいは抜けてしまわないために巻き付ける。一番沖合に立てるヒビには、二段か三段は巻き付けた。波の抵抗が一番強く受けるからである。「今日は、昼かんあげでんつけちゃうべ」

あまんげーろ……雨蛙。「今日は朝かん、あまげーるがよく鳴いてんけんが、雨んなんだおか」

あわっこ……嬰児。「おらが孫は、まだあわっこだよ」

あんでんねっちゃ……何でもないということだ。「医者ん診てもらったけんが、あんでんねっちゃ」

あんべー……塩梅。「今年ん出羽めーりは、あんべーがわりくてどーしてんいけねかん、皆にそいといてくろ」

あんらっちよ……あるんだってよ。「れーねんは、のーまんで供養があんらっちよ。このへんじゃ、何十年ぶりだっぺ」

いーからげん……いい加減。「あすこんおやじは、いつでんいーからげんなはなしばいして、おめもごまかされんじねーど」

いーぐれねー……結構なこだ。「そん話はおらが娘んとっていーぐれねー。嫁の話がひとつんねかっただかん」

いしら……おまえ達。「いしらそこであにやってんだ。わりーことしてんじゃねかっぺなー」

いちげー……一概。「そん話は、おいだっていちげーには賛成できんもんだん」

いちごにし……赤にし。「八幡ん海でん、いちごにしは採れたかんな。

いっかどり……一荷取採り。天秤棒とザル二つとマンガを用意し、歩いて浅蜊を採りに行くこと。腰には弁当を用意した。ザルノ大きさに制限はなかったので、力のある人は大きめのザルを用意した。女性が沖合から天秤に二つのザルをかけて家まで担いでくることは、大変なことであった。

いっぺ……行こう。「そろそろ時間みてーだかんいっぺ」※最後にぺの付くのは田舎弁の特徴であろう。他県は知らないが。「やっぺ→遣ろう」「へっぺ→入ろう」「ねっぺ→ないだろう」「うなってんぺ→うなってみよう」などなど。最後にべが付くこともそうである

いへー……位牌。「ふりーいへーがしっかいあんけんが、系図もねーし、おらんにゃさっぱりわかんねよ。江戸じでーの中頃からみてーだ」

いんしべ……終わりにしよう。「日が落ちてきたかん、ここらましでいんしべ」
いんべ……行こう。「そろそろ時間になったみてだかん、皆していんべ」
うっせー……うるさい「あすこんおやじは、うっせことばそいて、話んなんねかん役から下りてもらうべや」
うってーしー……うっとうしい。「おめがそばさくんと、うってーしーだよ。もーちっと離れていてくろ」
うらねー……占い。「おらが娘に狐がついたみてだかんつるめーの寝釈迦にみてもらうへか」
うります……売り桝。ケンチンマスともいい、沖合に浅蜊を買い付けに来ている船で用いた。米を計る桝のように二つの金具の取っ手がない。しかも薄い板でできている。浅蜊を入れて放り上げるからである。売手は浅蜊を七分ないしは八分ぐらい入れて、買い付けの船に放り上げる。これにはこつがある。受け取るほうも、一升入っていないことは承知である。
うんぱた……海岸。海辺。「そこらましさあんゴミをうんぱたさあとでいーかん、うっちゃっといてくろ」
えーつぎ……回覧。言い継ぎ。「えーつぎがきたかん、隣んがさすぐもっていくべや」
えーっこ……親類通しで、田植えなど忙しい時期、お互いに手伝いあうこと。「おらがうちは、昨日えーっこで田植えを済ましてしまったよ」※青森や秋田県では、方言で分家のことを「えっこ」といっている。関係があるのかも知れない。「結い」は方言でない。
えれー……沢山。「潮がいかっただっぺ。わたりがえれー採れたよ」
えれー……偉い。「あすこんせがれは、なめーきだったけんが、えれー出世しただっち話だ」
えれー……とても。あすこん嫁は、えれーおしゃべりだっちはなしだ。気をつけたほーがいーど」
えんでー……縁台。「こんえんでーはじいさんが造ったたもんだけんが、いまだしっかりしてんよ」
えんまーり……家の回り。「火付けがはやってんかん、えんまーりには、藁なんかおいとくじゃねーど」
おいねこった……いけないことだ。大変なことだ。「隣んせがれは、海ん補償金をみんな栄町でつかっちまたみてーだ。おいねこった。
おーずべぇ……満潮。「そろそろおーずべぇんころだっぺ」
おーぼって……激しく体の一部が痛むこと。「朝かん胃のあたりがおーぼってで、ひでくなんねうちに医者に診てもらうべ」
おーぺた……非常に下手糞。「おらがせがれは、あにやらしてんおーぺたで、どーしょんねーや」
おけやく……へつらうこと。「にしゃ、おいにそんなんおけやくしたって、あんもいーことはねーど」
おしくど……後頭頂部。「おしくどん辺りが、陽気のせーかどうもさっぱりしね

しもる……海水が舟の板の合わせ目からしみ込んでくること。こん舟はよくしもるよ。まいでザル舟だ」

しわっけつ……けちん坊。「しわっけつじやねきゃ、あんだけん身上は残んねかっぺよ」

しんがつ……田植え時期。「そろそろしんがつだな。ねーしろでんつくりはじめべか」

しんごいみ……いそぎんちゃく。「おめらがおとっぁんは、しんごいみが好きで、よく焼いて食ってたよ」

すくも……籾殻。「今日は、すくもで焼き芋でんしべ」

すどった……通り過ぎた。盛りが過ぎた。「えれーあめだったな。やっとすどったよ」

ずら……どころでは。「今年はまちずらあんもんだん。おらがうちは、病人だらけだよ」

するす……唐臼。「もーするすんある家はねかっぺ」

せぐる……隣との境の畔を鍬で厚く削り、薄く塗り付け少しでも自分の田を広げようとする行為。「今年もせぐってきたよ。あらー生まれもった性分だっぺ」※隣との住まいの敷地や公道でもせぐる人がおり、陰でせぐり屋といわれていた。

せな……長男。「おめらがせなはこんごろ見ねけんが、余所さいってんかい」※古語辞典には、〔せーな【夫な・兄な】名詞。あなた。☆女性が、夫または恋人を親しんで呼ぶ語。兄。「な」は親愛の意を表わす接尾語。江戸時代の関東・東北地方の方言〕とある。

せぶた……ふじつぼ。「岩や船底、海苔のひび、簀立の簀などに付着する貝。「おっかー、明日は海苔ひびんせぶたをひっかくべや」※ひっかく道具を「せーぼー」といった。これも方言である。

せんぜ……野菜。「おとっぁん、ちょいと外ん畑さ行って、せんぜ採ってくら」

そいばば……ごく少ないこと。「そいばば食ったって、あんが腹ん足しんなんもんだん」

そくた……根性曲がり。「あすこん嫁は、そくたでおいねや」

そけー……疎開。「どこでんそーだけんが、八幡も東京さ出たもんがそけーしてきたよ。実家の裏さ小屋を立てたり、物置ん住んでたな。そーいうじでーだっただよ」

そしたば……そうしたら。「そしたば、そん仕事はおがあしたにでん終わらしてしまうべ」

そらで……草取り、田植えなどをしたとき、終わってから手首から上にかけて痛み出す農民病の一つ。「こねーだいちんち田ん草取りをしたら、またそらでが起こったよ」

そんくれー……そのくらい。「おめーにいちいちいわれなくてん、そんくれーわかってら」

そんどこんじゃねー‥それどころではない。「今、おらがうちじゃじーさんが生きるの死ぬののおーさわぎで、そんどこんじゃね」

でいけねや」

おしゃらく……着飾ること。「あすこんむすめは、いー年してめーんちおしゃらくして出かけんが、あにしてんだおか」

おやく……親戚。血族。「おめらがは五井ん〇〇とおやくだってな、しんねかったよ。そーいえば、墓石も江戸じでーからんもんで幾つも並んでんかんな。おんらにゃ足下もおよばねーよ」

かいよん……鰻の稚魚。「昨日、江川さぼさを仕掛けたらかいよんがしっかい採れたよ」※江川は、今のスーパーベーシァのところにあつた、海水の出入りする大きな池のこと。ぼらも跳ねていた。

かざんば……庭先の花壇。「かざんばさそろそろ春んもんでん植えてみべか」

かしょぎ……程度の激しいこと。「おらーあさかん、胃の辺りの痛みがかしょぎでたまんね、わりくなんねうちに医者に診てもらうべや」

がた……採った浅蜊を振るうもの。箱でできており底は番線が定間隔に張ってある。目的は、貝殻を落とすこと。規格から外れた浅蜊は、下にそのまま落ち、成長をまつ。何でもかんでも採るというものではないのである。市内松ケ島では、「そろばん」と称していた。

がたした……半人前。若造。「がたで振るい落とした浅蜊は当然規格概の小粒のものである。したがって人にたとえれば半人前である。「あすこんせがれは、あにやらしてんがたしただよ。やる気がねーだっぺ」

かちばま……家から歩いて浅蜊を採りに行くこと。「明日はかちばまだな」※かちは、徒歩と書く。

かちぼり……かちばまと同じ。こちらは一荷採りを指すようだ。

かっしん……しっかり者。「あすこんおとっぁんは、むかしかん働きもんで、がっしんだかんな」

かってぼ……身勝手な人。「あすこんせがれは、かってぼでおいねや。まいで親父とそっくりだよ」

かもじんかん……徹びるから。「餅がそろそろかもじんかん、くっちまうべや」

かんくれー……経過。様子。「置き薬を服んですこしかんくれーみべ」

かんのんさま……虱〈しらみ〉。「こんごろ娘ん頭さかんのんさまがいんみてで、かゆがっててどーしょうもねーや」

きたばいだ……来たばかりだ。「おいも今きたばいだ」

きっぽがしれてら……たかがしれてる。「あんやろん話すことは、いつでんきっぽがしれてら」

きてー……奇態。「おらがうちじゃ、こんごろきてーなことばいおこんかん、おがみやに見てもらうべとおもってんだ」

きゅーす……臆病。意気地無し。「おらがせがれは子供んころからきゅーすで、いまだんなおんねでこまってんだよ」

くちまんどり……舌舐めずり。「あんやろ、よっぽど腹が減ってただつぺ。くちまんどりしてら」

くっちゃみ……マムシ。「くっちゃみおせてきたかん、焼酎に漬けとくべ」

くっちょれん……口先。「あすこんじーさんは、わけーときかくちょれんが上手くて、

話に乗ってしまった連中がいんよ」

ぐっぴり……徳利などで口のとこまで、入っていること。「けちけちしねーどぐっぴりいれてくんな」

ぐんとまーり……浦の境界（竹の棒が立つ）を順番で見回ること。

けー……回。「おら、こいで奥州めーりは、ごけーいってんよ」

けー……貝。「今年んけー（浅蜊）のそだちぐえーは、どーだおか」

けー……階。「むすめはにけーさいんだっぺかん、おりてくんよんと、おっかーどなってくろ」

けー……櫂。「けーがでーぶ短くなってきたかん、新調しべや」

けったり……かったるい。「今日は、朝かんけったりくて、仕事んなんね」

けっぺ……景気や身体あるいは財産の状態。「町会費は、れーねんからけっぺ割りでいくべ」※かつてはその年の収入の状態をから町会費を計算した。江戸時代の高割りと同じである。単に状態を指す時もある。「こん田はけっぺがわりーかんよくうなったほーがいかっぺ」

けっぽり……掻い掘り。「明日は、あすこん溜め池を皆でけーぽりしてんべ。えけー鮒やふてー鰻が間違いなくいそーだ」

げんござらし……ありのまま。「いつでんげんござらしで言うのが一番だ」

こえ……だるい。疲れた。「久しぶりん、力仕事をしたかん、今日はこえくてたまんねーや」

ごじゃ……分からず屋。「あすこんおやじは、わけーときかんごじゃで、だいも相手んすんもんがいねかったよ」

こっぺ……口の達者な人。「あすこんもんは、なかなのこっぺたかん、きーつけたほーがいーど。だまさいたって、あとん祭りだよ。じつーせーにだまさいたもんがいんだかん」

こてらんね……たまらない。「やっぱし掘り立てん筍は、やっけくて味もたまんね」

こでき……五大力船。「なんたってはもと（浜本町）は、八幡かん椎津までの海岸線でごできを使った一番の湊だっただかんな。いまでん船のなめーを屋号にしてん家がしっいあんよ」

さけー……境。「隣んがが、さけーのことでまたわかんねこといってきたよ。裁判でんしてもらったほーが、こっちはさっぱりすんだけんかな」

ざけん……結婚式や祝い事の席で、主催者にに替わって客をもてなし、司会などもつとめる人のこと。酒も強くなくては努まらない。「今回もあすこん人にざけんをお願いしてみんか」

ざらふ……主として夏の夕立やにわか雨をいう。「ざらふは、じゃまんなんねーかんけって気持ちがいーよ」

さんべめし……大食漢。「こんごろんわけーもんには、さんべめしがいねくなったな。なにしろ力仕事をしねだかん」

しこ……みなり。「あすこんむすめんしこみせま。い一年してまいでちんどん屋だよ」

しととんの……非常に。「昨日は、蔵んにけーを久しぶりん片づけたけんが、しととんの骨おったじね」

たか……たか。〈海岸から一番近い浜の一帯をいう〉「そろそろ潮が上げてくんかん、たかんほーさ戻ってみべ」

だがんも……誰にも。こん仕事は、だかんもできねっべ。おめーに頼むよりねーよ。いー仕事をしてもらえば、おだげーに後に残んかん」

たてめー……建前。棟上式。「称念寺横町であしたえれーたてめーがあんだっちょ」※以前は母屋を新築すると親餅、角餅、普通の紅白の餅、おひねりなどを棟主が投げた。

たつぼ……田螺。「もののねーじでーは、たつぼも食っただよ。いまんもんには、話てんわかんねっべなー」

たないけ……稲の種子を漬けて発芽させるための小振りな溜め池池。「小さな集落単位にあって、共同で使用した。一年に一回泥浚いをし、奇麗にした。鮒、鯉、鰻などが捕れた。「そろそろたないけんけっぽりをすんか」

たまんにゃ……たまには。「いえー、たまんにゃいっべやんねーか」

だみ……茶毘。千葉県では方言として、全体的に葬式、葬礼をいう。「隣んばーさんがきゅーにゆんべ亡くなっただよ。組でやんことんなんだけんが、わけーもんかいねーかん、だみんことでおーあわてだよ」

たるいれ……結納。「はえーとこ日を決めて、たるいれを済ましちゃうべや」

ちょーされんど……だまされんど。「あんやろん尻さくっいてんと、そんうちんちょーされんど。いへーと墓石だけんなんねうちに、やめとくだな」

ちょる……寄る。「あっかんちょるじゃねーよ」

ちょんば……馬鹿。「あすこんおやじは、ちょいとちょんばじゃねーか」

つぼっこ……寝間着などを着ないで、裸のままで寝ること。「今夜はでーぶむしあっかん、つぼっこで寝べや」

つぼった……これは共用語である。田植えで回りの田がすでに終わっていて、自分の田だけがまだ済んでいないことをいう。これは田植えにかぎらず、田をやっている自分の回りの田が住宅地になっしまったような状態の時も用いる。「おらが回りはどこんがもたうえがおわってんよ。おらがうちだけつぼったんなっちまったよ」※出典を載せる。「つぼに入る」……一列に並んで田植えをするとき、未熟な者が取り残される。他の人が端までいってもまだ真中にいるので本膳の椀のうち〈つぼ〉と称する深めの容器が常に中央にいちすることにたとえていう」とある。※本膳→膳（なます）・壺・香の物・味噌汁などに飯をつける、一の膳ともいう。

てしょ……小皿。「そこんあんてしょをとってくんねかい」

てっつおがねー……手持ち無沙汰。「こんごろは、朝かんてっつおがねーかん、ついついいっべやっちまうだよ」

でぼろす……手から物を落とすこと。「年だっべや、こんごろちょいちょいでぼろしておっかーにおこられてんよ」

てんげ……手拭い。そこんあんてんげをちょいとこっちさほーてくんねかい」

でんぼ……トンボの総称。「ことしゃいつもん年より、でんぼがすくねみてだな」※五所では「どんぼ」という。

どえれー……大変な。「そらーどえれー話だ。つるめーんがにきてもらうべ」
ど……何処。「あんだかい、ずんしゃれてんとん、どー行くだかい」
ともれー……弔い。「ともれーができたかんずぐ役をきめべや」
とらこ……鬼やんま。昔は観音町ん土手（海岸）に松がうわっててて、そこさばんかたんなんととらこがしっかい休みにきてたよ。よくおせーにいったもんだよ」
とんたった……蠅の立った。「おらがうちにとんたった娘がいんだけんが、だいか貰ってくんねだおか」
どんぶり……仕事師の付けている腹掛け。「こんどんぶりもでーぶ使ったかん、新調んすか」
どんもん……何処の者。「にしらがさ来てたじーさんは、どこんもんだかえ」

市原市内にある地名で、難読あるいは田舎弁的呼び方をしている所

あさいこむけー…浅井小向【あさいこむかい】
あんさき……姉崎【あねさき】
あんがさき……姉ケ崎【あねケさき】
あまりき……海女有木【あまありき】※あまとありきが一つになった。
あもうだ……天羽田【あもうだ】※あまはだとは読まない。
あらおい……新生【あらおい】※しんせいとは読まない。新生児。新世代。新正界。
いるま……飯沼【いいぬま】江戸時代は入沼村
いそげ……磯ケ谷【いそがや】
いたぶ……飯給【いたぶ】
いりやまず……不入斗【いりやまず】
おーめ……大厩【おおまや】
おだっぺ……小田部【おだっぺ】※おだべあるいはおたぶとも読まない。
けーほ……海保【かいほ】
かしゃばら……柏原【かしわばら】
かねさわ……金沢【かねさわ】※かなざわとは読まない。
かわぜー……川在【かわざい】
きっさわ……吉沢【きちさわ】※よしざわとは読まない。
ごじゃ……五十谷【ごじゅうや】※いそやとは読まない。
せーひろ……西広【さいひろ】
つーへーじ……廿五里【ついへいじ】※にじゅうごりとは読まない。
つるめー……鶴舞【つるまい】
とのべた……外部田【とのべた】※とべたとは読まない。
はもと……浜本町【はもと】※はまもとちょう、はもとちょうとは読まない。
ほうめ……奉免【ほうめ】※ほうめんとは読まない。
ほっさく……発作【ほっさく】※はっさくとは読まない。
むけーだ……迎田【むかえだ】
やまこがわ……山小川【やまこがわ】※やまおがわとは読まない。
わんめ……分目【わんめ】※ぶんめとは読まない。

八幡公民館主催事業　八幡史学館　　現地巡検

第４回　　平成20年11月４日（火）

スケジュール

9：30　　八幡公民館視聴覚室へ集合

本日のコースと見所を解説

10：50　　八幡宿駅前バス停から千葉行きバス乗車

11：05　　浜野南町降車

11：10　　浜野港跡⇒　生実藩蔵屋敷跡⇒　本行寺

12：10　　本行寺境内で昼食休憩

13：10　　千葉市指定文化財　旧生浜町役場庁舎で

今井公子先生（元「千葉市史」編纂担当）の説明

①浜野の歴史　②旧庁舎建物　③民具と漁具展示

15：00　　一応の解散、元気組で房総往還、八幡をめざします

以降体力にあわせて選択してください

Ａコース＝庁舎前のバス停から八幡宿行きに乗車してまっすぐ帰る（徒歩１００ｍ）

Ｂコース＝房総往還を浜野駅まで（およそ１km＝２千歩）

Ｃコース＝　〃　　村田川まで（およそ1.5km＝３千歩）

フルコース＝八幡公民館まで歩く（およそ2.5km＝５千歩）

ゆっくり途中の史跡をご案内しながら歩きます。

途中浜野ヤックスでトイレ小休止します。

ほぼバス通りを歩きます。どこからでもバスに乗れます。

その他

① 雨天などでコースや内容を一部変更することがあります。

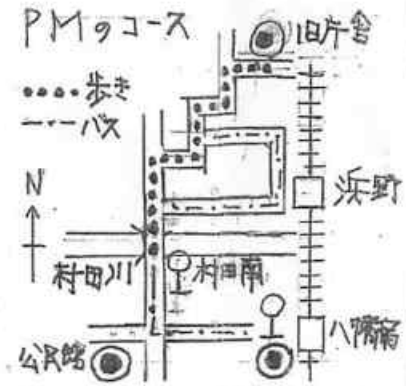
② 昼食、飲み物は、各自用意してください。

③ 交通費は各自払いです。

八幡史学館　第④回 現地巡検 隣町・浜野を歩く

２０－１１－４（火曜日）

山岸弘明　＋佐倉東雄



本日のスケジュール

9時３０分　～１０時３０分	八幡公民館視聴覚室集合 本日のコースと見どころなど解説
１０時５０分	八幡宿駅前バス停から千葉行きバス乗車　190円
１１時０５分	浜野バス停降車
１１時１０分～１２時１０分	浜野港跡→生実藩蔵屋敷跡→本行寺
１２時１０分～１３時００分	本行寺境内で昼食休憩
１３時１０分～１４時４０分	千葉市指定文化財・旧生浜町役場庁舎 ①浜野の歴史 ②旧庁舎建物 ③民具と漁具展示 説明は元「千葉市史」編纂担当＝今井公子先生です
１５時００分	一応の解散
１５時００分～１６時３０分	房総往還を歩く（有志だけで八幡宿めざす） 浜野、村田、八幡

コースはバス通りです。バスは２０分間隔、無理をせず自由に中退してください。

＊注意事項＝道路が狭く危険な箇所もあります。事故のないようお互いに注意しましょう。

＊当初、「浜野ヤックス」での小休憩を予定しましたが10月に閉店しました。

村田南でバス乗車(100円) 八幡宿駅へ

村田と浜野＝プロローグは地名の由来から

① 村田＝江戸時代～明治22年の村名で生浜時代は大字、千葉市では町名。古代条里制水田の群田（むらた）が転訛した。下総だが古くは国境の村田川が迂回し、上総の内とした説もある。房総往還八幡宿の上り隣の間（あい）の宿、かつてキサゴ採取をめぐって八幡村と争ったこともあった。
　江戸期は幕府直轄領で寛永４年から生実藩領、江戸後期の村高351石。
　明治24年戸数122、人口708 、貝類、海苔養殖が盛んで船56隻であった。

② 浜野（浜、浜之）＝立地に由来、麻に関係したなど。「更級日記」の「まのの長」を浜野とする説が知られる。房総往還と伊南往還の分岐点で宿場町＝伝馬継ぎ場、年貢津出し港として発展した
　(1)天保年間の村高は253石、主に生実藩領で本行寺領、諏訪神社徐地など。家数193戸、文化年間の船数は18であった。大正始めから海苔養殖がさかん。人々の暮らしは「半農半漁」、八幡と共通したといえる。

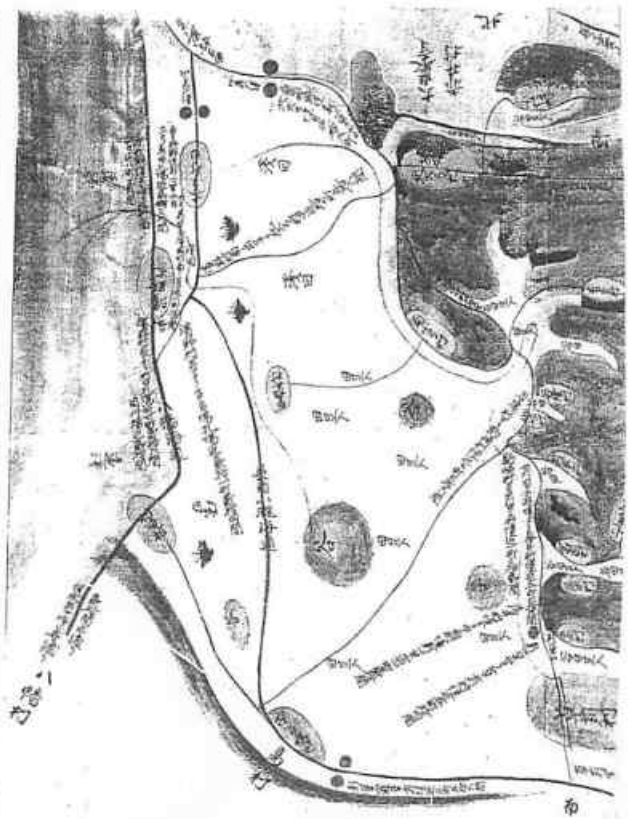
③ 生実（小弓＝おゆみ）＝地名は古代麻積連（おみのむらじ）管掌など。戦国期は原氏が居城とし、江戸時代に森川氏１万石が陣屋を構えた。

④ 生浜（おいはま）＝明治22年南、北生実、浜野、村田村など５か村と八幡宿飛び地が合併して生実浜野村、大正３年生浜村、昭和３年生浜町となるが、昭和30年千葉市に編入され、南、北生実、浜野、村田町などの大字名が町名となった。

⑤ 房総往還＝船橋から館山までの道。古くは東海道、近世は奥州街道、水戸街道、佐倉道に連なる脇往還で房総諸藩の参勤交代路になる。大多喜方面へは浜野から生実道と伊南房州道が分岐した。房総往還は近代、現代の呼び名で江戸時代は上りは江戸道、下りは八幡道、木更津道、房州道などまちまちだった。

⑥ 村田川＝市原市の北東隅金剛地に源水を発し、八幡と村田町から東京湾に注ぐ。流長20km、流域面積100㎢、かつて上総と下総国境の川で「境川」と言った。
　もと「暴れ川」で増水による氾濫が続いたが、昭和30年代に大改修、現在河口の埋め立て地は造船、化学などの大工場が立地している。

明治14年 迅速測図 にスタートゴールを加筆



江戸時代の「生実地廻り村々絵図」

協力　NPO法人・千葉生浜歴史研究会

八幡公民館の開館６０周年と「史学館名所百選チーム」

1）　八幡公民館がことし開館６０周年を迎えた

①　戦後の混乱さめやらぬ昭和23年６月開館、提唱者菅野儀作町長（初代館長）、建設委員長白鳥孝治
　(1)22年暮れに開館した柏市に次ぐ県の第２グループとして誕生、しかし大半は空室利用で新設公民館としては県下初？

②　習志野騎兵連隊厩舎旧材を貰い受けた八幡中学校残材を利用。工事は町、議会、職工組合、町民一体のボランティアで。電気設備、どんちょう、備品など町民が寄贈した。

③　木造２階延べ237坪、収容人員は１階講堂、２階会議室などを合わせ２千人を数えた。
　(1)こけら落としは中村吉右衛門一座。町民の大半は歌舞伎ははじめて超満員の盛況

④　青年連盟、婦人会、ボーイスカウトが誕生、文化、体育のサークル活動もスタートした。
　八幡町のシンボルとして戦後の地域新生活運動、民主化運動の拠点となった。
　(1)公民館運動を通じての成果＝早期納税、選挙投票率、冠婚葬祭の簡略化など

⑤　２代白鳥孝治館長は千葉県公民館連絡協議会を提唱、八幡はリーダー役を務めた。

⑥　昭和23年全国第１回「文部大臣賞」を受賞

⑦　昭和46年八幡海岸埋め立て、工場誘致にともなう駅周辺交通道路整備のため現在地に移転。

⑧　今年（平成20年）開館60周年を迎えた。

2）　八幡公民館とやわたむかし展（９月１１日～３０日＝八幡宿駅「市民ギャラリー」）
　史学館名所百選チーム共催（３～4も）

①　公民館の創立60年アルバム、郷土八幡の古絵図、写真などで八幡の歴史を紹介

②　人だかり多く、見学者は少なくとも5,000人を上回ったとみられる

③　感動を受けたなど多くのみなさんから謝意が寄せられた

3）　八幡稱念寺「山口達画伯収蔵作品展」（９月21日、23日＝八幡稱念寺）

①　稱念寺所蔵の山口作品40点を公開、今後はなし、最後の一般公開

②　見学者数＝推定500人（21日200、22日100、23日200人）口コミなど

③　23日に記帳簿設置、57名記帳（反省＝初日もおけばよかった）
　市内49名、千葉市３名、木更津市、松戸市、四街道市、一の宮町、東京渋谷各１名
　檀家は記名されなかった方が多く全体の４分の１程度だった

4）　公民館文化祭「おかげさまで６０年＊八幡公民館とむかしやわた」（10月11日、12日八幡公民館）

①　浅見喜舟板書、山口達常設作品、60年の歩みなど５ステージで構成

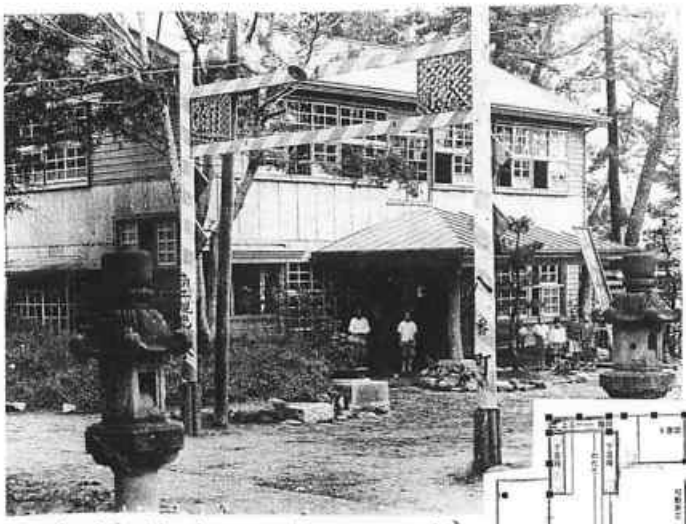
②　旧館当時の板戸＝浅見先生揮毫「建設の歌」と「座右の銘」に人気

5）　名所百選チーム「市原地区（八幡）の名所百選」の選定

①　小出惣治会長以下メンバー12名で選定作業中、月例会ほか、旧市原町在住者の加入歓迎。

②　八幡地区ノミネート40か所進行中。次は五所地区へ

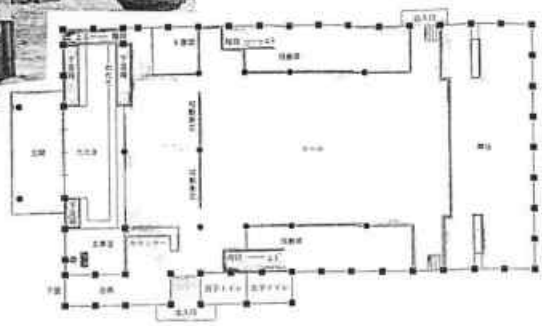
③　１年で「名所百選」を選び、ＰＲや巡りコースなどを企画



旧館当時の八幡公民館

山口達展→

市民ギャラリーでの名所チーム



→

1階平面図

現地巡検　隣町・浜野を歩く

1）　八幡宿駅からバス停「浜野」で降車

①　八幡宿駅からおよそ１５分、浜野バス停降車

②　徒歩５分、旧浜野河岸へ。このあたりは道路幅がせまく車に注意しましょう
浜道を抜けるとかつて眼前に大海原が広がった。

2）　海の幸と海路交通要衝として発達した ―― 浜野河岸跡

①　昭和30年代の海岸埋め立てまでの海岸地。波静かで遠浅、２kmほどの干潟が続いた。
干潟は満潮時に海水が押し寄せ、潮が退くと砂浜になった。旧干潟地に工業団地が連なる。

(1)かつての景観は八幡海岸も同じ、砂浜先、東京（江戸）湾越しに富士山を望んだ

②　八幡、浜野など房総湾岸は、魚は少なく漁業は海苔養殖と貝採取が中心だった。

(1)江戸時代、漁業は幕府公認の佃島漁師が権利を独占した。また漁獲もなく専門の漁師はなかった

(2)ひび立ての海苔養殖は大正２年にはじまり、戦後は浦いっぱいに広がった。八幡同様、品質がよく「浅草のり」として高値で取引された

(3)貝は食用のバカ貝（青柳）、ハマグリ、アサリ、ヤドガリのほか、肥料のキシャゴがとれた

③　浜野河岸の起源は不詳で戦国後期とみられる。はじめ塩田川（浜野川）河口を利用し、のちにミオを開いて船だまり＝港とした。

(1)戦国期、千葉、原氏軍港も考えられるが未詳、文明期に日泰と酒井定隆乗船などが知られ、すでに河岸場としての町域が形成されていたといえる

(2)寛永年間、生実藩がミオ筋を整備、のち内陸、外房からの年貢米津出し港として発展した

(3)ミオは人口運河で塩田川を広げたミオ筋と荷卸しや船溜まりとしての横ミオからなった

(4)ミオサライ＝毎年３月の大潮に地廻り（城付き）村々が人足を出して流れ込んだ土砂を整備

④　浜野河岸から江戸まで９里＝海川両用の中型帆船の五大力船が江戸へ年貢米や薪炭、海産物などを運び、帰り船が酒や衣料、雑貨などの日用品を持ち帰った。

⑤　浜野船着き場跡（市教育委員会史跡看板要旨）＝
江戸時代には生実藩領となり、年貢米の江戸への津出しのため本行寺の西隣に藩の御蔵を設け、塩田川のミオを利用して港を築き大変賑わっていました。寛政４年には番船会所が設けられ出荷の円滑化も図られました。明治13年に浜野在住者20名により共和汽船会社が設立され、その後東京汽船に引き継がれ、大正中期ころまで蒸気船の寄港地として栄えました。現在、浜野公園となっている所は横ミオを利用した河岸でした。

(1)宝暦５年＝入会浦ミオ絵図に石垣積みの港がみえる

(2)蒸気船は八幡浦始発、浜野、寒川を経由して東京越前堀に回った。下りは８時出航、八幡浦11時着、上りは12時八幡発、16時着、ポンポン蒸気と呼ばれた小型船で、福沢丸と飛龍丸が１か月交代で運行した

⑥　江戸時代、番船会所と五大力船の所有者である回旋問屋（船宿）とその蔵が立ち並んだ。

(1)八幡の浜本倉町と同じ。八幡は近世碁盤目町だが浜野は中世的自然な道成り

(2)河岸地を縦断する千葉鴨川線はかつて八幡側からの荷上げ道で千葉側には通じていなかった

⑦　大正から昭和期を迎え鉄道と自動車輸送の発達で海上輸送は次第 に衰退して行った。

⑧　昭和36年、漁業組合と海苔組合は千葉県が提示した京葉工業地帯 の造成計画を受け入れ、先祖伝来

バス停浜野周辺

浜野浦の現況

渡船場跡

の漁業権を放棄、まもなく浜野、村田浦の埋め立て工事がはじまった。海の歴史は八幡のそれと同じ運命を辿った。

(1)天満宮に漁業、海苔組合「海の碑」、「海、海、青き海を」の書き出しが海との永遠の別れを後世に伝えている　（今回は見学しません）

3）　藩の蔵米を江戸へ津出しした ―― 生実藩蔵屋敷跡

① 生実森川藩＝寛永４年森川重俊が大坂夏の陣の戦功で１万石となり戦国時代の北小弓城に陣屋を築く。２代将軍秀忠老中で殉死、以後子孫世襲して12代俊方の時明治維新となった。

(1)北東およそ２㎞に陣屋地。大半は住宅地や農地と変わったが土塁、空堀、本丸地形などが窺える

② 蔵屋敷＝藩米を江戸への津出し拠点として作られた米蔵

(1)森川氏入封直後に造営、弘化２年改築、明治４年廃止

③ ２重の水濠、土塁に囲まれた梯郭式縄張り。絵図は内郭を御蔵３棟、外郭を堀之内としている。源川は草刈堰生実溝（杉山堰）用水で塩田川に戻した。虎口は海側に１つ。米は荷車で浦へ運んだ

④ 御蔵元は喜左衛門（日置家）が世襲、天保10年には和泉屋利八（飯豊家）が蔵元格に任命された。蔵元は蔵米の管理、津出しを担当した。

⑤ 幕末、幕府は相次ぐ外国船の往来に備え江戸湾海岸固めを指示、生実藩は蔵屋敷に兵士を配備した。

⑥ 住宅地造成工事中＝事前に発掘したが、江戸時代以前の遺物はほとんど発見されなかった。

(1)千葉、原氏の海城（海賊城）も考えられたが発掘調査で否定

(2)古代円墳を検出、報告会でもとくに詳しい説明はなかった

⑦ 草刈堰用水＝村田川中流草刈に作られた灌漑用水路で下総側を生実溝といった。幹線６㎞、灌漑面積およそ500町歩。江戸時代はじめ幕府代官高室金兵衛、茂呂村名主鴇田五郎左衛門構築など諸説。

4）　土気城主が所領すべての寺を法華宗に変えた ―― 「七里法華」の本行寺（昼食）

① 顕本法華宗、京都妙満寺末。文明元年（1469）日泰上人開基で建立は土気城主酒井定隆。
日泰は京都生まれ。浜野の谷（や）の廃寺を再興して布教の道場としていた。
たまたま品川からの船に同乗した定隆が日泰の宗旨に感激して帰依した。土気、東金の城主となった定隆は日泰を呼んで一寺を建立、さらに領内の寺ことごとくを法華宗に改宗させた。

(1)酒井領はおよそ７里あったので「上総七里法華」という。市原の北東部にも達した。

② 戦国末期は原氏、房総武田氏、里見、北条氏などの領主変遷の中、制札や不入状などで庇護されたが、天正18年兵火で焼失した。

(1)豊臣秀吉小田原攻略の時、酒井軍の本行寺布陣を阻止するため長柄にあった多賀内膳が焼却

③ 天正19年新たな領主となった徳川家康から朱印10石を拝領、のち現在地に移転、七堂伽藍の整備は江戸中期までに。宝永３年敷地面積１万７千坪、衆徒７坊、末寺７か寺を数えた。

(1)八幡の円頓寺は２世日行の創建で日泰の閑居地。日行は八幡宮神主市川刑部の子で、疫病を日泰の祈禱で治癒したことから弟子入りした。下野村で創建、江戸時代はじめに現在地に移転

④ 10世日逞は「不受不施派」を主唱したとして伊豆大島に遠島、病滅した。

⑤ 昭和20年５月、米軍機の焼夷弾により被災、本堂などを焼失、現在の本堂は昭和56年に鉄筋コンクリートで復元。

⑥ 本堂前に日泰上人の墓＝永正３年（1566）正月中旬九日、妙方本行寺開基、日泰聖人を刻む
昭和55年、現在地に移築された。

⑦ 昼食後、旧生浜役場庁舎に移動

生実藩蔵屋敷跡

本行寺

日泰上人の墓

旧生浜町役場庁舎

ＮＰＯ法人・千葉生浜歴史調査会理事長　今井公子先生（元千葉市史編纂担当）

いったん解散＝以降は自由行動です

八幡へ直接帰られる方は徒歩１分「塩浜橋バス停」が便利です

村田川まで２キロ、八幡公民館まで３．５キロ

八幡宿めざして歩こう

1）　生実城下に通じた生実道 —— 塩浜橋から房総往還を下る

①　庁舎前は通称「生実道」で生実城下へ通じた。

②　三叉路、左右の道は旧房総往還＝現在は１級国道127号、浜野、四街道長沼線という
右は上り江戸道＝塩田（しおだ）方向。
左は下り＝上総、安房方向。八幡宿めざしてスタート

②　塩浜橋（旧めがね橋）＝海岸の橋ということ。塩田川（浜野川）河口近く、かつて海岸が遠望できた。橋はこどもたちの遊び場、めがね橋は川幅も広く満潮で増水した川に欄干から飛び込んだ。

③　諏訪神社＝戦国期16世紀はじめ上総養老庄の領主村上義清が信濃の諏訪神社を勧請した時、立ち寄った奇縁によるとする。力石などがある。（立ち寄らないことがある）

④　本行寺門前町＝港町、宿場町のほか本行寺の「門前町」でもあった。

2）　**屈曲する道路、２つ目の追分路は伊南房州往還 —— 大多喜へ、房州勝浦へ**

①　再び追分道、右は旧「伊南房州往還」、茂原街道、勝浦道などとも呼ばれた。
潤井戸、六地蔵、茂原、勝浦をへて安房に至る外房道で外房と内房を結んだ。

(1)伊南とは夷隅川下流域にあった中世の伊南荘をいう

(2)大多喜松平藩の参勤交代路で、定府大名の一の宮加納藩も公用路とした

(3)大多喜藩の参勤交代は潤井戸本陣の山本家を定宿とした

②　伊南往還旧道は200ｍほど先のＪＲ内房線で切れ、歩道陸橋で接続している。

(1)内房線先の民家庭先に安永４年銘の「道祖神」碑が保存されている

③　小湊バス整備場、バス停「浜野」前に「道路元標」、浜野地区の基準点

④　この一帯を東町といい、宝暦絵図は両側に家屋が立ち並んでいる。宿場町の賑わいがあった。

）　**浜野の盛り場＝辻の高札場と問屋場 —— 継ぎ立てが村人たちを潤した**

①　みたび三叉路＝宿場町浜野の中心地で辻という。
右は浜道、浜野浦に通じ、房総往還はさらに左へ進む

(1)八幡とくらべ道路の屈曲がめだつ。中世の道並みが現存しているといえる。

旧生浜町役場

生実追分↑　塩浜橋↓

浜野の中心部

② 高札場跡＝キリシタン禁制、火気取り締まりなど、法度、掟などを記した。村の盛り場に立てた。
③ 伝馬問屋場跡＝大名行列など公私人馬の継ぎ立て場。荷物を引き継いで次宿駅に送った。
継ぎ立て場近くに大名行列の休息などのため本陣が置かれた。
(1)本陣や問屋場は村名主が兼務することが多いが、八幡同様ほとんど解明されていない
(2)問屋場では規定の人馬を常備し、宿経費は浜野村のほか近郷の浜野・曽我組合村が負担した
(3)運賃は私用は高く村人たちの稼ぎになった
(4)公用は大名行列や藩御用のほか鷹匠、野馬、幕府代官御用、囚人送りなどがあった
(5)宿場経費を負担した助郷、大助郷村は増加する経費負担に悩まされた
④ 浜野村出口（南入り口）＝浜野の村はずれ。この先田畑が続く。
(1)江戸時代「生実地廻村々絵図」浜野村出口より村田札場まで７町26間（Ｐ１図参照）
また房総往還の下りを「八幡海道」としている
⑤ 浜野と村田の村境い＝いつしか村田村になる。この辺りは海からやや離れ見えない。
(1)延享２年「久留里藩道中里程付き」＝左右田畑、海端松森、大木二丈あまり

4） いまはむかしの「きさご争論」 ―― ３か村入り会いだった塩田、浜野、村田の海

① 村田村は八幡の隣村で村田川対岸だが、中心は房総往還をやや奥まっていた。
往還沿いは民家が散在した間の宿で、村田川近くに高札場があった。
② 江戸時代はじめのころ、五井の塩を商う仲買人がいて江戸後期の享和２年の「塩商い仲間取り決め帳」には村田村18人が本納、大網の市場に行商していたことが記されている。
③ 主に「半農半漁」、田畑を耕して魚貝や海苔を生活のカテにした。
④ 隣接した塩田、浜野、村田村の海岸は「３か村入り会い」となっていた。
江戸後期文政６年、この入会に八幡村が侵入「きさご争論」に。名主を殴った八幡が敗訴。
(1)江戸後期、用水やまぐさ場、境界、入会権をめぐる村同志の争いは各地で繰り返された

5） 満潮は船で干潮時は徒歩で渡った村田川と渡船場

① 村田川は両総の国境、村田川公園がほぼ旧川跡を示している。
(1)市原、千葉市の境界線が村田川公園。その曲折は暴れ川の名残といえる
② 幕府は戦略的理由から主要河川への架橋を禁止したので村田川にも橋はなかった。
参勤交代や一般の旅人たちは干潮時は徒歩、増水時は渡し船を利用した。船頭などの詳細は不詳。
(1)延享２年久留里藩道中里程付き＝村田川歩行渡り、この川上総、下総の境、ただし船にても越し候
(2)Ｐ１生実図＝村田川20間歩渡り、ただし水出候時舟渡り
(3)天保年間房総三州漫禄＝村田川、国境なり。船賃２文
(4)１㎞ほど上流の高島では飛び地耕作のため丸太を掛けて通行した。「高島の１本橋」といった
③ 泉福寺＝公園の市原寄りに立地するが千葉市。
元浜野本行寺末、日泰の弟子日眼が創立、はじめ顕本法華宗で戦後日蓮宗となった。
境内に市原生まれの天羽南翁の碑、八幡教育の父、川上南洞もこの地で南翁に学んだ。
④ 旧村田川を越えると八幡、ご案内はここまでとなる。

以　上

当時の面影残す

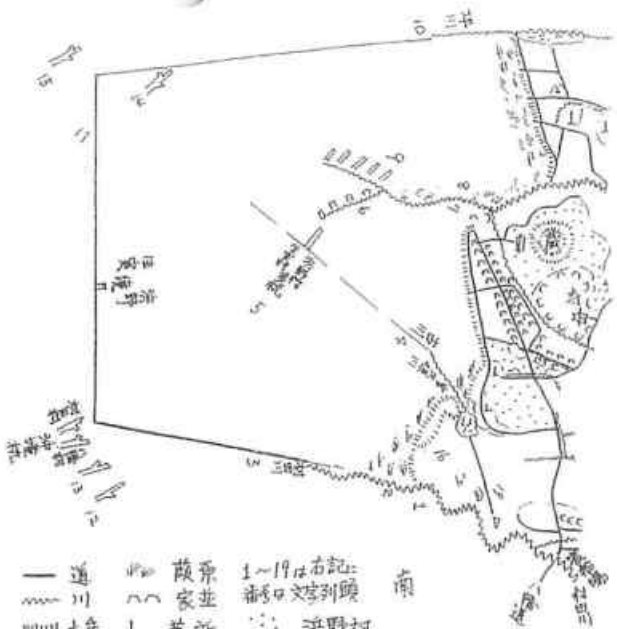
浜野駅入口

↓村田川跡

↑新村田川

街道沿いに→
大型店も並ぶ

1・村田川尻土手鼻より沖ノ瀬きわ迄六百六拾間　2・村田川中央上総下総国境
3・古宋より仕来りノさいミを相立候場所　4・八幡村ニテ文政六未年新規ニさいミ相立候場所
5・大杭より沖ノ瀬きわ迄三百八拾五間　6・古ミよ通り
7・蔵ゑ五本目杭迄四百五拾間　8・同五本目杭迄四百九拾間　9・宝暦年中新潟
10・坪川土手鼻ゑ沖ノ瀬きわ迄七百九拾五間
11・曽我野村境より沖の瀬きわ通り八幡村境迄六百六拾間
12～15・通船目印　16・宝永御改メ新田　17・天和御改メ新田
18・村田畑　御高請古田畑　19・八幡村トビ地ゑ字筏川　見通論地



下総国千葉郡浜野村と同郡生実村浦境評論裁許之条々

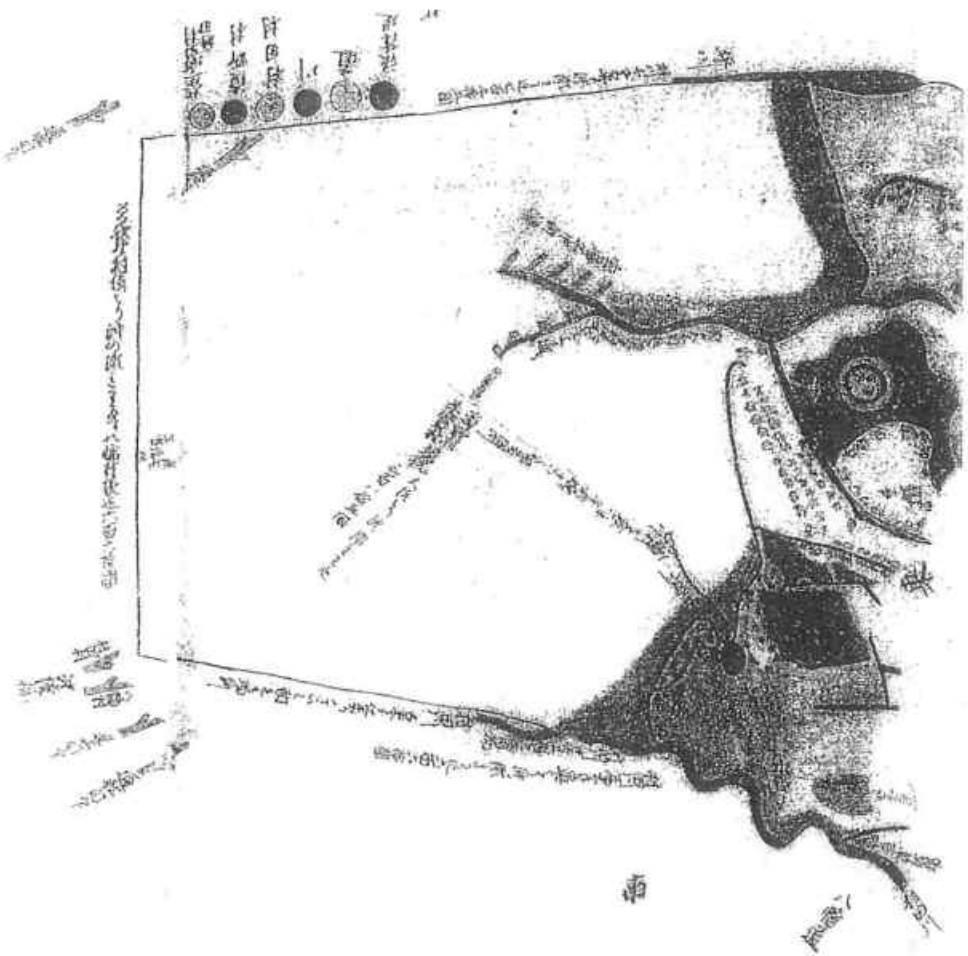
一浜野村百姓訴願、掘みよりより北方曽我野村境迄、古土手残候面地境相分旨申之、生実村百姓答候ハ、塩田川限之村切ニ浦致支配由申之、迷乱明処、浜野村百姓土手浦境之由雖申立、検分之上、土手所々相切、木立体為其除植候と相見候ハ、浦請役生実村より不動来旨、浜野村百姓申ニ付、令穿鑿処、生実村百姓山方ニ致家居ニ付、浜辺廻状等先規より次合不申候と相聞候、其上地頭役人検使江遣候書状ニ、村田・浜野、生実三ヶ為海辺故、運上金取次申付候旨有之、村田・浜野両村ハ村致筋印ささご札出し来り、且又拾九年以前、村田・浜野両村より生実村と浦入会良無紛由、生実村江証文遣候、旁以浜野村百姓申処非分之至也、弥如先規、三ヶ村可為入会事、

一浜野村并本行寺訴候ハ、北卵塔場ニ日蓮上人石塔有之、従先規致支配由申之、令経議処、生実村枝郷ニ塩田新田弐拾年以前迄、本行寺為旦那、其上浜野・生実両村、依為一領村、北卵塔場浜野・生実両村百姓入会葬候と相聞候間、自今以後、卵塔場可為入会、右卵塔場之内、古畑跡松林并卵塔場西方ニ有之煙、浜野村百姓新煙之由雖申之、水帳之面高ニ結有之間、生実村百姓可為支配事、右論所就不分明、為検使五味小左衛門手代山田勘助、宍倉与兵衛手代奥津瀧右衛門差遣、迷検分三ヶ村入会ニ相定畢、為後証、絵図令裏書、双方五下置筆問、不可違犯者也、

元禄七甲戌年八月十四日

井三十郎㊞　稲伊賀㊞　松美濃㊞　川摂津㊞　能出雲㊞　本紀伊㊞　戸能豊㊞　松者絞㊞

「みやみ」浦絵図に見られる海域



北生実村・浜野村・村田村入会浦絵図　江戸時代後期　（塩田町　田村喜久雄家所蔵）

北生実（新田部分＝現塩田町）・浜野・村田各村の地先海面は、田肥として重要なキサゴなどの貝類採取の好適地であった。同じ生実藩領に属するこの3か村は、遅くとも17世紀中頃から地先を共同の「三ケ村入会」とし、周辺浦付村々との間で採取権をめぐる争いが生じると、村落間の交渉による合意や領主の裁定によって調整を図ってきた。

上図もそうした合意に際し3か村入会の範囲を表示する目的で作成されたものと考えられる。入会権主張の重要な根拠となる海岸部分の村領域が色分けされ、各村はおおむね川を境界としている。その上で、曽我野村・北生実村境の坪川河口から「沖ノ瀬きわ（際）」まで795間、村田村・八幡村境の村田川河口から同じく660間を見通し、この両線に囲まれた海域を図示している。この範囲は近代の生実浜野漁業組合専用漁業漁場（P.515、Ⅷ－15図）の基礎ともなったと思われる。

なお上図には、海域境界を示す境杭等のほかに、交通標識である「通船目印」杭や船の通る水路＝澪も表記されている。この海域は、浜野村にあった生実藩米蔵の江戸廻米など、物資輸送の上でも重要な場所であった。

生浜地域の歴史概要

０８１１０４今井

１．古代中世

古代　菊間国造　大覚寺山古墳　七廻り塚古墳　人形塚古墳

上総　下総　古東海道　千葉郡池田郷

更級日記　東海道

12世紀　椎名城　＜源平闘諍録、神代本千葉系図＞

千葉常胤の弟胤光＝椎名五郎、頼朝の挙兵に功あり（治承４年＝1180頃のことか）

＜千葉大系図＞千葉常兼の子胤光、「椎名六郎　居城下総国千葉庄椎名郷　此城為堅固大椎城＝常兼本城　要害子城也」。（常兼は大治元年 1126＝２月１０日没、６月１日常重が千葉城へ入る。）

１２世紀末　椎名氏は匝瑳郡南条庄（八日市場・旭）へ移ったが、一部は残置か。

13世紀前半　椎名上郷富岡山長徳寺に薬師如来坐像　一木造像高147.2㎝　鎌倉時代前期

１３２２　元亨（げんこう）２年　「下総国千葉庄池田郷横須賀閻魔堂別院書写了　筆師源山春秋三八歳」

金沢文庫「明静類聚抄」奥書　千葉市史史料編１－243

１３３８　建武５年戊寅１０月　阿弥陀三尊板碑（富岡　長徳寺　　）

１３６１　延文６年　阿弥陀板碑（北生実）　日本金石文の研究

１３６８　貞治７年４月　日　阿弥陀板碑　（富岡　長徳寺　　）

１３９５　応永２年　小弓城　原胤隆居城。

１３９６　応永２年　柏崎　宗徳寺

１４５６　康正２年　勢国寺

１４６９　文明元年　僧日泰が廃寺を布教道場として興し、本行寺を開創。

１４７３　文明５年　本満寺

１５０６　永正３年1/19　日泰73歳、本行寺で遷化。北方の本浜本に葬る。

１５０９　〃　６年11/13～22？　柴屋軒宗長、本行寺を旅宿とし、小弓の館で連歌。

１５１８　永正１５年　足利義明（小弓御所）入城～天文７年1538　国府台合戦で敗死。

１５３９　天文８年　北小弓城　原胤貞が築く、胤清―胤栄。

１５３９　天文８年　有吉城築城　北条綱成を配置（築城は天文15年頃ともいう

１５４５　天文14年　薬師如来鐘一口　下総国千葉庄椎名富岡山長福寺

天文１４年乙巳２月１７日（宝徳元年閏１０月２５日　１４４９年）

１５４８　天文17年　大巌寺

１５５２　天文21年　里見義弘　有吉城攻撃

１５６１　永禄４年7/13　正木時忠、「浜野郷之内　本行寺」へ制札

１５７１　元亀２年9/2　北条氏政、「浜村」へ禁制

２．生実藩の成立と概要

１５９０　天正１８年　５月２３日家康は大巌寺へ「芳翰ならびに一折」の礼状を送る。

５月２５日家康はこの地方を攻略中の豊臣秀吉の武将市橋兵吉長勝へ大巌寺への配慮を依頼。物見の松

７月５日小田原落城。北条氏政・氏照自刃、氏直高野山へ追放

原胤栄（４０歳）野田原で戦死

７月１３日秀吉は家康を関東転封

７月２８日家康は「下総国生実大巌寺」へ寺領・屋敷安堵状を出す

８月１日家康、江戸城に入る　　多賀内膳、本行寺を焼却

８月１９日西郷家員、生実５０００石知行

11月４日幕府代官、「生実之内　大巌寺」へ寺領５ヵ所について書上げ

１５９１　天正１９年７月５日大巌寺領検地１０８石９８６

１１月「千葉郡生実郷内百石事」大巌寺へ寺領寄進状。浜野の本行寺１０石朱印状。

１５９５　文禄４年　西郷家員椎名郷・平山郷・(小弓) 検地

１６２０　元和６年　幕領となる、代官高室金兵衛。

(西郷は東条藩１万石拝領、９月１３日郷村引渡し書上)

１６２２　元和８年　代官高室金兵衛の見立てで草刈堰竣工。

１６２７　寛永４年　森川重俊生実１万石拝領

１６２８　寛永５年１月２３日幕領代官野村彦太夫より東領１０９８石余受取り、１１月２３日幕領代官八木次郎右衛門より小弓領７０００石受取る、相模領をあわせ１万石になる。生実に陣屋を置く。

寛永８年 1631（４８歳）西丸老職就任。

寛永９年 1632　１月２４日夜亥刻秀忠（５４歳）逝去、その未明＜徳川実記には、「今朝」とあり、１月２５日＞重俊は４９歳で殉死。　遺翰３点　覚書１点

生実藩は、森川重俊という人物によって成立し、結果的に将軍秀忠に殉死するという自らの死をもって森川家の存続がはかられ、その後大過なく生実藩（県）は明治４年 1871　１１月１３日まで２４５年間１万石のままで、元禄１１年 1698　相模３１３石余の東領替地以外に移動がなく、領地はそのまま継承されたのである

家臣団　１万石の軍役は２３５人（内馬上１０騎、鉄砲２０挺、弓１０張、槍３０本、旗３）

「徳川禁令考」　慶安２年 1649

幕末の生実藩では、１４７～９２（足軽・歩兵を含むと約１４４）人・・・

弘化２年 1845　**「御家中分限帳」**・・・・１４７人

青木七郎右衛門	１７５石	内海伴吾（此右衛門）	６０石
氏家三之丞（平馬）	１５０石	西村三左衛門	５５石―慶応１年？６０石
市原朝次郎（文九郎）	１１０石	増井喜五郎	５４石文久２年相続
氏家藤左衛門	１００石	京僧伊之助	５０石
京僧権左衛門	１００石―文久１年２０石加増	小幡又右衛門（安五郎）	５０石
新井郷右衛門	８０石	桑名弥右衛門	４０俵―慶応１年？
大橋銅太郎	７０石		

元治２年 1865　**「御家中名前覚帳」**・・・・９２名

御国御家中

給人　御郡代	桑名弥右衛門	長田　英之進		小林　清助	
御小姓	桑名　孫太郎	村井　泰　輔	御中小姓	村井　留四郎	
大小姓	田村兵右衛門	樋口　勝太郎		足軽	弐人
	樋口　茂十郎	長田　欽之助		歩兵	弐拾四五人

安政５年人数帳　藩領９，７９３人　＝　男５００２・女４７９１

下総　千葉郡 19 村―６，０１２人　匝瑳郡３村 511 石―９２２人　海上郡網戸 118 石―３６６人

上総　長柄郡長谷 425 石―３２５人　　武射郡屋形 375 石―１０４１人
相模　鎌倉郡笠間 791 石―２７７人　　大住郡３村 807 石―　８５０人
朱印寺領千葉郡―寺１門前共１２９人・大住郡―２寺　６人　＝１３５人

３．生実藩陣屋と浜御蔵

北生実村―　生実藩陣屋元村―生実役所・郡代、　割元名主、生実宿（喜八郎、郷宿　　4-78　3-233）
２月　「来ル十二日御陣屋くね結人足例之通村々より可被差出　　寛政７年　　3-409
3月３日　「献上松露明後五日当役所江可相納候翌六日江戸表江飛脚差立候・・安政５年　4-90
〃　８日　「献上蕨例年之通甲乙無之様五六寸位之品来ル十二日当役所江可相納候　　〃　　〃
？　　初茸献上　　4-360

廻状順・・・北生実―南生実―浜野―村田―古市場―上郷―下郷―有吉―野田―遍田―平山―小花輪
刻付けによれば概算１時間で次の村へ廻達しているので、12 時間で振り出しに戻る・・・

＊陣屋元北生実村は、天保１４年（１８４３）　房総往還の新田塩田や土気御成道の鎌取場を含み家数１９９軒のところ１０２軒が、商売・職人として農業以外の稼ぎをしていた。　３－２３２
菓子類小売１６　　塩煎餅焼き４　　菓子種おろし１　　菓子打卸１
煮売４　　一膳飯屋２　　蕎麦饂飩２　　豆腐屋４　　漬物商売１
酒升売３　　雑穀売買５　　造醤油２　　酒造１　　造酢１
〆油２　　薪炭売買４　　魚油かつぎ小売１
荒物６　　足袋屋２　　下駄足駄１　　薬２　　紺屋７
元質屋３　　下質屋１１
古着古紙古道具１　　古鉄３　　鋳かけ２　　鋳物師１　　桶屋１　　綿打７
髪結２　　湯屋１　　郷宿２
大工４　　木挽７　　家根屋６　　建具屋１　　畳屋１　　油〆職３　　糀屋５

酒造・・・天保９年（１８３８）古市場村１　南生実村１　北生実村１　　３－２３０
（刈田子村１　　北生実村１）　幕府が酒造株で統制
質屋・・・天保１２年（１８４１）地廻り１２村で元質屋９、下質屋３０と定める　　４－４５４
藩は紛失物・盗賊の品・博奕打等の質物改め取締りとして営業数を定め、鑑札を渡す。
冥加運上金は無し。隠質取引、他領の質屋へ質物送り、買い人の所持品預かりでの商いを禁じた。
元質屋―北生実４　　浜野２　　野田２　　平山１
下質屋―北生実１１　浜野３　南生実２　村田２　　有吉１　　平山１　　遍田２
谷津２　駒崎１　刈田子１　　中西１　富岡１　大金沢１　六通１

浜野村―浜野河岸―浜御蔵
９月５日　浜御蔵垣根例年之通縄竹等為持人足江才料附早々差出繕立可申・・・
（野田へ７日着天保 15 年　　4-77
・年貢米、縄、人足など
浜野湊　３月 20 日　「来ル二十四日五日両日共浜野下みよ浚人足・・例年之通村々より人足

可被差出　　寛政７年　3-413

〃　18 日「来ル廿四日廿五日浜野村通船湊浚惣人足　・・諸事例年之通

天保 15 年　4-74

寛政６年 1794　4/3　浜野村地曳網、前々の通り運上差出せば許可

文政６年　1823　村田浜野生実と八幡村きさご騒動

文政 11 年 1828　７月　浜野村・村田村塩除け土手築き新田開発願い

天保１０年 1839　浜野村藩領家数１６３軒（内本家１３７軒　半家２６軒

本行寺門前家数　３０軒（内本家２５・半家５

明治初　生実藩領　７４３石６１８合７６才

本行寺領　　１０石

諏訪神社除地　２石６２１合（明治４年改増４７８合で合計３石０９９合

明治 40 年 3/18　小網町末広河岸地先の荷上場借地存続請願書

（東京都公文書館所蔵　畑中佳子氏よりご教示）

１１４４番地	船業者	二村七郎	１１７６	〃	岩撫栄次郎
１０２９	〃	斉藤武助	〃	〃	由良善太郎
１０３７	〃	石橋長太郎	１０９４	〃	小倉嘉七
１２１１	〃	並木安蔵	１０２９	〃	斉藤郁郎
１１８０	〃	坂倉清次郎	１２００	回漕業	飯豊幸十郎
			１１９９	〃	日置民三郎

４．近代

明治２２年北生実・南生実・有吉・浜野・村田合併して生実浜野村成立―役場北生実１６４９番地

３６年生実浜野漁業組合

３７年浜野村田耕地整理

４０年７月村役場移転―浜野１２８９番地塩浜橋詰

４５年３月２５日浜野駅開業

大正１１年１月１日生浜村と改称

昭和３年１１月１０日生浜町

７年生浜町役場新築移転―浜野１２９０－３番地

昭和３０年２月１１日千葉市へ合併

昭和３６年１２月２５日漁業権放棄

資料

１．**生実浜野村田三か村入会浦澪絵図**　部分　宝暦５年 1755

生実浜野村田三か村入会浦絵図　文政６年 1823 以降

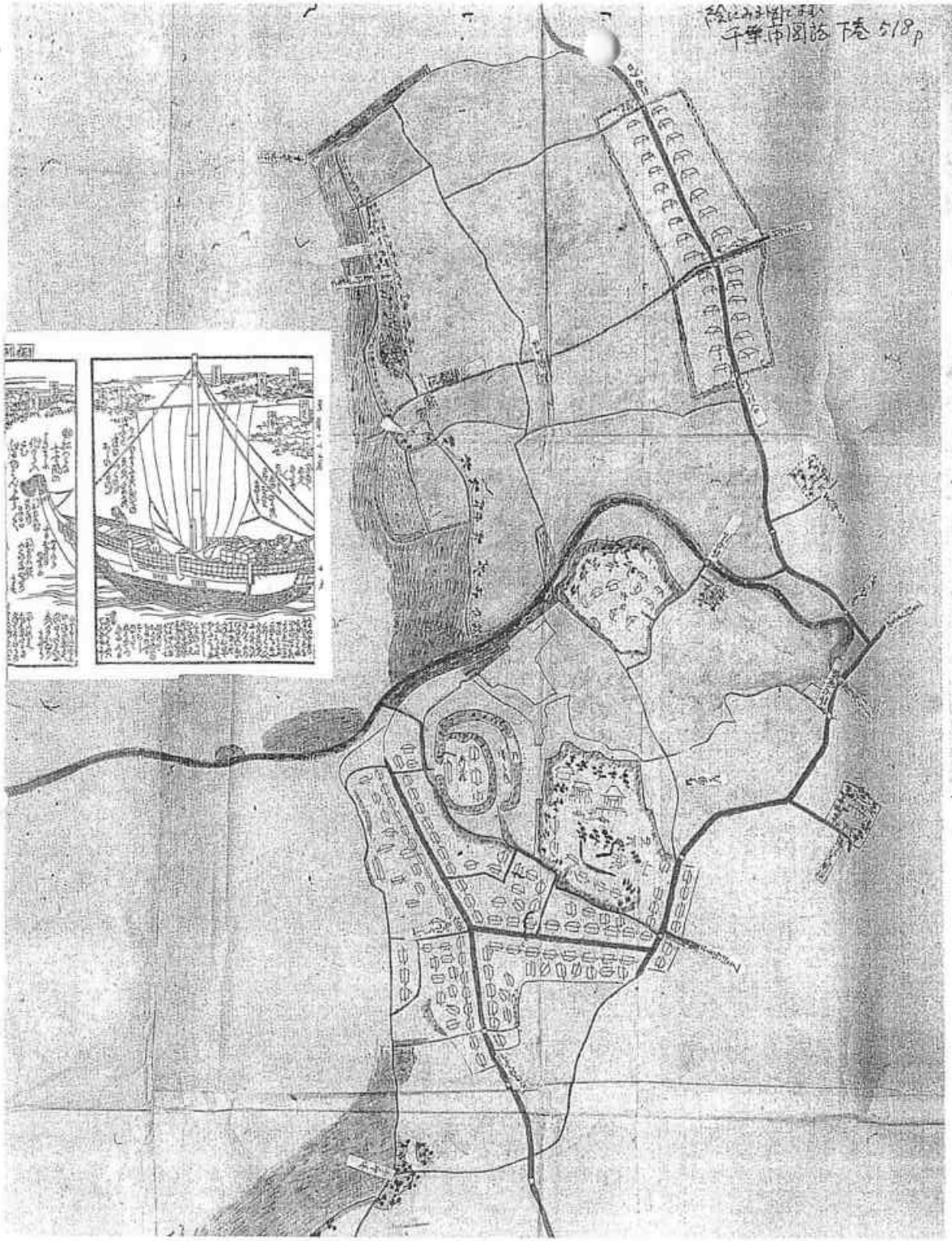
２．**北生実村絵図中心部**　寛延４年 1751 か

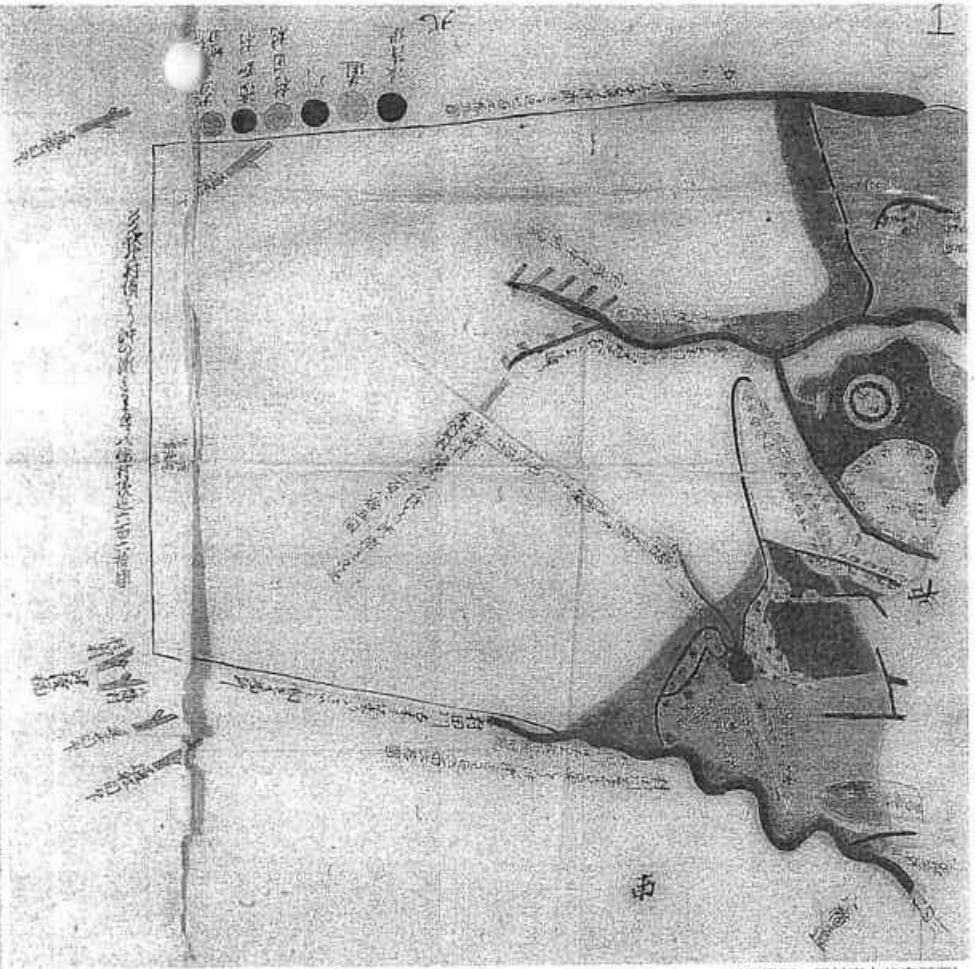
陣屋絵図　天保８年、明治初年

３．生実藩浜御蔵収納米について

生浜町―絵にみる図でよむ千葉市図誌上巻５０ｐ

４．**迅速測図千葉町八幡駅五井村**　明治 15 年～16 年測量 20 年製版





－17図　北生実村・浜野村・村田村入会浦絵図　江戸時代後期　（塩田町　田村喜久雄家所蔵）

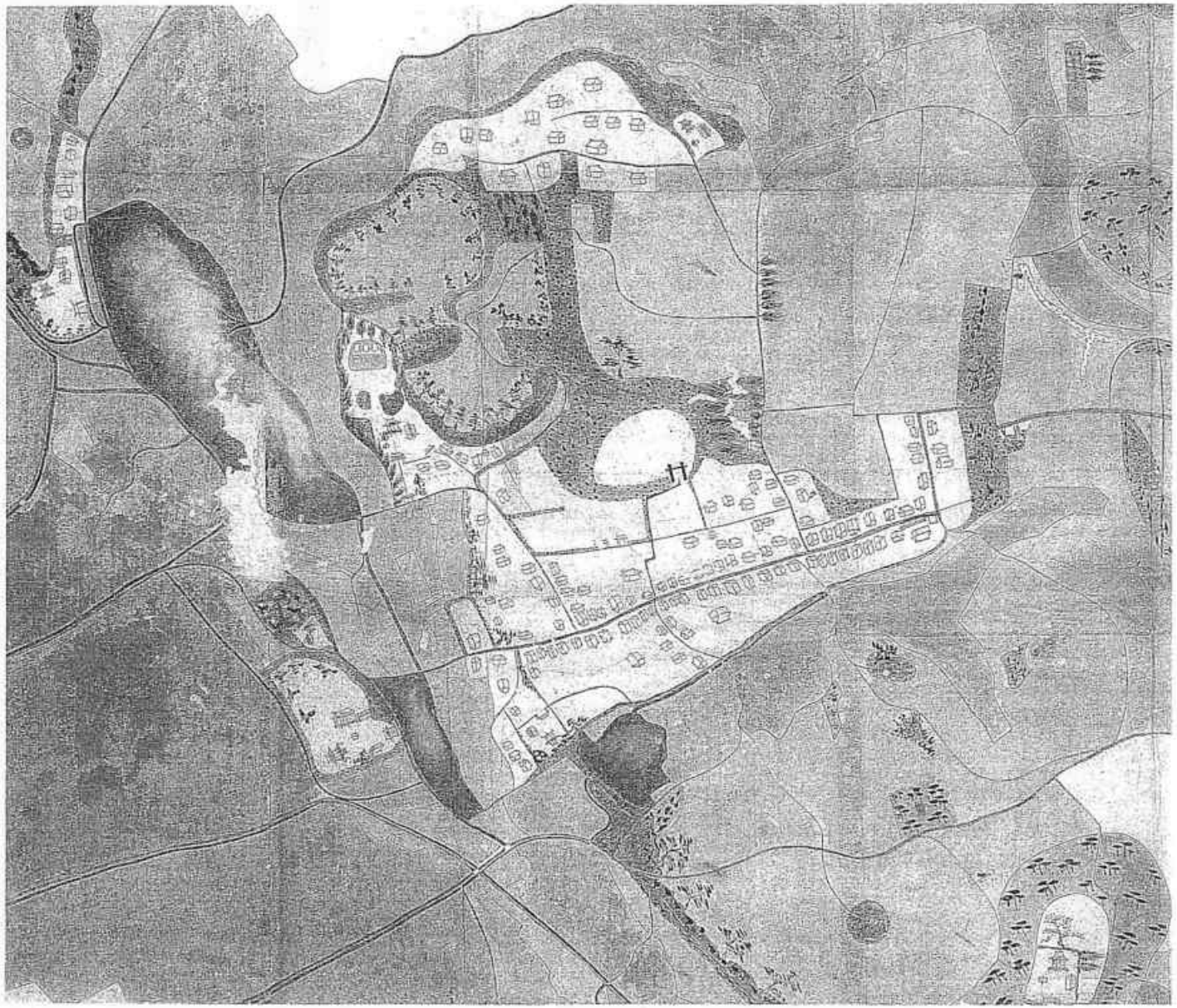
北生実（新田部分＝現塩田町）・浜野・村田各村の地先海面は、田肥として重要なキサゴなどの貝類採取の好適地であった。同じ生実藩領に属するこの3か村は、遅くとも17世紀中頃から地先を共同の「三ケ村入会」とし、周辺浦付村々との間で採取権をめぐる争いが生じると、村落間の交渉による合意や領主の裁定によって調整を図ってきた。

上図もそうした合意に際し3か村入会の範囲を表示する目的で作成されたものと考えられる。入会権主張の重要な根拠となる海岸部分の村領域が色分けされ、各村はおおむね川を境界としている。その上で、曽我野村・北生実村境の坪川河口から「沖ノ瀬きわ（際）」まで795間、村田村・八幡村境の村田川河口から同じく660間を見通し、この両線に囲まれた海域を図示している。この範囲は近代の生実浜野漁業組合専用漁業漁場（P.515、Ⅷ－15図）の基礎ともなったと思われる。

なお上図には、海域境界を示す境杭等のほかに、交通標識である「通船目印」杭や船の通る水路＝澪（みお）も表記されている。この海域は、浜野村にあった生実藩米蔵の江戸廻米など、物資輸送の上でも重要な場所であった。

『絵にみる千葉市図誌　下巻　517p』

第15図 北生実村に所在した陣跡遺址図 (高橋広美氏提供)



絵にみる
国で城 千葉市図誌 上巻 p.328～331.

生実藩浜御蔵について　　081001 今井調べ

生実藩領村々の年貢米納一覧

村名	村高	年貢米				出典
	幕末	年貢取米〆	浜御蔵納	陣屋蔵納	地払い	
北生実	1347石607	1311俵1810				
南生実	1027石245					
浜野	743石618					
村田	351石894					
有吉	220石958	220俵2883	185俵1267	18俵		3－449p
小花輪	128石182					
谷津	505石232	下郷				
駒崎	154石148	725俵2162	263俵2257	糯2俵	320俵	3－578p
刈田子	177石122					
古市場	560石954					
茂呂(室	343石146					
中西のうち	192石491					
落井	173石424	上郷				
富岡	211石371	1135俵0236	1007俵18235	18俵		4－584p
小金沢	123石740					
大金沢	289石603					4－501p
平山	551石943	504俵1703	461俵08541	10俵		4－290p
遍田	190石094	165俵1750	129俵13930	24俵		4－417p
野田	151石837	166俵3420	146俵00449	6俵		4－67p
地廻り計	7444石609		2191俵			

*地廻りは11月20日限り皆済
＊浜御蔵納＝浜御蔵入・御蔵入・御蔵元江渡を加算
＊陣屋蔵納＝陣屋御蔵・御役所土蔵・御膳米を加算

長谷	425石941
屋形	449石025
惣領	386石629
小川台のうち	177石385
西小笹のうち	47石000
網戸のうち	118石015
東領計	1603石995

名古木	373石805	天保13年8／5　相州4か村当年より米納仰せ出だされ・・・俵拵えの儀達し
落合	334石200	〃　14年11／晦　尾尻村太郎平、御蔵元格　3－163p
尾尻のうち	99石836	
堀山下	―	
笠間	802石915	
相模領計	1610石756	
合計	10659石360	明治3年頃歳入4032石42166(4斗入りで10081俵02166　3－134p

浜御蔵　＜西郷家員、天正１８年1590　８月１９日に生実５０００石知行（天正19年本行寺10石　実紀
宝暦４年1755絵図では二重土塁の内に、御蔵３棟と入口に蔵役所らしき家.明治2年では御蔵２棟　図誌
昭和３７年土地宝典で内側の土塁の中は約１５００坪か
＜明治初年陣屋内の蔵の規模　３間×６間、２間×２間が２棟、２間×７間土蔵、２間×４間板蔵　3－132p
弘化2年1845　３／１１浜御蔵新規出来候付、地形瓦方石方請負代金並仰付けられる　3－167p
〃　３／１６異国船浦賀表へ来航につき浜御蔵地へ警備出動　〃
御蔵元　＜年貢米の受取小手形を出す、江戸廻米では船の上乗りを勤める。　＜御蔵番・・・
日置喜左衛門＝文化10年1813　8月より御蔵元再勤、同15年正月名字帯刀御免　3－146p
元禄１１年頃～福俵（東金）・千沢（茂原）、寛政９年頃～台方（東金）、幕末～小山・
小食土の年貢米を海上輸送する運送宿を営業した　地域と流通
飯豊利八＝大保１０年１２／２８御蔵元格。　幕末に平川・小山の運送宿を勤めた　〃
弘化3年９／２１　生実表年々御収納米御蔵入之節、出役御郡代御代官共御用多・・御使番出役　3－148p
御用船　＜天保１１年７／２２御在所表より御家中真木炭、御用船へ積送り候儀仰せ出される　3－162p
文政２年1819　8月藩五大力船破損、１０／５新造出来（前年４／１２利八献納願い　3－134p
天保7年1836　５／１９浜野村御用船の儀仰せ出だされる　3－156p
＜文化10年浜野村船数１８艘、番船会所（矢来・物置等諸入用、惣船持衆にて出銭）設置　4－658p
備考・延享３年1746　佐倉藩地廻り６万石余の寒川蔵屋敷５７間×３５間＝１９９５坪　御蔵５棟
当村御蔵元ニ付、百姓船ニ而積送り申候・・五大力百姓船四拾艘、百俵積船・九拾俵積船　2－427p
慶応３年寒川蔵収納２７６０５俵のうち１８０００俵江戸へ、１０００俵地払い、
８４３９俵寒川御蔵入り　2－16p

生浜町

生浜村　生実浜野村

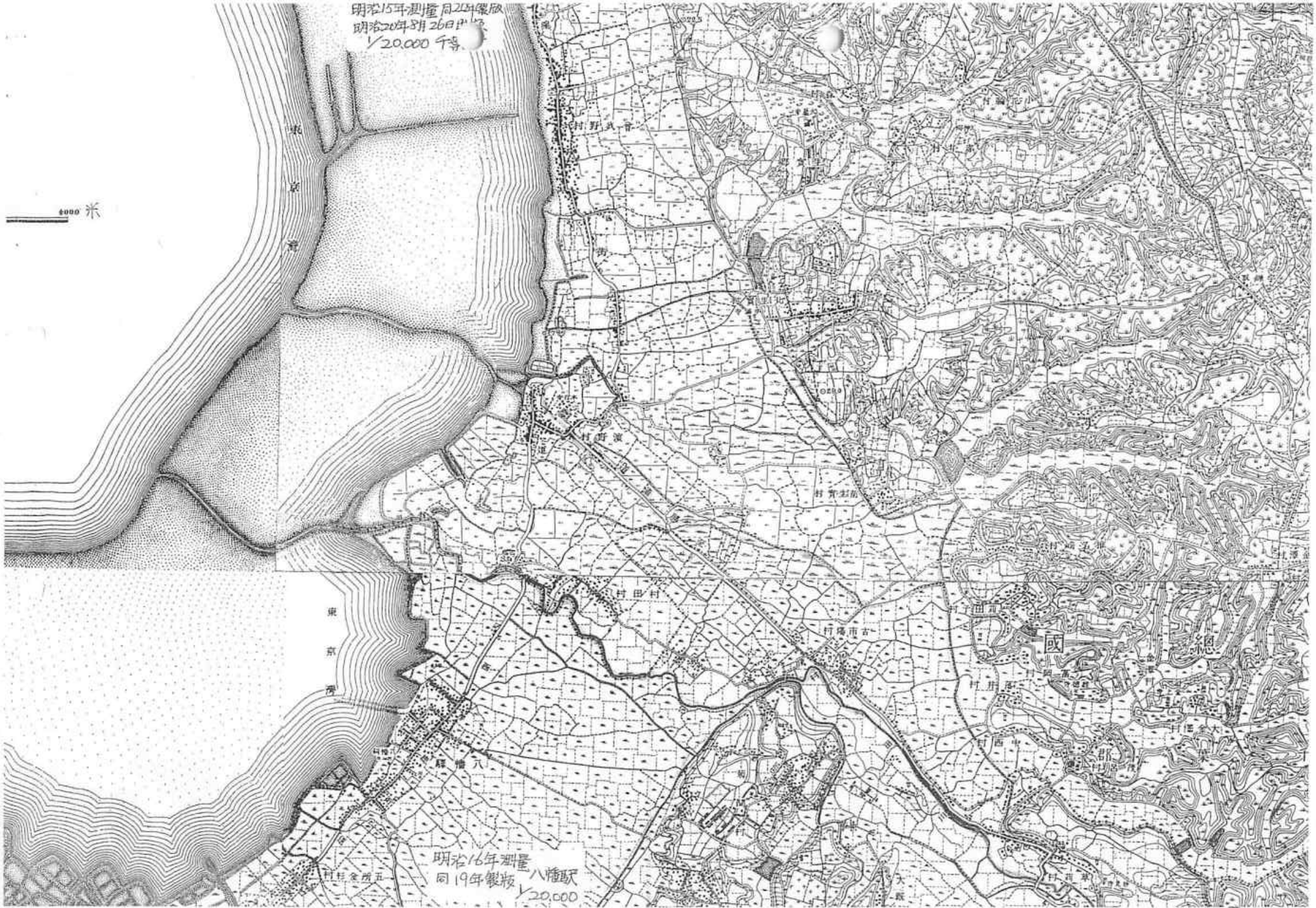
（明治二二～昭和三〇）
一八八九～一九五五年

生実浜野村成立時(1889)	人口 (人)	戸数 (戸)	面積 (町.反.畝.歩)	千葉市合併時(1955)	人口	世帯数
北生実	1438	262	287.9.5.03	※	1135	196
				塩田	494	95
南生実	547	96	165.8.8.07		814	132
浜野	1312	236	120.4.8.10		1824	372
村田	681	134	79.8.2.20		999	184
有吉	238	48	113.1.8.29	※	274	45
計	4216	776	767.3.3.09	※	5540	1024

※鎌取町へ編入分は除く

			北生実	南生実	有吉	村田	浜野
江戸時代			生実藩				
明治時代	元	9／8	生実藩				
	4	7／14	生実県				
		11／13	印旛県				
		12／	第九大区二小区				
	5	9／1	第七大区二小区				
	6	6／15	千葉県				
		7／15	第十一大区一小区				
	9	1／1	第十一大区二小区			第十一大区一小区	
	11	11／2	生実郷と3村連合		赤井他と4村連合	2村連合	
		12／	3村連合			2村連合	
	17	7／	5村連合戸長役場				
	22	4／1	生実浜野村				

生実浜野村は、1889(明治22)年4月1日の村制施行時に、北生実・南生実・浜野・村田・有吉の5か村が合併して成立した。この地域は江戸時代を通して生実藩領下にあり、北生実は藩の陣屋元の小都市として、浜野は江戸への津出し湊であり房総往還の駅場でもあるという交通都市として、近隣に対して重要な位置を占めた。なお、この5か村には海岸の利用および水田の用排水について共同性・連帯性が強くあった。役場は北生実に設置されたが、1907(明治40)年浜野に移転した。1903年北生実・浜野・村田の区域に生実浜野漁業組合が成立し、貝類・ノリ養殖が盛んとなり、また1904年には浜野と村田に広がる水田の耕地整理が行われた。1912(明治45)年国鉄木更津線（現内房線）浜野駅が開業し、浜野・村田の海運業はやがて衰退していった。1909年感化法による県立生実学校が設置された。同年生実小学校（前身は1873＝明治6年2月創立の格物小学校）と浜野小学校（前身は1873年4月創立の研恩小学校）が合併して生浜尋常高等小学校となる。教室は7か所に分散していたが、1918(大正7)年に校舎が新築され、ここに統合した。1925(大正14)年1月1日に生浜村と改称し（人口3,843、戸数765)、1928(昭和3)年11月10日の「御大典記念」の時に町制が施行された（人口4,693、戸数763)。その後、1932年に役場庁舎が新築され（現在資料館に改装中)、戦後になると1947（昭和22）年に生浜中学校の設置をみた。そして、京葉臨海工業地帯造成の進行するなかで漁業権問題があったが、隣接する椎名村・誉田村とともに1955(昭和30)年2月11日に千葉市へ合併した。


明治15年測量 同20年製版
明治20年8月26日印刷
1/20,000 千葉
4000 米
東京湾
東京湾
村野武音
村西濱
村田村
村陽市古
村井居
村西中
村崎泉
村青柳
村杉金所五
明治16年測量
同19年製版
八幡駅
1/20,000

平成２０年７月３１日

山　岸　弘　明　　様

市原市立八幡公民館
館長　　河野　一雄

主催事業の講師について（依頼）

夏空がまぶしい季節となりましたが、貴台におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は社会教育ならびに当公民館の諸事業に対しましてご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、この度当公民館の主催事業として、「女性セミナー」講座を下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、公私ともにご多用のところ誠に恐縮に存じますが、講師としてご依頼したくお願い申し上げます。

記

１　事　業　名　　女性セミナー

２　日　　時　　平成２０年　９月　３日　　（水）
　　午前　８時３０分より　午後　４時３０分　まで

３　場　　所　　バス研修　東京築地～佃島

４　対　　象　　女性　３０　名

５　そ　の　他　　当日、印鑑をご持参ください。また、資料の印刷等がございましたら、公民館にてさせていただきますのでお申し付けください。

担当　　社会教育指導員　中嶋　眞由美

八幡公民館主催事業　女性セミナー②バス研修

みどころタップリ ＜築地、明石町と佃島を歩く＞

①築地市場

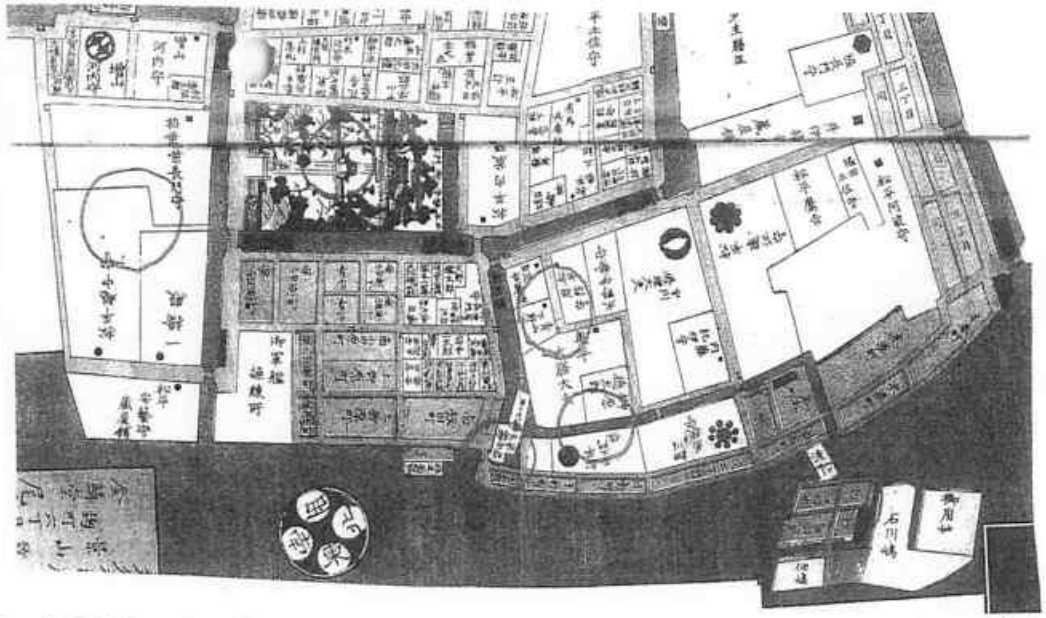
②築地本願寺

④聖路加ガーデン展望台

⑤佃島

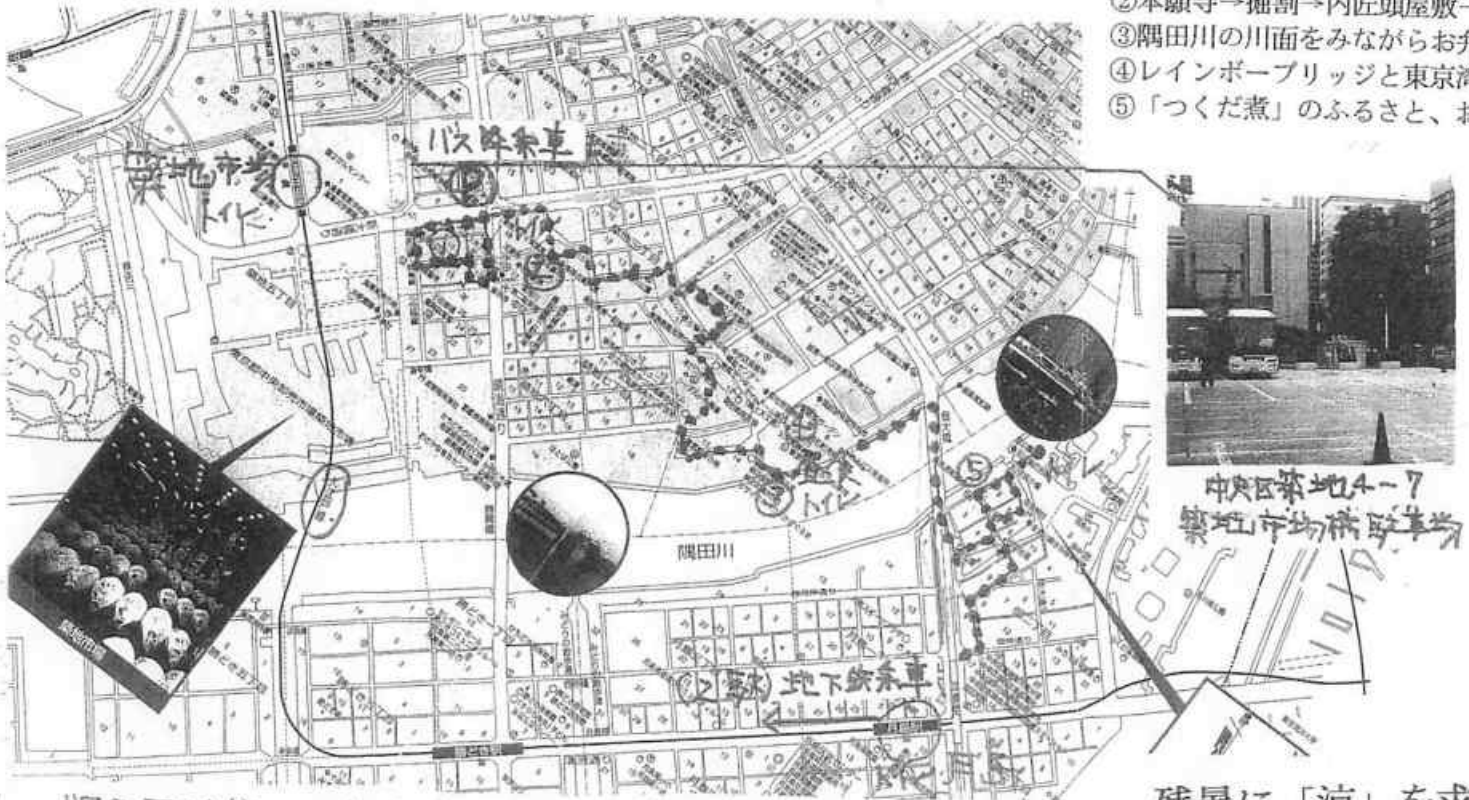
平成２０－９－３（水曜日）　　山岸弘明

ＮＨＫ朝ドラ「瞳」の舞台　コース覚えて友だちを案内しよう



きょうのみどころ５ポイント

①喧騒の「都民の台所」 —— さかなの町＝築地場外市場
②本願寺→掘割→内匠頭屋敷→外国人居留地 —— 築地・明石町の江戸史跡
③隅田川の川面をみながらお弁当を楽しむ —— テラス遊歩道と佃大橋
④レインボーブリッジと東京湾を一望 —— 一大パノラマが広がる聖路加ガーデン展望台
⑤「つくだ煮」のふるさと、おみやげもどうぞ —— 「江戸情緒」残す佃島



中央区築地4－7
築地市場横駐車場

→③昼食の隅田川遊歩道

残暑に「涼」を求めるチョーお勧め「江戸歩き」コース

2）　きょうは見るだけ、はぐれないでください —— 築地場外市場（築地４）

①　築地市場＝都民の台所、東京都立中央卸売市場と仲売り、小売り店群。安くて新鮮の「人気ゾーン」有名すし店や小さな魚屋がぎっしり並んでいる。

(1)場内＝卸売市場（一般は立ち入りできない）と同じ敷地内の「さかな商店街」
場外＝隣接する「小売り商店街」、魅力たっぷりだがきょうはす通り

(2)はぐれたら＝万一のときは地図のＡ集合地＝築地４丁目交差点へ。

②　「魚市場」はじめてものがたり＝江戸漁師のはじまりは徳川家康が関西から連れてきた佃島（後出）の人たち。その子孫が将軍家に献上した残り魚を日本橋で売った。

(1)日本橋周辺の町々には魚問屋が集まり人口拡大する江戸に大量の魚を供給した。「一心多助」の舞台でもあった。管理は幕府の「魚納（さかなや）役所」が担当した。

(2)「日本橋魚市場」は明治維新以後も発展したが、関東大震災で罹災後現在地に移ってきた。

(3)東京都は晴海への移転計画を進めているが、地質の不良、反対運動などで見通しが立っていない。

3）　「築地」地名の由来となった築地本願寺（中央区築地３＝自由参拝）

①　築地本願寺築地別院＝浄土真宗本願寺派、西本願寺別院。別院は寺の格式で支店、支社にあたる通称「江戸御坊」、江戸屈指の名刹だった。

②　江戸時代はじめの元和７年東日本橋に創建、明暦大火焼失後、幕命で海岸の砂浜だった現在地に移転。信徒が埋め立てたので「築地」の語源になる。

③　現在地は旧本堂跡で場外市場は墓地や末寺だった。壮大な七堂伽藍を構えたが明治５年、27年、大正12年（関東大地震）などで焼失、古代インド様式の現建物は昭和10年伊東忠太設計、鉄筋コンクリート地上２階、地下１階、墓地は杉並区の和田堀廟所にある。

④　赤穂浪士間新六の墓＝元禄15年12月14日父嘉兵衛、兄十二郎とともに吉良邸に討ち入り、切腹後義姉が遺骸を引き取って本願寺に埋葬。泉岳寺には新六と寺坂吉右衛門の２人の骨はない。

(1)酒井抱一、土生玄碩の墓＝江戸後期の絵師と将軍家眼科医

4）　かつて八幡の五大力船も通った —— 築地川公園、掘割跡（築地、明石町の境界）

①　備前橋＝直前の備前岡山藩池田31万石中屋敷に由来。備前藩近くの橋という意味。川の両側から橋台を伸ばし橋は真ん中だけ。明治の石橋を保存

②　築地川公園＝江戸時代の築地川、堀割跡。江戸は縦横に巡らせた掘割による水運が開けた。荷物は船で移動、掘割幅、両側の道、荷揚げ場などの地形が窺える

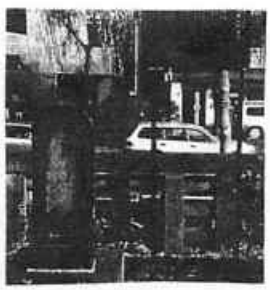
(1)八幡の五大力船（中型帆船）も手こぎ櫓に切り換えて掘割で江戸市中深く進んだ。

③　築地居留地解説板。一帯は幕末から明治にかけての外国人居留地。明治の錦絵、第一銀行、築地ホテル館などを描く

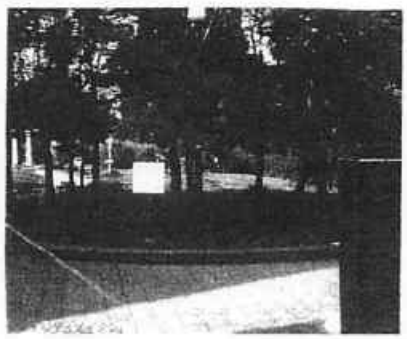
④　元禄15年12月15日早朝、めでたく本所松阪町の吉良邸討ち入りをはたした浅野内匠頭旧臣、大石内蔵助以下47士が人目をはばかるようにひっそりと墨田川縁をすすむ。

(1)永代橋以降のルートに諸説、浅野家旧邸と築地本願寺を通ったとされる。さすれば築地川公園脇の掘割路も通ったことになる。この先、ほどなく吉田忠左衛門と富森助右衛門が愛宕下大目付仙石伯耆守家報告のため離脱、午前８時ころ泉岳寺到着、亡君の墓前に吉良上野介の首を供えた。

築地場外市場



←義士の墓



築地本願寺↑　掘割跡→

5）　赤穂事件発端の地・浅野内匠頭上屋敷跡 ―― 聖路加看護大学、聖路加国際病院（明石町）

① 赤穂５万３千石浅野長矩邸跡＝元禄14年３月14日早朝この屋敷から江戸城に登城した長矩は殿中松の大廊下で吉良上野介に刃傷、即日新橋の田村右京太夫邸において切腹、お家断絶となる。

(1)第１報は午後２時ころ弟長広から。夕刻幕府目付天野伝四郎ら到着、取り潰しと両３日内の屋敷引き払いの上意を伝達。妻阿久里は髪をおろし、実家・浅野三次藩浅野長澄の赤坂藩邸へ引き上げた。

② 芥川龍之助生誕地＝明治25年、牛乳牧舎を営む新原敏三長男として誕生。母の実家芥川家に養子、代表作は「羅生門」「鼻」。大名屋敷跡地が牧場となるなど混乱していたことも歴史を知るうえで楽しい。

③ 聖路加看護大学、聖路加国際病院

(1)明治の創設牧師邸

④ 慶応義塾開設の地、蘭学ことはじめの碑

6）　江戸時代は船溜まり＝港だった ―― あかつき公園、船溜跡（築地７）

① 三角形の公園は舟溜まり跡＝船を安める港。明石橋の先は海だった。

② 周辺は明治の外国人居留地跡＝居留地は外国人の自由居住を許さない国が条約によって特定の地域を貿易と居住のために開放した地区のこと。

③ 安政５年幕府は日米通商条約などを締結、明治元年新政府は築地の旧大名屋敷街、海辺町家を居留地とした。その範囲は明石町①～⑫番地、湊３－⑨～⑱番地だが、八丁堀まで相対貸地が認められ、南の軍艦奉行跡地は築地ホテル館、新富町に新島原遊廓が誕生した。

(1)周辺に築地カトリック教会、ガス灯柱、島会所跡などの史跡があるが時間の都合で省略します。

④ シーボルト胸像（1796～1866）＝江戸後期文政７年、オランダ商館医師として長崎に到着、診療や医学塾を開き、江戸に来て蘭学者を指導して影響を与えた。同11年日本地図を国外に持ち出そうとしたなどの罪に問われ国外追放されたが、のち許されて再来日を果たした。ミュンヘンで没。

⑤ 電信創業の地碑

7）　税関発祥の地はいま高級しゃぶしゃぶ亭 ―― 東京運上所跡（明石町）

① 幕末、築地居留地開設準備のために設置された外国事務局跡、明治元年新政府は運上所と改め税関事務を担当させた。５年さらに開市場裁判所と変わり外国人の訴訟事務を行った。

② 明治２年運上所と横浜裁判所の間に電線を架設、電信業務を開始、昭和15年逓信省が＜電信創業の地＞として石碑を建立した。

(1)跡地はしゃぶしゃぶ高級料亭治作。昔ながらの料亭の雰囲気を漂わせている。

8）　かつての江戸湾海岸周辺で昼食 ―― 明石町河岸公園（昼食休憩＝５０分間の予定）

① 一瞬景観が開け、隅田川を臨む。正面対岸は後の埋め立て地で、江戸時代は海＝江戸湾だった。

(1)大名庭園のプロローグを思わせる。一瞬の景観変化が何ともいえない魅力

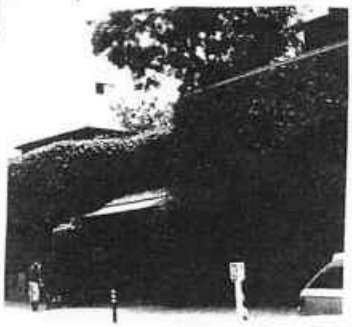
② ここで昼食。弁当持参者は隅田川を見下ろす河岸公園で、コンビニは聖路加ガーデン、食堂利用者は聖路加ガーデン１階に中華、和食、洋食やさんがあります。

(1)集合時間厳守。もし遅れたら次の聖路加ガーデン展望台をパス、ここで待ってください。

浅野屋敷跡

←↑聖路加病院

←シーボルト胸像


←運上所跡

佃大橋と佃島のマンションビル群

9）　アメリカ国旗の石の装飾 ―― アメリカ公使館跡

① アメリカ公使館＝幕末安政６年、ハリスが麻布善福寺に創設、明治８年から23年現在の赤坂大使館移転までのアメリカ公館。跡地は明治42年までメトロポールホテルになった。

(1)公使館建物にはめ込まれていた花崗岩装飾用材。星や楯などを刻む。

１０）アクアラインと東京湾を一望、きょう最大の見どころを堪能 ―― 聖路加ガーデン

① 聖路加病院敷地内に立つ最新の高層ビル
聖路加ガーデン47階へ。地上185mの展望台から隅田川、アクアライン、東京湾を遠望
しばらく周辺の景色を堪能する

(1)エレベーターは２階から乗車、46階からは徒歩。下車は２階へ、１階ではない。間違いやすいので注意

(2)しばらく隅田川の川面をながめながら遊歩道を進む。

１１）佃大橋を渡る ―― 佃の渡しと佃大橋（明石町と月島、佃１の境界）

① 前面隅田川の対岸は月島＝晴海地区。江戸時代はその一部に佃島と石川島の小島２つがあったがほかはすべて海。戦後埋め立てられた東京湾内の新興都市。

② 佃の渡し＝江戸時代、明石町と佃島を結んだ渡船場。江戸中期の正保２年から佃大橋ができる昭和38年まで。明治９年の渡し賃は５厘、昭和２年東京市営で無料。両岸に「佃島渡船」碑がある。

③ 佃大橋＝昭和36年起工、39年竣工、長さ２30m、幅26m。月島側欄干に東京都が作った佃島のレリーフがはめこまれている。

１２）魚好きの徳川家康が摂津の漁師34人を移転させた ―― 佃島（佃１）

① 佃島＝大橋左手の佃１丁目が本当の佃島。徳川家康の江戸入府にあたって、摂津の佃村（大阪市西淀区佃田）漁師34人が江戸に迎えられ、江戸湾の独占的漁業を許された。正保元年から佃島に家を立てて居住、毎年白魚を献上した。明治維新以降、関東大震災や昭和東京空襲も免れたので古い町並みがほぼ当時の姿を伝えている。

② 船溜まりと佃小橋＝隅田川から西方向、さらに直角に曲がる堀川が船溜まりでよく旧態をとどめている。真ん中あたりに赤い佃小橋、ここから皇居側の北側を上町、南側を下町、海側を向町といって現在でも通用するという。

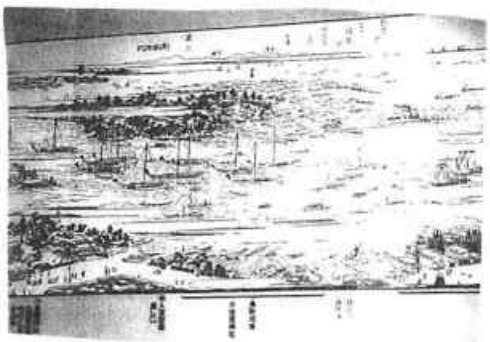
(1)船宿折本＝江戸湾釣り船の拠点港

③ 佃島渡船場跡＝佃島児童遊園に渡船碑と句碑

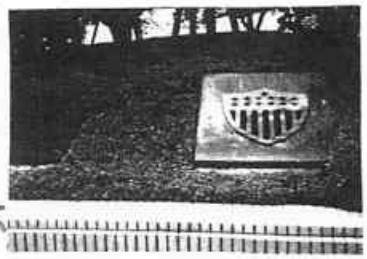
④ 佃煮天安本店、田中屋、丸久＝天保創業の老舗も。秘伝のタレと砂糖でじっくり煮込む佃煮は絶品。時間あればぜひおみやげに。

大パナラマをみおろす

聖路加ガーデンビル



展望台の首都圏



→アメリカ公使館跡

１３）江戸はじめに佃島の郷土・摂津から勧請 —— 住吉神社（自由参拝）

① 住吉神社＝佃島漁師ゆかりの摂津住吉大社から勧請、正保３年創建。いまでも漁業、海運関係者などの信仰があつい。銅板葺きのみごとな社殿。大祭は宮出し、船渡しで賑わう

② 鳥居＝１の鳥居は銅板巻き、２の鳥居は珍しい陶製の神額
住吉神社、明治十五壬午歳六月三十日、一品織仁親王＝有栖川宮⑧代、書道の名人

(1)水盤舎、銅灯籠、伝東洲斉写楽終焉の地碑

１４）「鬼の平蔵」が作った石川島人足寄場 —— 佃公園（佃２）

① 寛政２年、火付け盗賊改め長谷川平蔵の建議で作った人足寄場、正しくは「加役方人足寄場」
佃島に隣接したあし沼１万６千坪を埋め立てた。現在の佃小学校、中学校一帯をいう。

② 江戸の治安確保のため、住居、職業がなく戸籍にものらない「無宿者」を集めて職業訓練を行った。
維新後、拘置所をへて明治20年まで監獄署に。

(1)佃公園から隅田川、佃大橋方面のながめは抜群、しばし少休憩
石川島解説看板、石川島灯台を再現した公設トイレ

③ 安政元年石川島に水戸藩造船所を開設。跡地は石川島播磨社をへて、現在「大川端リバーシティ21」になっている。

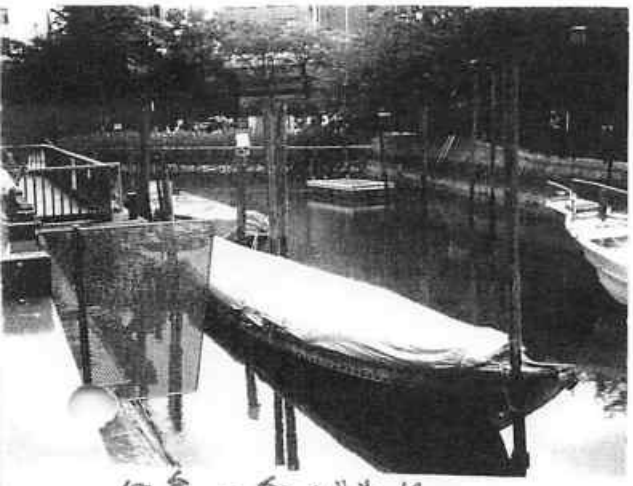
５）月島もんじゃ街を遠望 —— 地下鉄で「築地市場」へ移動、バスで八幡公民館へ

① 月島もんじゃ街＝「もんじゃ焼き」の店が並ぶ町。残念ながらここも遠望だけ。

② 「月島」から地下鉄「大江戸線」乗車、２駅５分「築地市場」下車。徒歩移動。
バス降車地「築地市場駐車場」から乗車、一路八幡公民館めざす。

以上

橋



佃島の神だまり

住吉神社の祭りに興奮

NHK「瞳」撮影終盤 出演者も実際に参加

NHK連続テレビ小説「瞳」で「住吉神社 例大祭」のシーンの撮影をした栄倉奈々（前列中央）ら出演者

NHK連続テレビ小説「瞳」の終盤のクライマックスとなる「住吉神社 例大祭」のシーンの撮影がドラマの舞台の東京・佃であり、栄倉奈々や西田敏行ら出演者が撮影の合間に会見した。

例大祭は三年に一度開かれる勇壮な祭りで、一一四日の期間中に出演者も実際に参加。栄倉は「今まで見てきたものと違って歴史がすごく深い。地元の人も協力的で感動しました」と興奮。みこしを担いだ勇蔵役の安田顕は「歴史を感じる前に物理的に重かった」と語って周囲を笑わせた。

会見には、主人公・瞳（栄倉）が幼いときに家出した父親を演じる勝村政信も出席。今

住吉神社

小さな祠

つくだ煮屋さん

路地裏 もんじゃ もん吉

もんじゃ街

辰巳公民館主催事業　中高年のためのすこやかカレッジ

⑥「歴史講座」バス研修

山岸弘明

江戸城下の歴史を学び、江戸情緒の残る築地と明石町や佃島を訪ねる

①築地市場

②築地本願寺

③浅野邸跡

⑤聖路加ガーデン展望台

⑥佃大橋

⑦佃島

④隅田川ほとり→

平成２０－９－２４（水曜日）

みどころタップリ ＜築地、明石町と佃島を歩く＞

ＮＨＫ朝ドラ「瞳」の舞台　コース覚えて友だちを案内しよう

きょうのみどころ７ポイント

①喧騒の「都民の台所」 —— さかなの町＝築地場外市場
②埋め立て「ツキジ」が地名になった —— 築地本願寺
③掘割→内匠頭屋敷→外国人居留地 —— 築地・明石町に江戸情緒をめぐる
④隅田川の川面をみながらお弁当を楽しむ —— テラス遊歩道と佃大橋
　近くにコンビニや食堂もあります
⑤レインボーブリッジと東京湾を一望 —— 一大パノラマが広がる聖路加ガーデン展望台
⑥むかし「佃の渡し」 —— 全長２３０ｍの佃大橋を渡る
⑦家康が摂津の漁師を江戸に呼んだ —— 「つくだ煮」のふるさと、老舗がならぶ

1）　きょうは見るだけです ―― 築地場外市場（築地４）

㊀　築地市場橋駐車場で降車、トイレ＝少ないので不急の方は２０分後の築地本願寺で。
目の前が築地市場の場内と場外。きょうは場外の一部をす通りする。

②　築地市場＝都民の台所、東京都立中央卸売市場と仲売り、小売り店群。安くて新鮮の「人気ゾーン」
有名すし店や小さな魚屋がぎっしり並んでいる。

(1)場内＝卸売市場（せり＝一般は立ち入りできない）と業者中心の「さかな商店街」
場外＝隣接する「小売り商店街」

③　「魚市場」はじめてものがたり＝江戸漁師のはじまりは徳川家康が関西から連れてきた佃島（後出）の人たち。その子孫が将軍家に献上した残り魚を日本橋で売った。

(1)日本橋周辺の町々には魚問屋が集まり人口拡大する江戸に大量の魚を供給した。「一心多助」の舞台でもあった。管理は幕府の「魚納（さかなや）役所」が担当した。

(2)関東大震災で罹災、現在地へ。現在、晴海への移転計画を進めているが反対も多い。

2）　「築地」地名の由来となった築地本願寺（中央区築地３＝自由参拝）

①　築地本願寺築地別院＝浄土真宗本願寺派、西本願寺別院。別院は寺の格式で支店、支社にあたる
通称「江戸御坊」、江戸屈指の名刹だった。

②　江戸時代はじめの元和７年東日本橋に創建、明暦大火焼失後、幕命で海岸の砂浜だった現在地に移転。
信徒が埋め立てたので「築地」の語源になる。

③　現在地は旧本堂跡で場外市場は墓地や末寺だった。壮大な七堂伽藍を構えたが明治５年、27年、大正年（関東大地震）などで焼失、古代インド様式の現建物は昭和10年伊東忠太設計、鉄筋コンクリート地上２階、地下１階、墓地は杉並区の和田堀廟所にある。

④　赤穂浪士間新六の墓＝元禄15年12月14日父嘉兵衛、兄十二郎とともに吉良邸に討ち入り、切腹後義姉が遺骸を引き取って本願寺に埋葬。泉岳寺には新六と寺坂吉右衛門の２人の骨はない。

(1)酒井抱一、土生玄碩の墓＝江戸後期の絵師と将軍家眼科医

3）　かつて八幡の五大力船も通った ―― 築地川公園、掘割跡（築地、明石町の境界）

①　備前橋＝直前の備前岡山藩池田31万石中屋敷に由来。備前藩近くの橋という意味。
川の両側から橋台を伸ばし橋は真ん中だけ。明治の石橋を保存

②　築地川公園＝江戸時代の築地川、堀割跡。江戸は縦横に巡らせた掘割による水運が開けた。荷物は船で移動、掘割幅、両側の道、荷揚げ場などの地形が窺える

(1)八幡の五大力船（中型帆船）も手こぎ櫓に切り換えて掘割で江戸市中深く進んだ。

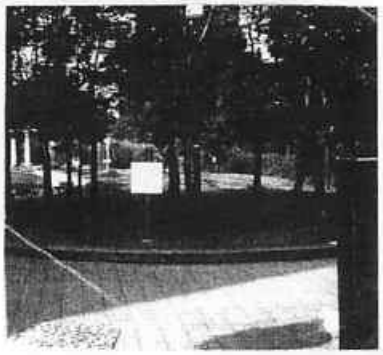
③　築地居留地解説板。一帯は幕末から明治にかけての外国人居留地。明治の錦絵、第一銀行、築地ホテル館などを描く

④　元禄15年12月15日早朝、めでたく本所松阪町の吉良邸討ち入りをはたした浅野内匠頭旧臣、大石内蔵助以下47士が人目をはばかるようにひっそりと墨田川縁をすすむ。

(1)永代橋以降のルートに諸説、浅野家旧邸と築地本願寺を通ったとされる。さすれば築地川公園脇の掘割路も通ったことになる。この先、ほどなく吉田忠左衛門と富森助右衛門が愛宕下大目付仙石伯耆守家報告のため離脱、午前８時ころ泉岳寺到着、亡君の墓前に吉良上野介の首を供えた。

築地場外市場

←本願寺



築地本願寺↑　掘割跡→

4）　**赤穂事件発端の地・浅野内匠頭上屋敷跡 —— 聖路加看護大学、聖路加国際病院（明石町）**

① 赤穂５万３千石浅野長矩邸跡＝元禄14年３月14日早朝この屋敷から江戸城に登城した長矩は殿中松の大廊下で吉良上野介に刃傷、即日新橋の田村右京太夫邸において切腹、お家断絶となる。

(1)第１報は午後２時ころ弟長広から。夕刻幕府目付天野伝四郎ら到着、取り潰しと両３日内の屋敷引き払いの上意を伝達。妻阿久里は髪をおろし、実家・浅野三次藩浅野長澄の赤坂藩邸へ引き上げた。

② 芥川龍之助生誕地＝明治25年、牛乳牧舎を営む新原敏三長男として誕生。母の実家芥川家に養子、代表作は「羅生門」「鼻」。大名屋敷跡地が牧場となるなど混乱していたことも歴史を知るうえで楽しい。

③ 聖路加看護大学、聖路加国際病院

(1)明治の創設牧師邸

④ 慶応義塾開設の地、蘭学ことはじめの碑

5）　**江戸時代は船溜まり＝港だった —— あかつき公園、船溜跡（築地７）**

① 三角形の公園は舟溜まり跡＝船を安める港。明石橋の先は海だった。

② 周辺は明治の外国人居留地跡＝居留地は外国人の自由居住を許さない国が条約によって特定の地域を貿易と居住のために開放した地区のこと。

③ 安政５年幕府は日米通商条約などを締結、明治元年新政府は築地の旧大名屋敷街、海辺町家を居留地とした。その範囲は明石町①～⑫番地、湊３－⑨～⑱番地だが、八丁堀まで相対貸地が認められ、南の軍艦奉行跡地は築地ホテル館、新富町に新島原遊廓が誕生した。

(1)周辺に築地カトリック教会、ガス灯柱、島会所跡などの史跡があるが時間の都合で省略します。

④ シーボルト胸像（1796～1866）＝江戸後期文政７年、オランダ商館医師として長崎に到着、診療や医学塾を開き、江戸に来て蘭学者を指導して影響を与えた。同11年日本地図を国外に持ち出そうとしたなどの罪に問われ国外追放されたが、のち許されて再来日を果たした。ミュンヘンで没。

⑤ 電信創業の地碑

6）　**税関発祥の地はいま高級しゃぶしゃぶ亭 —— 東京運上所跡（明石町）**

① 幕末、築地居留地開設準備のために設置された外国事務局跡、明治元年新政府は運上所と改め税関事務を担当させた。５年さらに開市場裁判所と変わり外国人の訴訟事務を行った。

② 明治２年運上所と横浜裁判所の間に電線を架設、電信業務を開始、昭和15年逓信省が＜電信創業の地＞として石碑を建立した。

(1)跡地はしゃぶしゃぶ高級料亭治作。昔ながらの料亭の雰囲気を漂わせている。

7）　**かつての江戸湾海岸周辺で昼食 —— 明石町河岸公園（昼食休憩＝６０分間の予定）**

① 一瞬景観が開け、隅田川を臨む。正面対岸は後の埋め立て地で、江戸時代は海＝江戸湾だった。

(1)大名庭園のプロローグを思わせる。一瞬の景観変化が何ともいえない魅力

② ここで昼食。弁当持参者は隅田川を見下ろす河岸公園で、コンビニは聖路加ガーデン、食堂利用者は聖路加ガーデン１階に中華、和食、洋食やさんがあります。

(1)集合時間厳守。もし遅れたら次の聖路加ガーデン展望台をパス、ここで待ってください。

浅野屋敷跡

築地居留地

運上所跡

佃大橋と佃島のマンションビル群

←シーボルト胸像

聖路加病院

8） アメリカ国旗の石の装飾 —— アメリカ公使館跡

① アメリカ公使館＝幕末安政６年、ハリスが麻布善福寺に創設、明治８年から23年現在の赤坂大使館移転までのアメリカ公館。跡地は明治42年までメトロポールホテルになった。

(1)公使館建物にはめ込まれていた花崗岩装飾用材。星や楯などを刻む。

9） アクアラインと東京湾を一望、きょう最大の見どころを堪能 —— 聖路加ガーデン

① 聖路加病院敷地内に立つ最新の高層ビル
聖路加ガーデン47階へ。地上185mの展望台から隅田川、アクアライン、東京湾を遠望
しばらく周辺の景色を堪能する

(1)エレベーターは２階から乗車、46階からは徒歩。下車は２階へ、１階ではない。間違いやすいので注意

(2)しばらく隅田川の川面をながめながら遊歩道を進む。

10） 佃大橋を渡る —— 佃の渡しと佃大橋（明石町と月島、佃１の境界）

① 前面隅田川の対岸は月島＝晴海地区。江戸時代はその一部に佃島と石川島の小島２つがあったがほかはすべて海。戦後埋め立てられた東京湾内の新興都市。

② 佃の渡し＝江戸時代、明石町と佃島を結んだ渡船場。江戸中期の正保２年から佃大橋ができる昭和38年まで。明治９年の渡し賃は５厘、昭和２年東京市営で無料。両岸に「佃島渡船」碑がある。

③ 佃大橋＝昭和36年起工、39年竣工、長さ２30m、幅26m。月島側欄干に東京都が作った佃島のレリーフがはめこまれている。

11） 魚好きの徳川家康が摂津の漁師34人を移転させた —— 佃島（佃１）

① 佃島＝大橋左手の佃１丁目が本当の佃島。徳川家康の江戸入府にあたって、摂津の佃村（大阪市西淀区佃田）漁師34人が江戸に迎えられ、江戸湾の独占的漁業を許された。正保元年から佃島に家を立てて居住、毎年白魚を献上した。明治維新以降、関東大震災や昭和東京空襲も免れたので古い町並みがほぼ当時の姿を伝えている。

② 船溜まりと佃小橋＝隅田川から西方向、さらに直角に曲がる堀川が船溜まりでよく旧態をとどめている。真ん中あたりに赤い佃小橋、ここから皇居側の北側を上町、南側を下町、海側を向町といって現在でも通用するという。

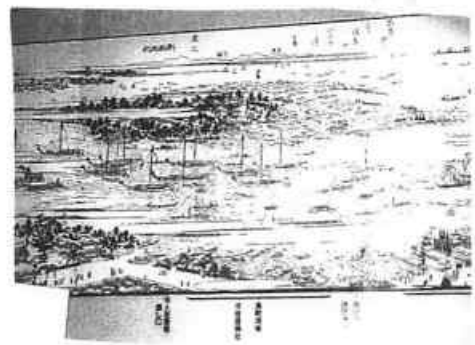
(1)船宿折本＝江戸湾釣り船の拠点港

③ 佃島渡船場跡＝佃島児童遊園に渡船碑と句碑

④ 佃煮天安本店、田中屋、丸久＝天保創業の老舗も。秘伝のタレと砂糖でじっくり煮込む佃煮は絶品。時間あればぜひおみやげに。

大パナラマをみおろす

聖路加ガーデンビル



展望台の首都圏

→アメリカ公使館跡

１２）江戸はじめに佃島の郷土・摂津から勧請 —— 住吉神社（自由参拝）

① 住吉神社＝佃島漁師ゆかりの摂津住吉大社から勧請、正保３年創建。いまでも漁業、海運関係者などの信仰があつい。銅板葺きのみごとな社殿。大祭は宮出し、船渡しで賑わう

② 鳥居＝１の鳥居は銅板巻き、２の鳥居は珍しい陶製の神額
住吉神社、明治十五壬午歳六月三十日、一品幟仁親王＝有栖川宮⑧代、書道の名人

③ ＮＨＫ朝ドラ「瞳」（栄倉奈々、西田敏行）の舞台

１３）「鬼の平蔵」が作った石川島人足寄場 —— 佃公園（佃２）

① 寛政２年、火付け盗賊改め長谷川平蔵の建議で作った人足寄場、正しくは「加役方人足寄場」
佃島に隣接したあし沼１万６千坪を埋め立てた。現在の佃小学校、中学校一帯をいう。

② 江戸の治安確保のため、住居、職業がなく戸籍にものらない「無宿者」を集めて職業訓練を行った。
維新後、拘置所をへて明治20年まで監獄署に。

(1)佃公園から隅田川、佃大橋方面のながめは抜群、しばし少休憩
石川島解説看板、石川島灯台を再現した公設トイレ

③ 安政元年石川島に水戸藩造船所を開設。跡地は石川島播磨社をへて、現在「大川端リバーシティ21」になっている。

１４）月島もんじゃ街を遠望 —— 地下鉄で「大門」へ移動、バスで辰巳公民館へ

① 月島もんじゃ街＝「もんじゃ焼き」の店が並ぶ町。残念ながらここも遠望だけ。

② 「月島」から地下鉄「大江戸線」乗車、４駅１０分２１０円「大門」下車。Ｂ３出口。

③ 「貿易センタービル駐車場」からバス乗車、湾岸経由、辰巳公民館めざす。

以上

住吉神社の祭りに興奮

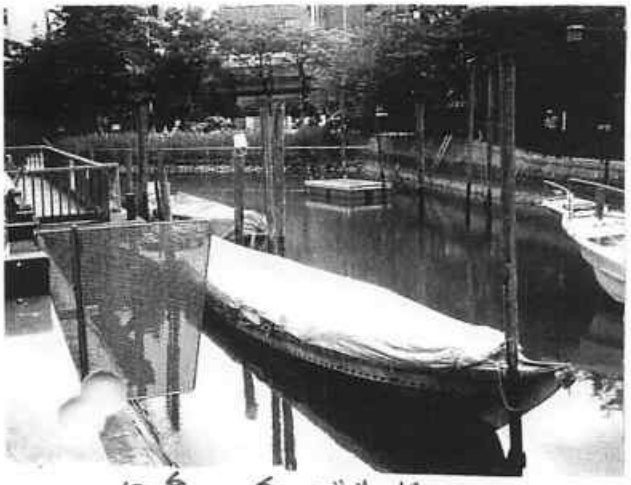
NHK「瞳」撮影終盤 出演者も実際に参加

NHK連続テレビ小説「瞳」で「住吉神社 例大祭」のシーンの撮影をした栄倉奈々（前列中央）ら出演者

NHK連続テレビ小説「瞳」の終盤のクライマックスとなる「住吉神社 例大祭」のシーンの撮影がドラマの舞台の東京・佃であり、栄倉奈々や西田敏行ら出演者が撮影の合間に会見した。

例大祭は三年に一度開かれる勇壮な祭りで、一一四日の期間中に出演者も実際に参加。栄倉は「今まで見てきたものと違って歴史がすごく深い。地元の人も協力的で感動しました」と興奮。みこしを担いだ勇蔵役の安田顕は「歴史を感じる前に物理的に重かった」と語って周囲を笑わせた。

会見には、主人公・瞳（栄倉）が幼いときに家出した父親を演じる勝村政信も出席。今



佃島の舟だまり

住吉神社

小さな祠

フイ だ煮屋さん

もんじゃ街

八幡小学校６年生　社会科校外学習
「やわたむかし写真館」の世界

山岸弘明

みなさんは八幡の町が５０年前まで海水浴や潮干狩りでにぎわった「海の町」だったことを知っていますか。八幡公民館の前の運動公園から先が海で、満潮時は岸壁まで波が押し寄せ、潮が引くと４キロメートルもの干潟（ひがた）が広がりました。八幡の海は波静かで遠浅、東京の小中学校の学校行事などに利用されました。当時八幡中学校グランドだった運動公園は臨時の駐車場に変わり、シーズンになると数十台の観光バスでいっぱいになりました。岸壁から海にせり出して着替えや食事、飲み物、みやげ物を提供する「海の家」が立ち並びました。

＊

「八幡宿」の駅名になぜ「宿」なの？と不思議に思ったみなさんも多いでしょう。八幡宿の江戸時代は海と陸の交通要衝（ようしょう）として発展した市原でもっとも栄えた宿場町でした。市原の内陸部や外房海岸から運ばれてくる年貢（ねんぐ）米の中継基地で、港から「五大力船（ごだいりきせん）」と呼ばれた中型帆船（はんせん）が海路９里（およそ３６㎞）、米や産物を江戸（東京）へ運び、帰り船で生活物資を持ち帰りました。かつて浜本（はもと）地区は「五大力船」の船主たちの本拠で倉が立ち並びました。

南北に走るバス通りは「房総往還（おうかん）」といい、県の南部に城や陣屋を構えた７藩が大名行列の供揃いを整えて通行しました。幕府の政策で八幡から船で直接の江戸入りが認められなかった一般の旅人たちも徒歩で江戸をめざしました。江戸時代も明治維新（いしん）以後も八幡の人たちの生活は決して豊かではなりませんでした。わずかばかりのたんぼで農業のかたわら、のりや貝を採って生活しました。昭和戦前から戦後３０年代にかけての八幡は観光地で、海水浴、潮干狩り、す立て客で賑わいました。

＊

そして昭和３２年八幡は一大転機を迎えます。県が進めた「京葉（けいよう）工業地帯造成計画」に協力、八幡海岸は埋め立てられて進出企業の大型プラントが次々と建設されました。八幡の町はこうして近代工業都市に生まれ代わったのです。つい５０年前まで東京湾に接した小さな港町に、いまはもう潮の香りすらただようことはありません。しかし注意深く八幡の町を観察すると、海水浴や潮干狩りでにぎわった八幡海岸跡、「五大力船」が出入りした八幡港跡や浜本町のただずまいが残り、古い商家造りや蔵、赤レンガのへいがかつての港町をしのばせてくれます。きょうは「むかしやわた写真館の世界」にみなさんをご招待しましょう。

工場街になっている八幡海岸の現況

潮干狩りや海水浴でにぎわう昭和30年ころの八幡海

↓江戸時代の八幡港跡

→海の家のならんだあたり

1）　紹介ビデオ「八幡むかし写真館」（１１分）

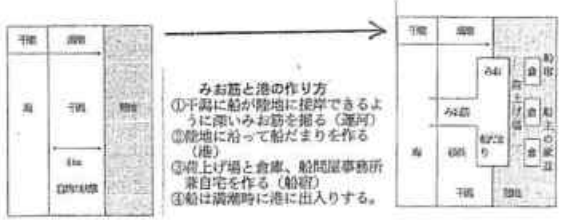
2）　市原最大の物流中心地として発達した江戸時代の八幡
　①　八幡村（江戸後期、天保５年1834）＝
　　米生産高1,403石、家数339軒、人口1,564人
　②　房総往還の市原の入り口。米や産物の集積地。寄場村
　③　市原の五井、姉ケ崎、青柳、椎津５港、最大の港町

3）　「旧房総往還」のバス通りを大名行列が進んだ
　①　八幡を通った大名行列＝館山、勝山、佐貫、飯野、
　　久留里、市原鶴牧水野藩の６藩と一時期五井有馬藩

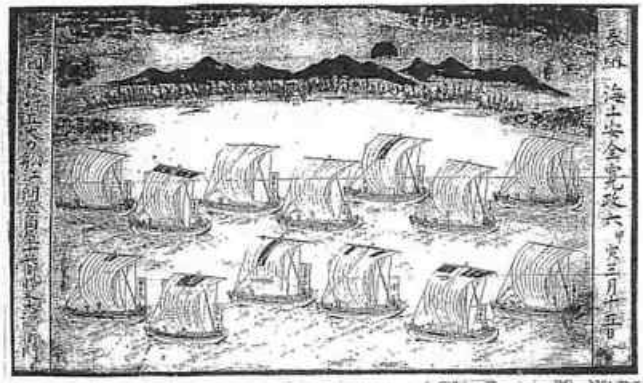
4）　「五大力船」が八幡と江戸の物資を結んだ
　①　五大力船＝海、川両用の中型帆船。帆とろを共有
　　100～300石積み。長さ10～30m
　②　順風だと江戸まで３時間、逆風はろをこいで１昼夜
　③　観音丸、飛鳥丸、弁天丸など。いまでも屋号の家が
　④　年貢米や産物、まき、炭、材木を送り、生活物資を

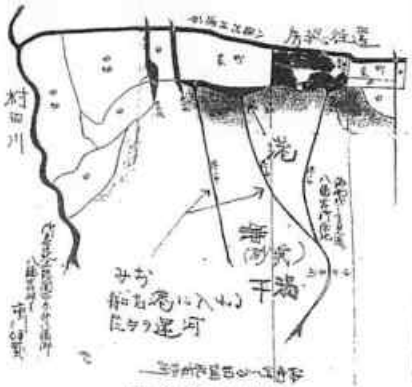
5）　最後の「船乗り」と「帆を上げ下げする滑車」
　①　石橋清三郎さん（91才）が最後の五大力船乗り組み員
　②　代々稲荷丸の船主。帆を上げる「滑車」を保存。

6）　港を開いた「みお」と「みお筋」
　①　干潟に船を通し港を作るための運河と船だまり。
　②　手作業、大変な労力をかけて港を作り保守した。



八幡周辺絵図　↓戦後の八幡町大観

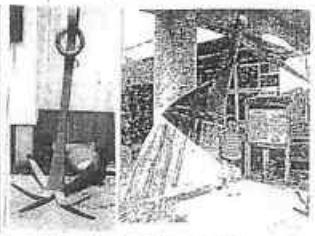




江戸後期の八幡海岸

江戸後期の八幡～江戸航路

五大力船最後の船乗り
石橋清三郎さん



五大力船の部品（左から）石橋さん宅の滑車、丸さん宅のいかり、五井小のかじ

1　八幡公民館の展示物を見学

①　「八幡町大観」（海の町として賑わったころの八幡）
②　大天井絵「四季草花図」（山口達画伯＝八幡出身の日本画家）
③　「むかしやわた写真館」、公民館60年「山口達画伯展」

2　飯香岡橋に移動、八幡海岸と江戸時代の八幡港を観察

①　橋から先が埋め立て地、現在工業地帯。50年前までは海。
　(1)満潮時は岸壁まで海水が押し寄せ、干潮時は４㎞も潮が引いた。
　(2)干満の潮位変化が唯一海とのつながりを証明。潮の香りもない。
②　潮干狩り、海水浴場跡。あまりの変化にもう想像すらできない。
　(1)昔は見渡すかぎりの海、目の前に富士山もみえた。
　(2)埋め立て地一帯が干潟で海水浴や潮干狩り客でいっぱいになった。
③　江戸時代の八幡港、かつて五大力船の母港
　(1)船だまり。みお筋を使って満潮時に出船、満潮時に帰港した。
　(2)明治中ごろ陸側に浜本みおを増設して港を移す。
④　みお筋（時間があれば移動）＝八幡橋の先に続く
⑤　浜本＝かつて「五大力船」の船問屋（船主）が立ち並んだ。

58

平成２０－５－１４　　八幡公民館

八幡公民館の６０年を見つづけた私たちの郷土やわた

協力＝八幡史学館名所百選チーム

八幡公民館とむかしやわた展

20年 9月11日～30日

やわた公民館

ＪＲ八幡宿駅

「市民ギャラリー」

八幡公民館のあゆみ

昭和２３年＝八幡町立公民館として開館
昭和２４年＝第１回全国表彰（文部大臣賞）
昭和３８年＝市制、市原市立八幡公民館となる
昭和４７年＝現在地に新築移転
昭和５１年＝市原市八幡武道館開館
昭和６１年＝体育館などを増設
平成７年＝　八幡宿駅に市民ギャラリーを開設
平成９年＝　サークル登録団体連絡協議会を結成

主な展示品

浅見喜舟先生板書「八幡町建設のうた」
山口達画伯天井絵ほか（写真）「下絵、スケッチ」
八幡公民館のあゆみ
旧公民館の思い出（配置図と写真）
やわたむかし写真館
八幡の歴史散歩（写真）
八幡の古絵図など

大増院 篤姫（あつひめ）

平成２０－９－２４

山岸弘明

女の道は前へ進むしかない。定めにそむき引き返すは恥でございます。 今和泉島津家養育係＝菊本

ＮＨＫ大河ドラマ「篤姫」の江戸城大奥を歩く

辰巳公民館主催事業＊ご案内資料

「篤姫」の夫、13代将軍家定

①江戸後期文政７年（1824）12代将軍家慶の４男に生まれ、兄たちの死で嫡子。父急逝にともない、ペリー来航、攘夷開国の内外争鳴のなか就任。
②病弱で奇行が多く祖父家斉ゆずりのかんしゃく持ち、首を振り体を震わせる妙なくせ。趣味は豆を煮てがちょうを追い回すこと。人前を嫌い、政治は阿部正弘以下の幕閣に委ねられた。
③安政５年（1858）没、毒殺説もある。35才。上野寛永寺葬。墓所は非公開。
④後継将軍は大老井伊直弼の専権で家茂に決まる。しかし家茂も幕末激動の中２年で急死、慶応４年15代将軍慶喜が鳥羽伏見の戦いで敗れ、江戸幕府は崩壊した。

篤姫

13代将軍・徳川家定
文政7（1824）年～安政5（1858）年。２度にわたって公家の姫を御台所に迎えるが、次々に死別。島津斉彬の工作により篤姫を迎えた２年後に死去。（徳川記念財団蔵）

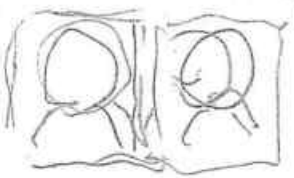
←ドラマの入輿

←年寄 幾島

←夫家定生母 本寿院

←和宮

↑ドラマの婚礼 篤姫（宮崎あおい） 家定（堺雅人）



→14代家茂（左） 15代慶喜

→篤姫付年寄 幾島（松坂慶子）

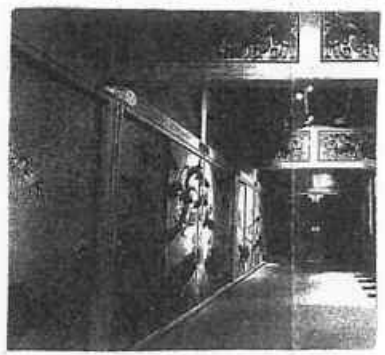
ドラマのセット ↓お錦廊下 ↑新御殿上段の間

激動の時代に生き抜いた尼将軍

１３代将軍家定御台所「篤姫」波瀾万丈の生涯

おかつ→篤姫→天璋院、それぞれのドラマストーリー

①江戸後期天保７年（1836）誕生＝於一（おかつ）
薩摩藩主島津家一門、島津忠剛の娘、鹿児島で生まれる。
②嘉永６年（1853）数え18才、藩主島津斉彬の養女＝篤姫
この年家定が13代将軍に就任するが子は望めず一ツ橋慶喜と紀伊慶福（家茂）の後継争いが始まる。慶喜派の斉彬は大奥対策として篤姫の入奥をめざす。
③安政３年（1856）21才、近衛忠ひろ養女＝敬子（篤姫）
将軍御台所は宮家か五摂家が通例、昵懇の近衛家養女に。
④同年21才、将軍家定御台所（当時遅い結婚）＝
家定は健康にすぐれず、夫婦は名ばかりで子はない。慶喜、紀州両派の後継争いが激化、大奥に権謀が渦巻く。
⑤安政５年23才、結婚２年、夫家定が逝去、落飾＝天璋院
通例なら２の丸へ引退、後継将軍家茂の養母として本丸に止まる。以降大奥の最高責任者として君臨する。
⑥文久２年（1862）27才、家茂に皇女和宮が降嫁。大奥は御所風に反発「嫁しゅうと戦争」が始まる。
⑦朝廷からのクレームで天璋院は２の丸に退去、２年後に家茂が出陣中の大坂で急逝すると、和宮の慶喜に対抗、大奥総意の田安亀之助（家達）擁立をめざす。
⑧慶応４年（1868）の新政府軍江戸進攻では、篤姫と和宮が徳川家の存続に腐心、退城は最後まで反対、開城前日、身一つで一橋邸へ移った。
⑨明治維新以後は徳川宗家を継いだ家達の養育に専念、晩年を家達家族として余生を送った。
⑩明治16年（1883）逝去48才、寛永寺、夫家定の側に眠る。法名は「天璋院従三位敬順貞静大姉」であった。
⑪その生涯は波瀾万丈、与えられた条件の中で自らのすべてを出し切る「篤姫」、私たちに深い感動を伝えながらドラマはいよいよクライマックスへと進みます。



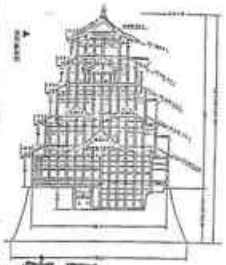
将軍家定と「篤姫」の婚礼
安政３年（1856）12月８日
婚礼の儀（大奥対面所・上段の間）
①白むくの篤姫着席（左向き）
②右大臣正装の家定左から入場
篤姫、向かいあわせに平伏
③三三九度
④祝い膳
⑤二番うちみのお盆こと
⑥三番わたいりのお盆こと
⑦本膳
⑧雑煮三献の式

篤姫ＶＳ皇女・和宮、幕末の動乱に翻弄された２人のヒロインの「婚」…こうしがしい

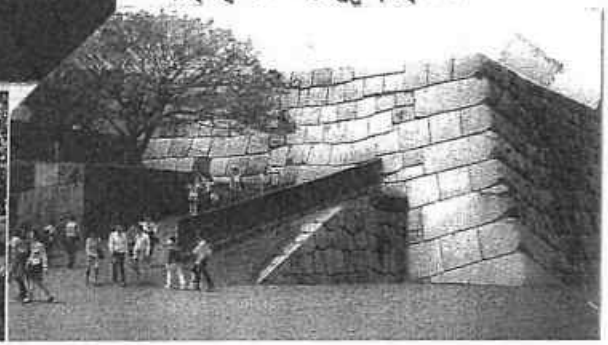
1） 降車地は「篤姫」ゆかりの御三卿邸 —— 北の丸公園第３駐車
① 旧江戸城北の丸。元徳川御三卿、清水家、田安家10万石上屋敷
② 将軍家族待遇。一ツ橋家とともに将軍家万一に備えた予備血統
③ 将軍家茂の養母として大奥にあった「篤姫」は火事を２度体験、文久３年の時、２の丸から１年半ほど清水邸に移る。慶応元年竣工で復帰。
③ 慶応２年、天璋院は次期将軍候補に田安７代亀之助（家達）を擁立、15代は和宮の推す慶喜となるが、幕府崩壊後、静岡70万石再興で実現。
④ 明治４年廃藩置県後、徳川家達が東京に戻ると一緒に暮らし、家達のその後の成長を見守った。
⑤ 江戸開城後の天璋院居所は慶応４年（明治元年）４月一橋邸、７月赤坂邸、明治３年戸山邸、５年赤坂福吉町邸で、明治10年からの千駄ヶ谷邸が最後の地となった。

2） いきなり息を飲む大迫力 —— 北はね橋御門と周辺石垣（現存）
① 江戸城の守り、最大の見どころ。高い石垣に深い濠底、思わず息を呑む迫力。堅固、壮大重厚、権力の象徴。石垣担当者の刻印は「天下普請」の象徴。
② はね橋＝高麗門に引き上げの滑車金具。通常は開かずの門、緊急時に橋を架けた。
③ 銘々「入苑証」を受け取り、皇居東御苑に入る。絶対になくさないこと。

3） けんらん、日本最大の天守閣がそびえた —— 天守台（現存）
① 江戸城のシンボル天守閣跡。慶長11年徳川家康の初代天守は豊臣秀吉の大坂城をしのいで、豊臣家に好意を寄せる諸大名に徳川家の権威をみせつけた。
② 江戸城３つの天守閣ともう２つの天守台（高さに諸説がある）
初代天守閣（慶長12年）家康（秀忠）＝天守台20m、総高さ80m。日本最大
２代〃　（元和８年）秀忠＝天守台13m、総高さ70m。本丸拡大で移築
３代〃　（寛永15年）家光＝天守台13m、総高さ64m。明暦大火で焼失
４代天守台（明暦４年）家綱＝天守台のみ、松平正之の反対で天守閣を建造なし
５代天守台（享保年間）吉宗＝天守台のみ、天守閣建造に至らず。現存
③ 最後の天守閣＝５重６階、小天守。銅瓦葺き入母屋屋根シャチ、飾り破風多数
明暦元年の明暦大火で焼失、以降再建されることはなかった。
④ 現存天守台＝白御影石高さ12.7m。はるばる瀬戸内海の小豆島から運ばれた白石。
しかし自らの「享保の改革」路線に沿って天守閣建設を凍結した。



天守台と天守閣図



→北はね橋門

後宮３０００人＝男子禁制、将軍１人のための花園

4） ３０００人の女たちの夢ものがたり「大奥」 —— いま洋風庭園と広場に
① まず全体像を把握しよう。本丸建物11,000坪のうち、およそ6,000坪が大奥。
幕府経費のおよそ３分の２を消費、苦しい将軍家財政をさらに圧迫した。
② 最後の大奥（本丸御殿）は万延元年建造、４年後の文久３年焼失、放火や将軍毒殺の噂が流布。家茂は枕を高く眠れない。食事は紀伊から従った老女が作った。
幕府は本丸の再建をあきらめ、西の丸仮御殿へ本丸機構を移した。
③ テレビ、映画にかかせない将軍家ハーレム。時に幕閣、諸大名を巻き込んだ後継争いが繰り替えされた。深慮策謀渦巻く「女の戦い」の舞台。
④ 中奥との境は銅塀で厳重に区切られ、将軍専用の２本のお鈴廊下だけが繋いだ。
⑤ 常時500人～3,000人の女性たちが起居、文字どおり「大奥」女の園。
⑥ 11代将軍家斉＝大奥での豪奢な生活を享楽、16人の側室に54人の子女を産ませたが過半数が夭逝、成人者にも身体や精神面でのやや異常者も多かったという。
⑦ 家定の父家慶も27人の子福者、しかし大半が早世して、家定以外の男子は18才までに全滅。血筋説のほか、大奥独特の乳母のおしろい鉛を指摘する研究者もある。

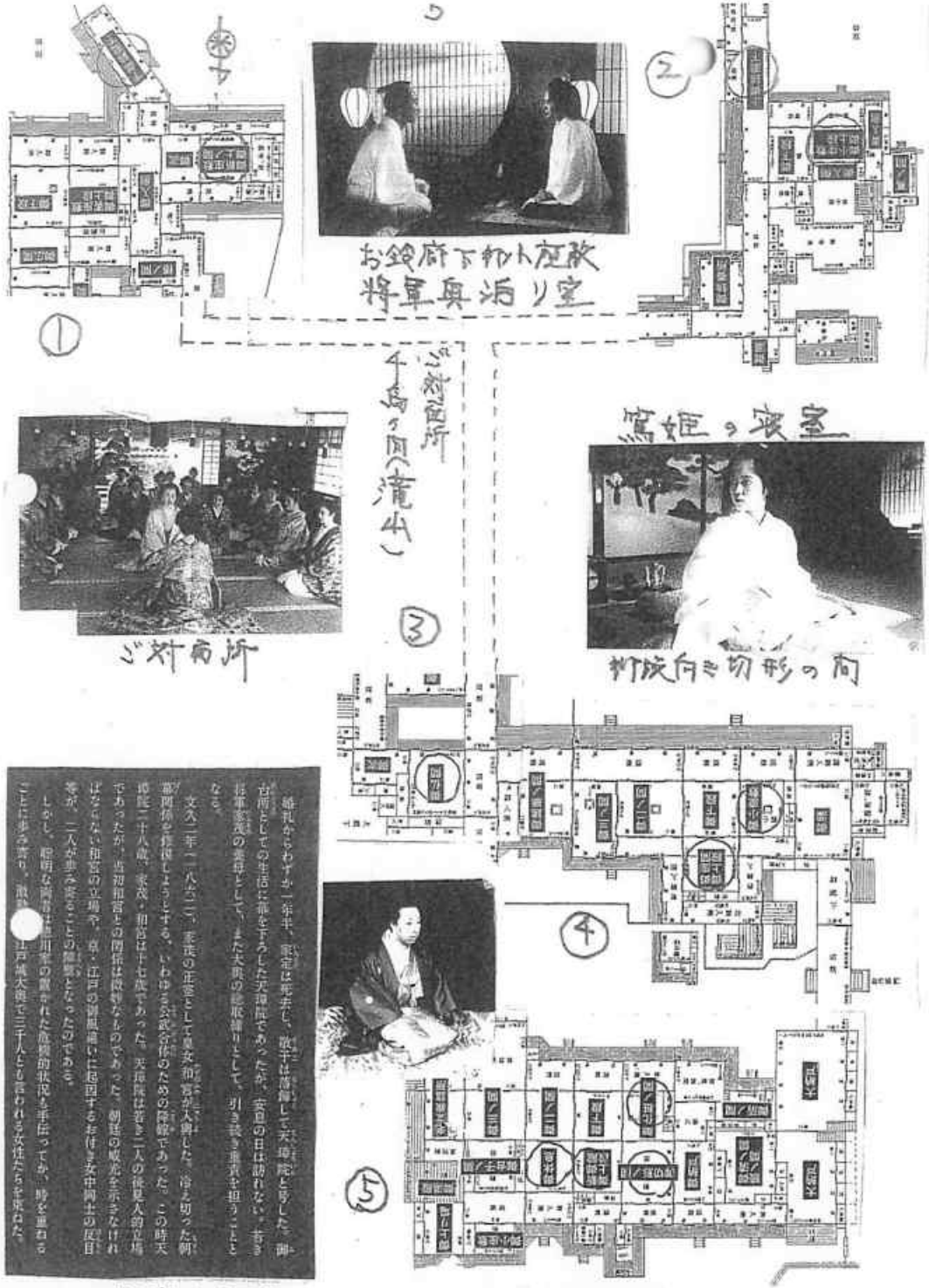
5） 将軍はお鈴廊下から、「篤姫」は切形の間で眠り、新御殿で生活 —— 現地で解説
① 長局向き跡＝側室と大奥女中居住。１の側、２の側、３の側、４の側、横側
１の側は側室、１のお部屋様、２のお部屋様……定員は部屋の数の９人
② 広敷向き跡＝大奥役人（ここだけは男）の執務所。
③ 「篤姫」と和宮の入輿はいったん広敷向きを経由して、大奥に迎えられた。
④ 下お鈴廊下跡＝予備の連絡通路、側室への奥入りの時利用ともいう。
⑤ 新座敷跡＝はじめ家定生母・本寿院居所、文久２年、和宮の入輿で御殿向きを和宮に譲った「篤姫」が移り住む。上段の間が寝室兼居間、客座敷上段の間が将軍家茂夫妻との対面所、和宮との初対面で、席位置と座布団、みやげの敬称をめぐってひともん着があり「嫁しゅうとバトル」の発端となった。
⑥ お鈴廊下跡＝文字どおり将軍以外男子禁制の連絡通路。鈴の音を合図に開閉した。
⑦ 総ぶれ＝毎朝四つ（10時）、お目見え以上の大奥女性がお鈴廊下の畳廊下に居並ぶ中を将軍が通り抜ける、大奥の象徴的シーン。御台所は大奥幹部を従えて小座敷に迎え、夫妻が御仏前の間で先祖の位牌を拝礼した。「篤姫」が新座敷に退いた後は、家茂はまず「篤姫」に挨拶して総ぶれに向かった。
⑧ 奥泊まりは６時までに予約、思いつきはだめ。寝室は御小座敷上段の間へ。
おねだりのないようお伽の者が添い寝をしながら監視、翌朝詳細な結果を報告した。
⑨ 御殿向き跡＝御座の間、上段の間は公式謁見、御小座敷や対面所は内輪で。
⑩ 普段は新御殿で生活。切形の間は寝所、上段の間、休息の間、化粧の間など。
⑪ 火災緊急用石室（現存）

↑お鈴廊下

↑下お鈴廊下から天守台を望む

大奥跡

←五目時



婚礼からわずか一年半、家定は死去し、敬子は落髪して天璋院と号した。御台所としての生活に幕をとじた天璋院であったが、実質の日は訪れない。若き将軍家茂の妻母として、また大奥の総取締りとして、引き続き重責を担うこととなる。

文久二年（一八六二）、家茂の正室として皇女和宮が入輿した。冷え切った朝幕関係を修復しようとする、いわゆる公武合体のための降嫁であった。この時天璋院二十八歳、家茂・和宮は十七歳であった。天璋院は若き二人の後見人的立場であったが、当初和宮との関係は微妙なものであった。朝廷の威光を示さなければならない和宮の立場や、京・江戸の習慣違いに起因するお付き女中同士の反目等が、二人が歩み寄ることの障壁となったのである。

しかし、聡明な両者は徳川家の置かれた危機的状況も手伝ってか、時を重ねるごとに歩み寄り、激動の江戸城大奥で三千人とも言われる女性たちを束ねた。

俗世と隔絶、けんらんたる密室「大奥」

5） 大奥女性たちが[illegible]を流した連絡通路 —— 梅林坂をくだる

① 桃華楽堂＝音楽[illegible]きだった昭和皇后の還暦を記念、昭和41年に建てられた音楽堂。
② 楽部＝宮中雅楽の教育、伝承機関。明治３年旧幕紅葉山楽人などを統合。
③ 書陵部＝明治17年宮内庁図書寮として創建、旧幕紅葉山文庫などを保管している。
④ 梅林坂＝大奥女性たちの通路、春日局らもこの坂を登った。太田道灌以来の梅林で春は紅白の梅花が咲き誇る。観梅名所としても有名
⑤ ３の丸＝現在は馬場、宮内庁病院など。江戸時代の一時期３の丸御殿、将軍綱吉の生母桂昌院も住んだ。

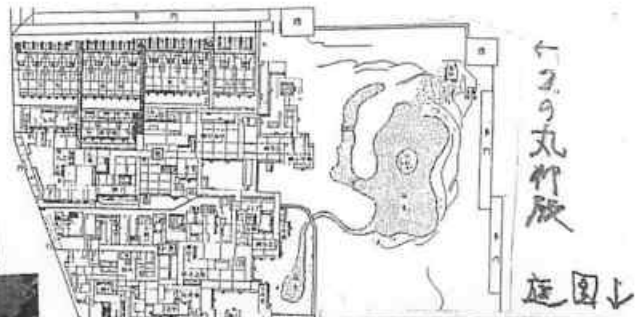
6） 「篤姫」の輿入れ行列は６キロにも —— 威厳の平川門（時間なければ省略）

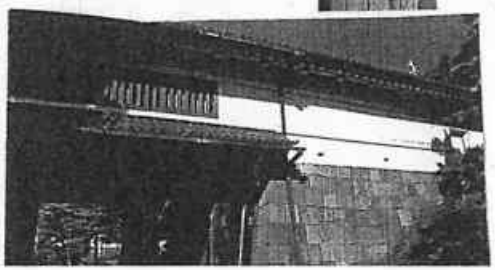
① いったん「入苑証」を返し、再び入苑する。
② 平川門＝３の丸御殿の正門兼大奥通用門、大手門とならぶ江戸城主郭虎口。
③ 慶長11年、寛永12年構築。明治維新後升形を撤去、昭和33年東御苑開苑にあたって復元。大手門など江戸城すべての門が同じ。きょうは内側から外へ進む。
④ 渡櫓門＝両側に石垣、上に渡櫓。１階は通路、２階は武器倉庫で緊急時は射場。見どころは巨大な柱と梁、石垣、しゃち、がんぎ坂。二引きは源氏棟梁の印し。
⑤ 升形＝虎口の守り。石垣に囲まれた方形の空間。周囲の狭間から弓鉄砲を射かけた。
⑥ 不浄門＝罪をえた浅野内匠頭や絵島はここから罪人駕籠で搬出された。
⑦ 高麗門、木橋、擬宝珠年号
⑧ 安政３年11月11日晴れ、渋谷薩摩藩邸を出立した「篤姫」の婚礼行列は日比谷御門からいまの日比谷通りを進み、大手門を越え平川門から江戸城内へ入った。距離およそ６㎞、先頭が城に着いたころ行列の最後はまだ渋谷を出発できずにいた。
⑨ 152年前にタイムスリップ「篤姫」輿入れ行列の最後のコースを進む。
⑩ 塩見坂＝江戸湾が見渡せた坂。「篤姫」は輿でこの坂を登って大奥広敷玄関に進んだ。

7） ２の丸御殿跡と２の丸庭園（自由見学） —— 昼食（集合時間と場所＝厳守）

① ２の丸＝将軍世子居城。ときに臨時本丸や別荘、一時「篤姫」も居住している。
② 表御殿、奥御殿、庭園。たび重なる火災焼失で６度建造された。
最後の２の丸御殿は慶応元年再建、２年後の慶応３年に焼け、４か月後に江戸開城となった。
③ 現在の庭園は２の丸全盛期の寛永時代を模して復元された。池泉周辺で昼食。
④ 元気な方は休息時間に２の丸庭園を自由見学してください。
⑤ 「篤姫」ものがたりはここまで。午後は江戸城の「諸大名登城コース」で本丸御殿めざす。

梅林坂





8） 午後は大名気分、本丸めざして登城開始 —— 本丸石垣と大手門跡

① 白鳥濠＝まずは水濠から。江戸はじめころもっと広く、家光が濠の中に水舞台を作って能を楽しんだ。

② 本丸石垣＝高さおよそ30mの高石垣が続く。慶長９～12年の第１期工事で完成。その後の積み直しで、どこまでが当時の石垣かは不詳。

③ 打ち込みハギ＝あら加工した石材を積み上げ、隙間に小石を挟む。慶長～元和期の最先端石組技術。

④ 算木組＝コーナー部分の石組方法。長方形の大石を縦横交互に積み上げる。石垣は角石の積み方がポイント。２ツ石、２ツ半石。ベストは大坂城の３ツ石。

⑤ 銅門＝かつて升形門、２の丸御殿の正門、門扉の銅板が門名に

⑥ 大手３の門＝きょうは逆コース。諸大名登城コースはこの先の大手門から入城。２つ目（本丸から３つ目）の門。人別改め、以後は限られた人だけが入れる。

⑦ 百人番所＝３の門の大番所。城内最大の警固ポイント。甲賀、根来、伊賀、二十五騎組の４組、各与力20、同心100人交代勤務。長さ50m。かつて周辺は石垣上に櫓、多聞が立ち並んで登城者を威圧した。

9） 巨石は伊豆と瀬戸内小豆島から石船で運んだ —— 石材展示と中の御門跡

① 展示コーナー＝平成17年の解体修復工事の残石を展示
黒石＝主に江戸はじめ伊豆半島東海岸早川などの石切り丁場で採石したもの。
白石＝江戸中期に香川県小豆島石切り丁場から採石したもの。

② 巨大な石垣は２の丸の間仕切り門。江戸城主要城門唯一の形式。

③ 巨石に注目。江戸城最大規模の石材。門下の石畳も当時のまま、柱穴摶（せん）も。切込みハギ＝精密加工した石材を積み上げる。元和以降の石組方法。

１０） １万両を盗み出して富山で御用 —— 幕府金蔵跡（遠望）

① 何百万両ともいわれた幕府の大判、小判、金塊を保管。奥金蔵と２か所。江戸開城時はほぼゼロ？小栗上野介が持ち出したとする埋蔵金伝説が各地にある。

② 厳重な警固体制。破られることなどありえないはずの金蔵に盗賊が入る。江戸後期安政２年、太平に安穏、警備も形骸化。２人組盗賊が未使用小判１万両を盗み出す。うち４千両城外、６千両は濠へ廃棄。犯人は２年後富山で捕縛、江戸で獄門ハリツケに。

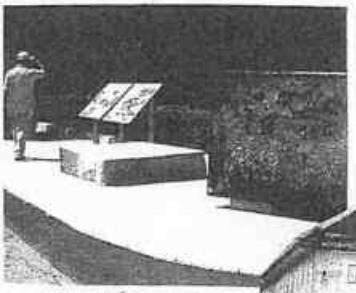
１１） 最後の門石は火災跡も生々しい —— 書院前御門跡（中雀御門）

① 中の御門から内側は本丸帯曲輪、登り坂にそって進むと江戸城最後の城門、本丸正門に出る。

② 登石段、高麗門、内枡形右折れ、渡櫓門（19×４間）、御書院櫓（２重）、書院出櫓（２重）、続き多聞櫓。古写真が当時の威容を伝える。

③ 火勢にあぶられ黒ずみ欠けた石垣。文久３年の本丸火災跡。

④ 書院番士ら出迎えの中を大名たちは玄関へ進む。



石材の展示コーナー

↓中の御門古写真

書院前門古写真

１２） 幕府権威の象徴、諸大名が平伏 —— 本丸殿舎、大広間は夢のまた夢

① 目前の広い芝生広場は本丸跡。ここに表向き、中奥、大奥３万㎡、宏壮な本丸殿舎が連なった。

② 本丸殿舎＝江戸城の中心。初代家康から14代将軍家茂までの居城。
総建坪　１万１千坪　　中奥（将軍官邸）　２千坪
表向き（政庁）　３千坪　　大奥（御台所、側室居所）６千坪

③ 玄関、遠侍、台所、大広間、白書院、黒書院、中奥、大奥などを廊下で結んだ。火災起きたら全焼。５回焼失建造は７回、主要図面は現存。毎回踏襲し変化少ない。

④ 弘化２年度造営経費１70万両。最後の本丸御殿は文久３年焼失、予算なく再建できない。幕末５年間は西の丸仮本丸で代行。

⑤ 大広間跡＝本丸碑。上段の間、中段の間、下段の間。権威の演出舞台でもあった。

１３） 歴代将軍が富士山や両国花火を眺めた —— 富士見櫓（一部現存材復元）

① 明暦大火で天守閣焼失後の代理天守閣。歴代将軍はこの櫓に登って、富士山や江戸湾、両国の花火などを眺めた。

② 江戸後期15櫓の１つ。最盛期は本丸だけで15、すべて30基もあった。

③ 説明パネル写真は西の丸側櫓台下一般参賀のコースから。みえない裏側は飾り破風のない御三階櫓。表裏での違いを実感。

④ 慶長11年、石垣は加藤清正構築。３重櫓。維新後も残ったが関東大震災で倒壊。

１４） 浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷 —— おなじみ松の大廊下跡

① 元禄14年３月14日、浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷した元禄赤穂浪士事件の発端。

② 大広間と白書院を結ぶ畳廊下。２間半巾、ぬれ縁。内側は庭園、外側は三家溜の間など。襖に松の絵を描いて廊下の名前に。

③ 刃傷事件＝合計４件。老中井上正就、大老堀田正俊、田沼意次の子意知、いずれも即死。浅野内匠頭だけが失敗、成功していれば義士の討入りもないことになる。

１５） 再び「篤姫」の待つ大奥跡へ —— 時間あれば自由行動

① 富士見多聞＝年賀の一般参賀コースから見上げる多聞櫓の反対側。本丸には多聞櫓が連なった。多聞＝内部を武器庫にした塀。緊急時は庫内から弓鉄砲を射かける。

② 自由行動＝「篤姫」に思いはせるもよし、元気なら本丸展望台へ。

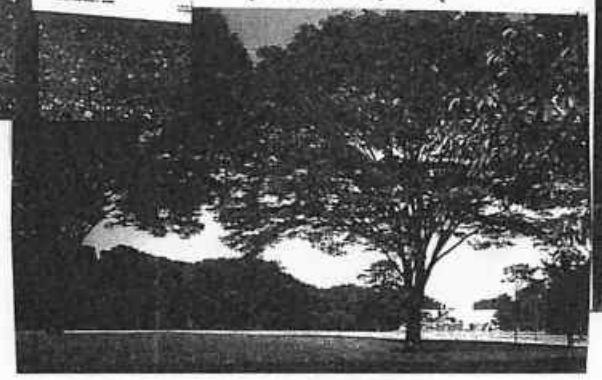
１６） 北の丸公園からバス乗車、市原をめざす

① きょうのバス研修は大河ドラマ「篤姫」ものがたりを中心に、江戸城をご案内しました。いかがでしたでしょうか。またお会いできる日を楽しみにしています。

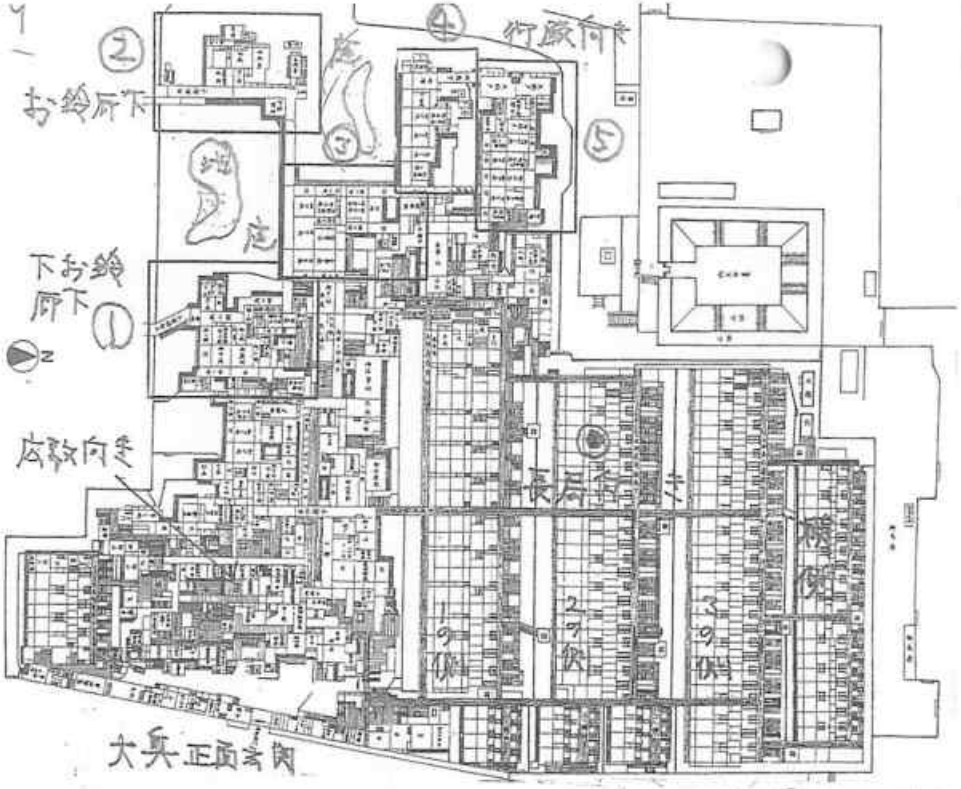
② 江戸城を後に一路、辰巳公民館をめざします。

←松の大廊下跡

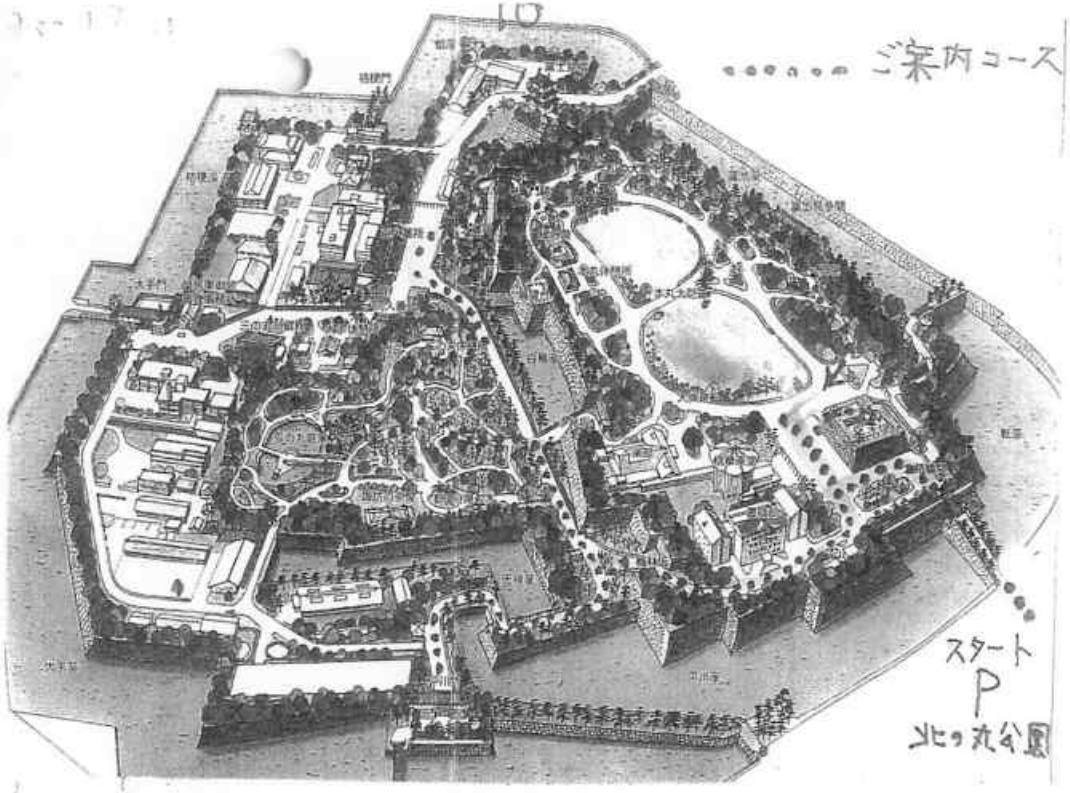
↓本丸御殿古写真



富士見櫓



← 大奥全図（江戸後期）



将軍と御台所の一日（おおむね）

	将軍（中奥）	御台所（大奥）
6時（明け六つ）		
7時	起床、洗面	起床、洗面
8時（五つ）	診察	入浴、朝食、化粧
9時	礼拝、朝食	礼拝、化粧直し、召し替え
10時（四つ）	朝の総ぶれ	朝の総ぶれ、お昼召し替え
11時	幕閣と面談	
12時（三つ）	昼食	昼食
13時	公務	対面
14時（八つ）	奥入り	将軍と歓談
15時		
16時（七つ）	入浴、夕食	
17時		
18時（暮れ六つ）		召し替え、夕食
19時		
20時（五つ）	夜の総ぶれ	夜の総ぶれ
21時	就寝	お寝召し、就寝

江戸城内での「篤姫」居所の変遷

安政3年（1856）11月11日＝江戸城入輿、本丸大奥
〃　6年（1859）10月17日＝本丸焼失、西の丸へ
万延元年（1860）11月9日＝本丸再建、大奥へ戻る
文久2年（1862）＝和宮と確執、2の丸に移る
〃　3年（1863）11月15日＝本丸、2の丸焼失、清水邸へ
慶応元年（1865）4月29日＝2の丸へ
〃　3年（1867）12月23日＝2の丸焼失、西の丸へ
〃　4年（1868）4月10日＝江戸開城前日、一橋邸へ

→ 薩摩桜島の桜島の絵

篤姫の肖像絵画

徳川家康

寛永寺の篤姫墓

日本最大の城、幕府政治の中心地＝江戸城

① 徳川家康～慶喜270年、15将軍が君臨した日本の首都、わが国最大の大城郭。
② 3つの顔を持つ＝厳粛の大手、戦うからめ手、柔和な西の丸。
③ 火事との戦い、本丸7回建造、天守閣4度めは立たず。
④ 本丸大広間は将軍権威の演出場、上段の間から諸大名を謁見。
⑤ 将軍の使命は種（しゅ）の保存、権謀渦巻く大奥ハーレム。

辰巳公民館
バス研修行程表

平成20-9-24
トホ3Km 7千歩

公 辰巳公民館 16.30着 (4.5)

PA 幕張 トイレ

レインボーブリッジ 湾岸

P 貿易センタービル駐車場 15.00出発

B3出口スグ

駅のトイレ

4 大門降車 14.40

3 汐どめ

2 築地市場 しじょう

1 勝どき

大シエ 千駅10 210円

P 築地市場橋駐車場 10.20着 10.30スタート
トイレ 少ない 20分位 築地本願寺探める

通り抜け

みどころ3① 多い トイレ

みどころ3② 10.50~11.00

11.10~20

みどころ3③

11.35 治作

トイレ

昼食 11.50~12.50

展望台 13.00~20

みどころ3④⑤

川巾 230m

みどころ3⑥

13.50~14.00

みどころ3⑦ 小休止

トイレ多 小休止 14.10~25

佃島 住吉神社 14.30~45

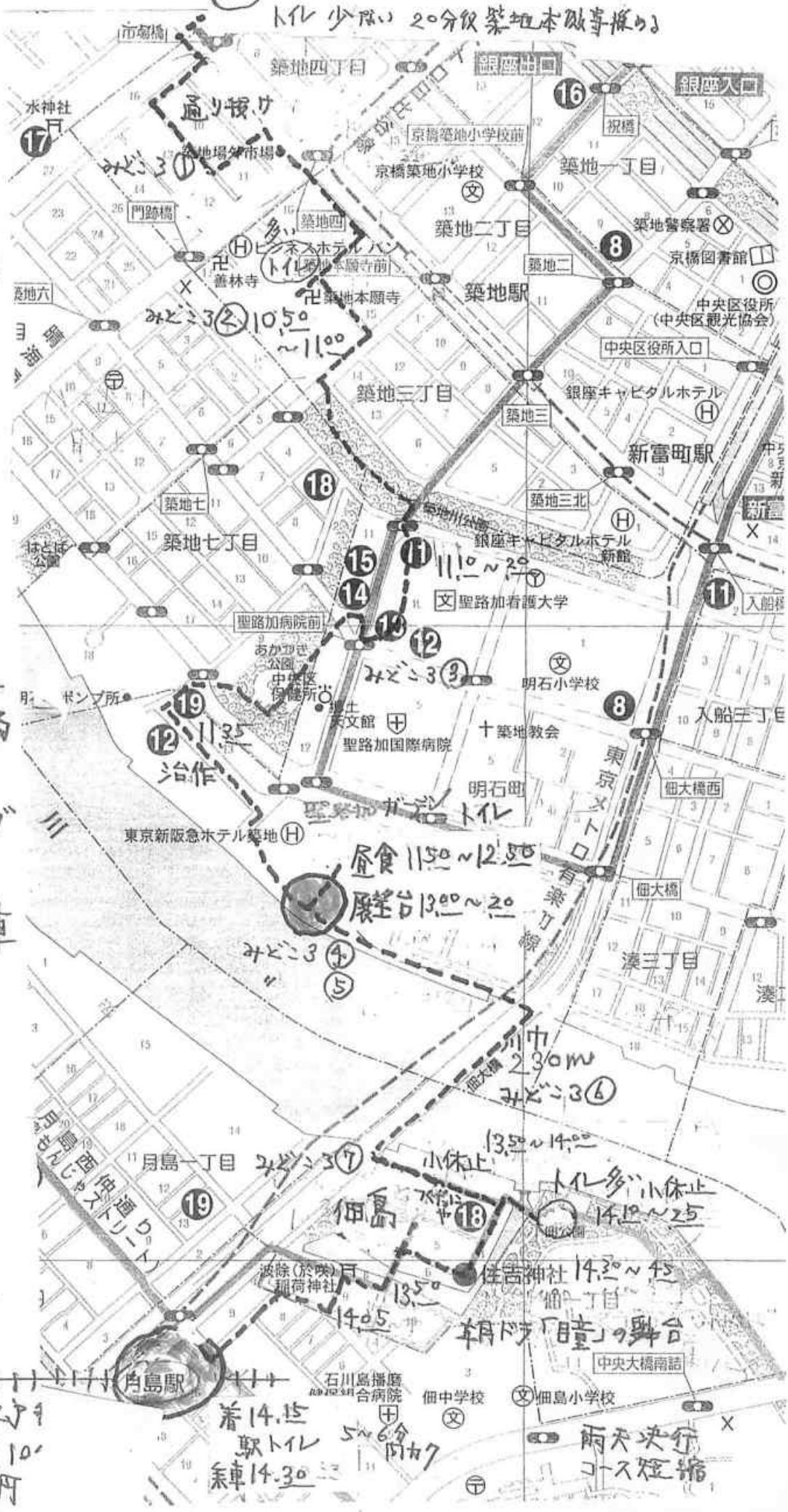
13.50 14.05

本月ドラ「瞳」の舞台

月島駅 着14.15 駅トイレ 乗車14.30

5~6分 門カク

雨天決行 コース短縮



八幡公民館創立６０周年記念展示会

平成２０年９月３０日

名称	八幡公民館とやわたむかし展	
キャッチコピー	八幡公民館の６０年を見つづけた私たちの郷土やわた	
主催	八幡公民館	協力＝八幡史学館名所百選チーム（代表兼ＡＤ＝山岸弘明）
期日	平成２０年９月１１日（木曜日）～３０日（火曜日）	
会場	ＪＲ八幡宿駅＜市民ギャラリー＞	
作業部会	７月12日、８月11、12、19、29日、９月９日、搬入＝９月10日、搬出＝30日	
説明員	名所百選チームで随時説明員を配備	
主な展示品	①創立60周年メッセージコピー ②公民館のあゆみ、復元間取り図と古写真にみる旧公民館の思い出 ③公民館所蔵＝ゆかりの浅見喜舟先生「やわた発展の歌」「座右銘」板書 ④公民館所蔵＝ゆかりの山口達画伯「天井絵」写真ほかと下絵デッサン ⑤やわたむかし写真館、八幡歴史散歩、古絵図にみる八幡のあゆみなど	
結果報告と考察	①この種展示会としては異例の人だかりが続いた。高い関心、好評裡に終了 ②公民館古写真、喜舟先生板書、八幡むかし写真館、歴史散歩に人気 ③八幡の昔を懐かしむ人、一方新住民は海があった生活に驚きの声が多かった ④少なくとも5,000人以上が足を止めて見学したものと考えられる ⑤感動受けたなどの謝辞も。今後もこうした企画を開催してゆきたい	

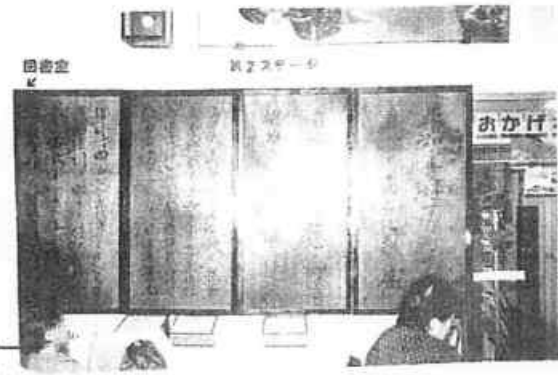
ポスターおよび写真

八幡公民館創立６０周年記念文化祭

平成２０年１０月１２日

名称	公民館創立６０周年記念＊八幡公民館文化祭		
期日	平成２０年１０月１１日（土曜日）～１２日（日曜日）		
主催	八幡公民館登録団体連絡協議会	会場	八幡公民館
趣旨 ＊ ６０年のあゆみ	八幡公民館は終戦直後の昭和２３年、八幡町のシンボルとして町、議会、町の人たち総出のボランティアで創立、郷土復興、町起こしに取り組んだ活動が評価され全国第１回の「文部大臣賞」も受賞している。以後「地域文化の殿堂」としての役割をはたしつつ迎えた創立６０周年を記念。		
文化祭 項目	①６０周年企画１＝おかげさまで６０年＊八幡公民館とやわた展 ②〃　　２＝谷川智恵子歌謡ショー ③サークル展示会、サークル発表会、主催事業作品展示 ④地元小学生、幼稚園、保育園児童作品展示ほか		
公民館とやわた展内容	主催＝八幡公民館、協力＝八幡史学館名所百選チーム		
	第１ステージ＝メッセージコピー、八幡公民館の６０年を見つづけたやわた 第２ステージ＝公民館ゆかりの山口画伯作品、浅見喜船先生板書 第３ステージ＝公民館の６０年写真展、むかし八幡写真館、山口達画伯展 第４ステージ＝おかげさまで６０年、公民館の６０年など		
結果考察	①好評だった＜駅ギャラリー＞展示を文化祭にアレンジ ②反省点＝会場が分散、トータルコーディネートに若干の無理があった ③第３ステージは従来からの展示、人気コーナーであり引き続き展示する		

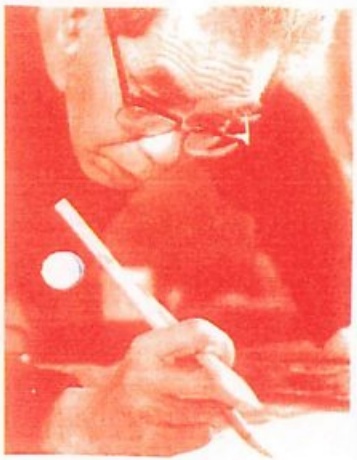
写真



八幡稱念寺　市原市八幡１４３６

入場＝無料
協力　八幡史学館名所百景チーム

「山口達画伯」収蔵作品展



平成２０年　９月２１、２３日
日曜日　秋分の日

１０時～１６時　２２日は休み

法事により一部時間変更することがあります

山口達画伯（やまぐちたつし＝１９０７～１９９１）昭和の戦前、戦後期、八幡を拠点に活躍された著名日本画家。福岡県に生まれ、東京芸大卒業後、市原中学校（現高校）教員、千葉大学教授として多くの逸材を送り出されました

稱念寺の先々代住職とはとくに親しく、生前、本堂天井絵、襖絵、額装絵、袈裟絵、紙芝居風絵巻物など４０点余りを寄贈されました。稱念寺は「山口達記念館」ともいえます。今般、ご住職のご厚意で、普段非公開の山口作品を一般公開します

同時開催＝八幡公民館とやわたむかし展
９月１１日～３０日＝八幡宿町市民ギャラリー

市原市八幡公民館